



Cisco Vision アドミニストレーション ガイド

Dynamic Signage Director

リリース 6.4

最終更新日: 2021 年 7 月 21 日

初版: 2021 年 6 月 11 日

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、この参照により本書に組み込まれます。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティングシステムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、Cisco およびその供給者は、このマニュアルに適用できるまたは適用できないことによって、発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性が Cisco またはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

このドキュメントのすべての印刷版と複製ソフトは管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

Cisco は世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

©2021 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



Contents

このマニュアルについて	9
マニュアルの変更履歴	9
マニュアルの構成	10
関連資料およびリソース	10
Cisco Vision Dynamic Signage Director オンプレミス アーキテクチャの概要	11
標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワーク アーキテクチャ	11
Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーの冗長性	12
Cisco Vision Dynamic Signage Director の集中型ネットワーク アーキテクチャ	14
階層管理	14
仮想サーバーのサポート	15
Cisco Vision Director サーバー システムの設定	17
サーバー展開オプション	17
目次	19
Cisco Vision Director サーバー システムの設定に必要な前提条件	19
Cisco Vision Directorサーバー システムの設定方法	19
新しい DSD のフル ISO インストール:必須	20
完全な ISO インストール後に行うシステム設定の初期設定	23
ネットワーク情報の設定	23
ホスト ファイルの編集	25
サーバーでのネットワーク サービスの再起動	26
SSL 証明書の生成	26
DMP 証明書のインポート	27
Dynamic Signage Director (DSD) 証明書のインポート	28
Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定	28
Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件	29
Cisco Vision Director サーバでの NTP を使用したシステム日時の設定	30
Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動	34
手動による日時の設定	34
Digital Media Player での NTP と PTP の設定	35
Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定	39
Cisco Vision Director でのマルチキャスト サポートについて	40
Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定に必要な前提条件	43
Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定方法	44

スクリプトごとのマルチキャスト設定のトラブルシューティング	47
DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャスト サポートの 設定	48
Cisco Vision Director で SNMP を有効にする方法	49
DMP での SNMP の有効化	50
ディレクターからの外部サーバーへの Syslog サポートの有効化	51
DMP での Syslog サポート	53
ディレクターの管理情報ベース (MIB) 変数	55
次の作業	56
複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定	57
目次	57
複数施設サポートの設定に必要な前提条件	57
複数施設サポートの設定に関する制約事項	57
複数施設サポートの設定について	59
複数施設の階層管理を行うためのロールベース アクセスコントロール	59
管理者 (Administrator)	59
コンテンツ マネージャ (Content Manager)	60
施設管理者 (Venue Administrator)	60
施設オペレータ (Venue Operator)	60
施設の関連付けについて	60
複数施設環境におけるスクリプトとステージングの動作について	61
スクリプトに関するベスト プラクティス	61
スクリプトのステージング動作	61
複数施設サポートの設定方法	61
Cisco Vision Dynamic Signage Director での複数施設サポートの有効化	62
Cisco Vision Dynamic Signage Director への施設の追加	63
施設と Cisco Vision Dynamic Signage Director オブジェクトとの関連付け	64
施設の関連付けに関するガイドライン	64
施設の関連付けの手順	65
施設の関連付けが競合する場合のトラブルシューティング	66
Cisco Vision Dynamic Signage Director からの施設の削除	67
施設スコープの選択	67
システムステータスからの施設のモニタリング	68
展開済みデバイスを 1 つの施設システムから複数の施設システムへ移行する方法	68
前提条件	69
元の設定用のデバイス リストのエクスポート	70
新しい施設の作成	70
既存のグループからのすべてのロケーションの削除	70
既存のスイートからのロケーションの削除	71
施設への最初のロケーションの関連付け	71
施設固有の情報の設定と BAT を使用したロケーションの関連付け	71
新しいデバイス リストのグループ情報の設定	72

Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのシステム アカウント	73
目次	73
システム アカウントに関する情報	73
よく使用するシステム アカウント	74
新しいパスワード ポリシー	75
アップグレード後のパスワード	76
新規インストール後のパスワード	76
DMP 管理者パスワード	76
その他のシステム アカウント	76
ブラウザ インспекタの有効化/無効化	76
TAC ユーザの有効化/無効化	77
TAC ユーザーによって作成されたすべてのユーザーの有効化/無効化	78
リモート アクセス (SSH) による特権アカウントの有効化/無効化	79
システム アカウントのパスワードの変更方法	80
Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザ管理	81
ユーザ管理について	81
管理者 (Administrator) ロールの概要	81
RBAC ロールの概要	82
ロールによるアクセスの概要	84
Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元	87
目次	87
Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元に必要な前提条件	87
Cisco Vision Director サーバーのバックアップおよび復元に関する制約事項	88
Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元に関する情報	88
バックアップ環境	88
バックアップされる Cisco Vision Director のデータ	89
ディスクのストレージとメンテナンス	89
環境の復元	89
Cisco Vision Director サーバのバックアップ方法	89
セカンダリ サーバーでのバックアップ アカウントの有効化	90
自動バックアップおよび復元を行うためのプライマリ サーバーの設定	90
前提条件	91
定期バックアップのスケジュール設定	93
手動操作によるバックアップの即時実行	94
バックアップ完了の検証	95
バックアップ ファイルが存在することの確認	95
ログ ファイル中でのバックアップ エラーの特定	95
保持するバックアップ ファイル数の変更	96

Cisco Vision Director サーバの復元方法	97
手動操作による復元の即時実行	97
Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動	98
冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定	99
目次	99
冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件	99
冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項	100
冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーについて	100
スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法	101
セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定	101
バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元	102
サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウン	102
セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン	103
セカンダリ サーバの IP アドレスの変更	103
前提条件	103
手順	103
セカンダリ サーバでのネットワーク サービスの再起動	105
セカンダリ サーバへのネットワーク 接続の確認	106
スイッチの ARP キャッシュのクリア	106
セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動	106
セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認	107
プライマリ サーバをアクティブに復元する方法	107
プライマリサーバをアクティブとして復元するための前提条件	108
セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動	108
セカンダリ サーバの IP アドレスの変更	108
前提条件	108
セカンダリ サーバのネットワーク 接続の確認	108
元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定	109
プライマリ サーバへのネットワーク 接続の確認	109
バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリサーバの復元	110
Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動	110
元のプライマリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認	110
プライマリ サーバ ソフトウェアのアップグレード	111
アップグレード後のバックアップ環境の再設定	111
Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバのテキストベースのユーザー インターフェイス	113
目次	113
TUI に関する情報	113

TUI メニューの概要	113
TUI インターフェイスの操作	116
メニュー ナビゲーション	116
ファイル エディタ	116
TUI の使用方法	117
TUI へのログイン	117
システム情報の表示	118
TUI の終了	118
関連資料	119
システム状態レポート	121
システム状態レポートに関する情報	121
システム状態レポートの実行方法	122
システム状態レポートの手動実行	122
システム状態レポートのスケジュール設定	123
レポートの表示	123
スケジュール設定済みレポートと以前のレポートの表示	123
Zip ファイルの内容の表示	124



このマニュアルについて

このマニュアルでは、Cisco Vision Dynamic Signage Director システムの設定や維持に必要な作業について説明します。

このマニュアルの内容は、Cisco Vision ソリューションの設計および導入を担当する Cisco Vision システム管理者および技術分野のエンジニアを対象にしています。読者には、ごく単純なシナリオにおける基本的な IP ネットワーク、Power over Ethernet、マルチキャスト、および仮想サーバー環境についての知識が求められます。

Cisco Vision Dynamic Signage Director のドキュメントでは、「マスター」という用語を「リード、リーダー、またはプライマリ」、「スレーブ」という用語を「セカンダリ」、「ホワイトリスト」という用語を「許可リスト」、「ブラックリスト」という用語を「ブロックリスト」という用語に変更しました。現在、製品の構文に変更はないため、これらの用語は、現在のコードで使用する必要があるドキュメントにはまだ存在しています。IEEE の用語など、業界標準が存在する場合は、標準が変更されるまで用語を変更できません。

マニュアルの変更履歴

表 1 に、初版後、このマニュアルに加えられた技術的な変更の履歴を示します。

表 1 マニュアルの変更履歴

日付	変更点
最終更新日: 2021 年 7 月 21 日	MIB コンテンツがこのドキュメントに追加されました。 ディレクターの管理情報ベース (MIB) 変数 (55 ページ) を参照してください。
初版: 2021 年 6 月 11 日	Cisco Vision Dynamic Signage Director リリース 6.4 の初リリースです。このリリースには、次のサポートが追加されています。 <ul style="list-style-type: none">■ Director と DMP の両方からのシステムログ機能■ Director と DMP の両方に対する SNMP サポート Cisco Vision Director サーバー システムの設定 (17 ページ) を参照してください。

マニュアルの構成

章	説明
Cisco Vision Dynamic Signage Director オンプレミス アーキテクチャの概要 (11 ページ)	Cisco Vision Dynamic Signage Director でサポートされるネットワーク アーキテクチャ (Cisco Vision Dynamic Signage Director の一元化されたネットワーク アーキテクチャなど) と、ソリューションのに使用されるサーバ プラットフォームについて説明します。
Cisco Vision Director サーバー システムの設定 (17 ページ)	Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーの初期設定方法について説明します。
複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定 (57 ページ)	複数の施設のサポートを有効にして管理する方法について説明します。
Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのシステム アカウント (73 ページ)	Cisco Vision Dynamic Signage Director により実装され、特定のサーバ機能へのアクセスと制御を行うためのデフォルトのシステム アカウントについて説明します。管理アカウントとは別に、これらのシステム アカウントは通常はユーザー アカウントから分離され、Cisco Vision Dynamic Signage Director の機能の設定や操作へのアクセスが保護されます。
Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザ管理 (81 ページ)	Cisco Vision Dynamic Signage Director のロールベース アクセス コントロール (RBAC) 機能について説明します。RBAC の制御により、トレーニングを受けたユーザは使用権限を持つ部分にのみアクセスが許可されます。
Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 (87 ページ)	プライマリ サーバーとセカンダリ サーバー間で、バックアップを設定およびスケジュールし、データを復元する方法について説明します。
冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定 (99 ページ)	Cisco Vision Dynamic Signage Director ソフトウェアを実行する 2 台のサーバ間でのウォーム スタンバイ環境について説明します。この環境では、一方のサーバがプライマリ アクティブ サーバーとして動作し、もう一方のサーバがセカンダリ バックアップ サーバーとして動作します。このモジュールでは、障害が発生した場合にバックアップ サーバーをアクティブ サーバーにするための設定方法と、プライマリ サーバーの復元方法について説明します。
Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス (113 ページ)	テキスト ユーティリティ インターフェイス (TUI) の概要を説明します。TUI は、システム インストール担当者、管理者、およびトラブルシューティング担当者が、システム設定の変更、パスワードの変更、システム ログのチェックといった日常的なシステム タスクの実行に使用する、コンソールベースのインターフェイスを提供します。
システム状態レポート (121 ページ)	Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのシステム状態データを簡単に取得およびエクスポートできる、システム状態レポート機能について説明します。この情報は、システムで発生した問題のトラブルシューティングに役立つために、遠隔地のサポート エンジニアに送信できます。

関連資料およびリソース

Cisco Vision のハードウェアとソフトウェアのインストール、設定、操作に関する詳細については、Cisco.com で Cisco Vision のマニュアルを参照してください。

www.cisco.com/go/stadiumvisiondocs

Cisco Vision Dynamic Signage Director リリース 6.4 リリースノート [英語] を参照してください。



Cisco Vision Dynamic Signage Director オンプレミス アーキテクチャの概要

Cisco Vision Dynamic Signage Director のオンプレミス アーキテクチャは、最も基本的な構成では、1 か所のサイトまたは施設に実装されているソリューションのあらゆるコンポーネントで構成されます。Cisco Vision Dynamic Signage Director の基本的な構成は、複数施設のアーキテクチャに拡張することができます。

複数施設の構成では、中央の場所に設置された Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーを使用して、複数のサイトのコンテンツを管理し制御することができます。DMP はリモートの施設に設置できますが、その場合も中央の Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバによって制御されます。

この章では、Cisco Vision Dynamic Signage Director の標準的な構成および複数施設の構成に関連する標準のオンプレミス アーキテクチャについて説明します。説明する項目は次のとおりです。

- [標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワーク アーキテクチャ \(11 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Dynamic Signage Director の集中型ネットワーク アーキテクチャ \(14 ページ\)](#)
- [仮想サーバのサポート \(15 ページ\)](#)

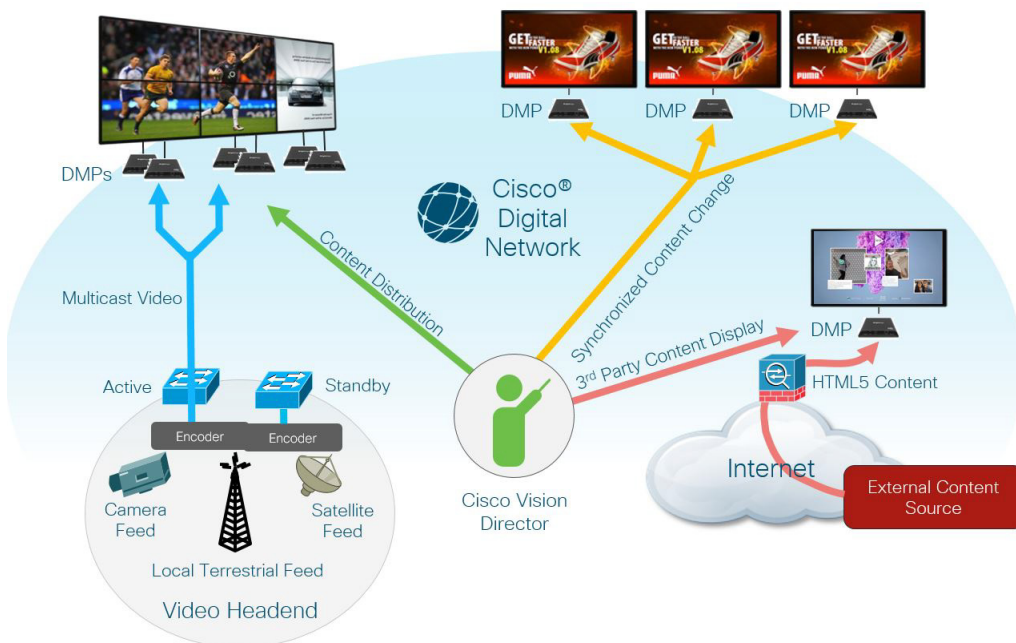
標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワーク アーキテクチャ

標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワーク アーキテクチャには、主に次の 3 つの領域があります。

- **ビデオ取得のためのヘッドエンド**
Cisco Vision Dynamic Signage Director のヘッドエンドは、Cisco Vision ソリューションで使用されるビデオ コンテンツの取得、処理、およびエンコードを目的とするものです。
- **IP ネットワーク (Connected Venue)**
- **エンドポイント (デジタル メディア プレーヤー)**

図 1 (12 ページ) は、Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワークの基本的なネットワーク アーキテクチャを示しています。

図 1 Cisco Vision Dynamic Signage Director の基本的なアーキテクチャ



Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーの冗長性

Cisco Vision Dynamic Signage Director は、Cisco Vision Dynamic Signage Director ソフトウェアを実行する 2 台のサーバーの環境をサポートしています。この環境では、一方のサーバーがプライマリ アクティブ サーバーとして動作し、もう一方のサーバーがセカンダリ バックアップ サーバーとして動作します。障害が発生した場合は、バックアップ サーバをアクティブ サーバにするように設定できますが、フェールオーバー処理は自動的に実行されません。

Cisco Vision Dynamic Signage Director は、2 台のサーバーまたはデュアル仮想サーバーの環境をサポートしています。図 2 (12 ページ) は、1 つのサブネットにインストールされた Cisco Vision Dynamic Signage Director を実行している 2 つの仮想サーバを示しています。

図 2 Cisco Vision Dynamic Signage Director 冗長性



標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワーク アーキテクチャ

図 3(13 ページ)は、通常のネットワーク状態と運用における Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーの冗長性のアーキテクチャを示しています。プライマリ サーバーとセカンダリ サーバーは、Cisco Connected Venue(Connected Stadium)ネットワークの同じサブネット内で 2 つの異なる IP アドレスを持つ独立したホストとして扱われます。

セカンダリ サーバは引き続きネットワークに接続していますが、通信と制御は、デジタル メディア プレーヤー (DMP) やすべてのワイヤレス アクセス ポイントを含めて、プライマリ Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われることに注意してください。

セカンダリ サーバーは、障害が発生した場合にプライマリのバックアップとして利用可能になるようにネットワークに接続されるにすぎません。さらに、セカンダリ サーバーは、ウォーム スタンバイとして準備できるように、プライマリ サーバーからのデータで定期的にバックアップされるように設定することができます(そうする必要があります)。

図 3 Cisco Vision Dynamic Signage Director 通常の動作における冗長性

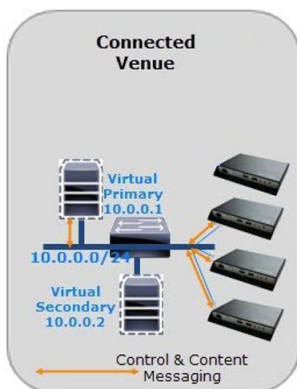
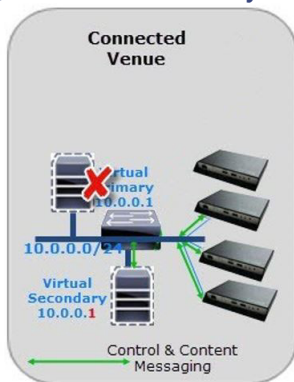


図 4(13 ページ)は、プライマリ Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバからの接続が障害を起こしたときの冗長環境を示しています。プライマリ サーバが障害を起こした場合は、手動のプロセスを通じて、バックアップからセカンダリ サーバを復元し、プライマリ サーバをシャットダウンし、セカンダリ サーバを有効にする必要があります。

図 4 Cisco Vision Dynamic Signage Director 手動フェールオーバーにおける冗長性



元のプライマリ サーバと同じ IP アドレスを使用するようにセカンダリ サーバを再構成する必要があることに注意してください。この例では、セカンダリ サーバの IP アドレスをプライマリ サーバのアドレスに合わせて 10.0.0.2 から 10.0.0.1 に変更しています。プロセスが完了すると、通信と制御は、新しく有効になったセカンダリ サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われるようになります。

注: ここでの「フェールオーバー」とは、セカンダリ サーバの自動有効化という意味ではありません。フェールオーバーのプロセスは手動で行い、セカンダリ サーバをウォーム スタンバイとして機能させます。

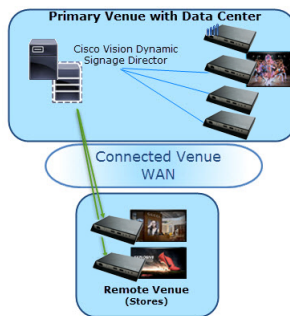
フェールオーバー プロセスの実行方法の詳細については、「冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定(99 ページ)」を参照してください。

Cisco Vision Dynamic Signage Director の集中型ネットワーク アーキテクチャ

図 5(14 ページ)は、中央の Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバ(ヘッドエンドに接続されています)と、Cisco Connected Venue WAN を経由した複数のリモート サイトへのネットワーク接続を示しています。

リモートの施設ではプライマリの施設から離れた場所にある DMP のみを使用しますが、制御は中央の Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーによって保持されます。

図 5 集中型の Cisco Vision Dynamic Signage Director とリモート サイト



階層管理

集中型の Cisco Vision Dynamic Signage Director アーキテクチャでは、階層管理を使用した複数施設の制御が実装されません。これには次の機能領域が含まれます。

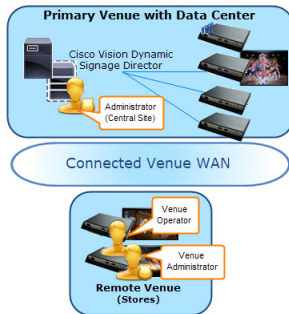
- 施設管理者、施設オペレーター、場所、プレイリスト、およびスクリプトオブジェクトを、アクセスと制御を管理する施設の関連付けを使用して、中央管理者ロールによってサイト固有のグループに編成します。
- 施設オペレーター ロールを使用し、1 か所以上の割り当てられたリモート サイトで、イベント操作のアクセスと制御を制限します。
- 施設管理者ロールを使用し、中央管理者が承認した施設で、Cisco Vision Dynamic Signage Director の次の機能領域について、ユーザーに対する追加の限定的な管理権限を提供します。
 - スクリプト管理
 - システム設定: コマンドのサポートが制限された読み取り専用アクセス。
 - [Device Management](コマンドセンター モニターリング): 読み取り専用アクセス。
 - [Configuration] > [Devices]([Display Specifications] のみ): グループとゾーン、チャンネル、ラグジュアリー スイートへの読み取り専用アクセス。

注: 外部コンテンツ、チャンネル、およびダイナミック メニュー ボード(DMB)のコンテンツは、すべての施設に対してグローバルです。したがって、施設管理者はこれらのグローバル コンテンツ アイテムも削除または非表示することができます。

図 6(15 ページ)は、Cisco Vision Dynamic Signage Director の階層管理の使用を示しています。ここでは、管理者のロールベース アクセス コントロール(RBAC)の権限を持つセントラル サイト ユーザーは、プライマリ Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのあるセントラル サイトのデータセンターにいます。

リモートの施設では、プライマリ管理者によって割り当てられるオペレータと施設管理者を配置することができます。

図 6 集中型の階層管理 Cisco Vision Dynamic Signage Director



プライマリ管理者は施設関連のすべての機能を実行できます。たとえば、施設管理者、施設オペレータ、コンテンツ、およびスクリプトを、対応する施設固有の制御スコープに割り当てることができます。リモートの施設では、リモートの施設オペレータが、自分に割り当てられた施設の制御スコープに関連付けられているスクリプトを制御できます。

詳細については、このガイドの次のモジュールを参照してください。

- Cisco Vision Dynamic Signage Director でサポートされているユーザー ロールの詳細については、「[Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザ管理 \(81 ページ\)](#)」を参照してください。
- 集中型 Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワーク アーキテクチャにおけるリモート施設の設定の詳細については、「[複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定 \(57 ページ\)](#)」を参照してください。

仮想サーバのサポート

Cisco Vision Dynamic Signage Director における仮想サーバの要件とインストールの詳細については、次を参照してください。

- [Cisco Vision Dynamic Signage Director Release 6.4 のリリース ノート \[英語\]](#)
- [Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4](#)



Cisco Vision Director サーバー システムの 設定

このマニュアルでは、システム管理者を対象に、Cisco Vision Director サーバーの初期設定方法について説明します。

サーバー展開オプション

現在、ニーズに応じて 4 つのサーバー展開オプションがあります。

表 1 Cisco Vision Director サーバーの展開が利用可能

設定	RAM	CPU クロック速度	vCPU 数
最小	8 GB	1.9 GHz	6
小規模	8 GB	2.5 GHz	6
標準	32 GB	2.5 GHz	24
大規模	60 GB	3.6 GHz	32

Mini と Small はクロック速度が異なります。フルインストール中に、インストーラは VM で使用可能なリソース (RAM、CPU クロック速度、vCPU 数) に基づいてサーバーサイズを検出して選択します。アップグレード中、現在の設定は変更されません。TUI を使用して、サーバーがこれらの仕様内であることを確認します。

重要: 仮想マシンがこれらの仕様を満たしていない場合、TUI はすべてのオプションを表示しません。

Cisco Vision Director の展開を選択するには、次の手順を実行します。

1. TUI を使用してログインします。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Setup Server Profile] を選択します (図 1(18 ページ))。

図 1 Cisco Vision Director のサーバープロファイルのセットアップ

```

Main Menu > Cisco Vision Server Administration

Please choose one of the following menu options:

a) Display Software Version
b) Upgrade Server
c) Restart Dynamic Signage Director software
d) Shutdown Dynamic Signage Director software
e) Setup automatic backup and restore
f) Re-Run CiscoVision initial configuration
g) Retention Policy
h) Database Maintenance
i) Clear Switch Host Keys
j) Failover
k) Setup Server Profile
l) Reboot
m) Power Off
n) Clean up content import history table
o) Backup system data
p) Restore all system data from system backup
q) Clean up generic content table
r) Restore TV Off Zone Assignments

R or < or , Return to prior menu

```

VM リソースが特定の設定を展開するのに十分でない場合、メニューオプションに NA(図 2(18 ページ))と表示されることがあります。

図 2 システムサイズを選択

```

Total RAM: 16 GB      CPU Clock Speed: 2.53 GHz      Total vCPUs: 8
0. - [Cancel]
1. - Mini
2. - Small
NA - Standard
NA - Large

Your current system profile is set to 'Small'.

Please select a number from above and press enter: █

```

4. サーバーを再起動して、変更を有効にします。

使用可能な展開設定の新しい制限は次のとおりです。

表 2 サーバーの仕様

数量	ミニ/スモール	標準	大規模
Groups	125	5,000	5,000
ゾーン	25	250	250
スクリプトの実行	5	100	250
開催場所 (Venues)	0	25	250
データ ソース	50	100	250
デバイス	1250	5000	5000

目次

- [Cisco Vision Director サーバー システムの設定に必要な前提条件\(19 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Directorサーバー システムの設定方法\(19 ページ\)](#)
- [次の作業\(56 ページ\)](#)

Cisco Vision Director サーバー システムの設定に必要な前提条件

Cisco Vision Director サーバーの設定を行う前に、次の要件を満たしてください。

- Cisco Vision Director サーバーのハードウェアが設置されていて、ソフトウェアがインストールされている必要があります。詳細については、『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4](#)』を参照してください。
- Cisco Vision Director サーバーがインストールされていて、IP アドレスがわかっている必要があります。
- Cisco Vision Director についてサポートされているブラウザ バージョンがある。サポートされている最新のブラウザの詳細については、『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4](#)』を参照してください。
- Cisco Vision Director サーバにログインするための、物理コンソールへのアクセス、または PuTTY などの SSH クライアントのいずれかが必要です。
- Cisco Vision Director サーバーでのインストール担当者アカウントの資格情報は **cisco!123** です。フルインストールが完了したら、このアカウントパスワードを変更することを強く推奨します。
- テキスト ユーティリティ インターフェイス (TUI) の使い方を理解している必要があります。詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス\(113 ページ\)](#)を参照してください。これらの作業を簡単に説明するため、メニュー オプションに対応する文字を入力して **Enter** を押す手順のことを、特定のメニュー項目を「選択する」と表現しています。
- NTP の設定要件については、[Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件\(29 ページ\)](#)を参照してください。
- マルチキャストの設定要件については、[Cisco Vision Director のユニキャスト レジストリキー\(43 ページ\)](#)を参照してください。

Cisco Vision Directorサーバー システムの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

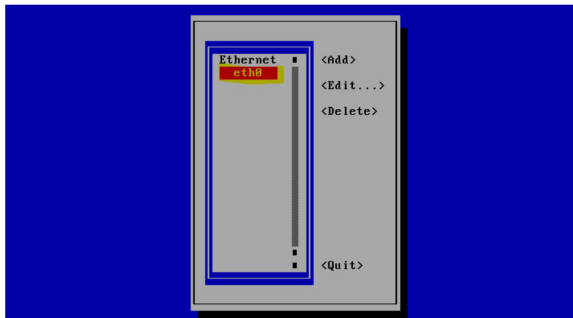
- [新しい DSD のフル ISO インストール:必須\(20 ページ\)](#) (必須)
- [ホスト ファイルの編集\(25 ページ\)](#) (適宜)
- [ホスト ファイルの編集\(25 ページ\)](#) (適宜)
- [サーバーでのネットワーク サービスの再起動\(26 ページ\)](#) (適宜)
- [SSL 証明書の生成\(26 ページ\)](#) (必須)
- [Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定\(28 ページ\)](#) (必須)
- [Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定\(39 ページ\)](#) (必須)

新しい DSD のフル ISO インストール:必須

フル ISO インストールを実行する手順は次のとおりです。

1. フルインストールをダウンロードします。『[Release Notes 6.4 for Cisco Vision Dynamic Signage Director](#)』を参照してください。
2. 上記の手順で、フル インストール ISO をマウントしてから起動します。
3. プロンプトが表示されたら、**Enter** を押してネットワーク設定を続行します。図 3(20 ページ)のような画面が表示されます。

図 3 ネットワーク設定

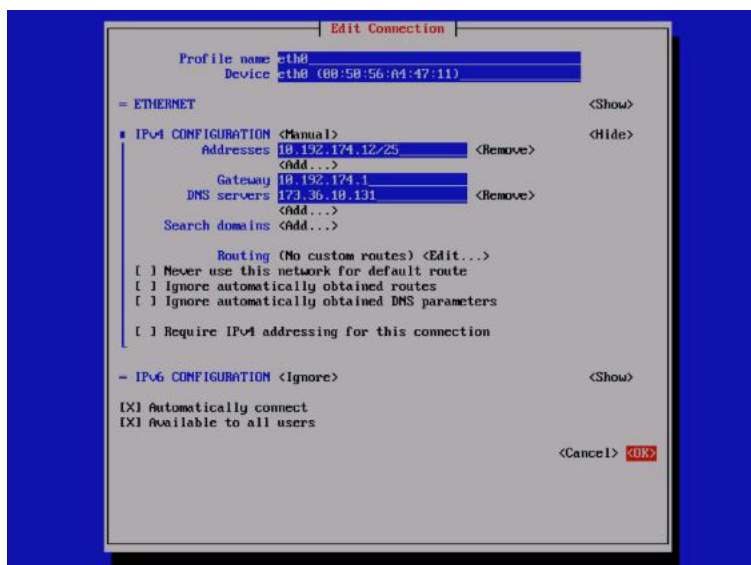
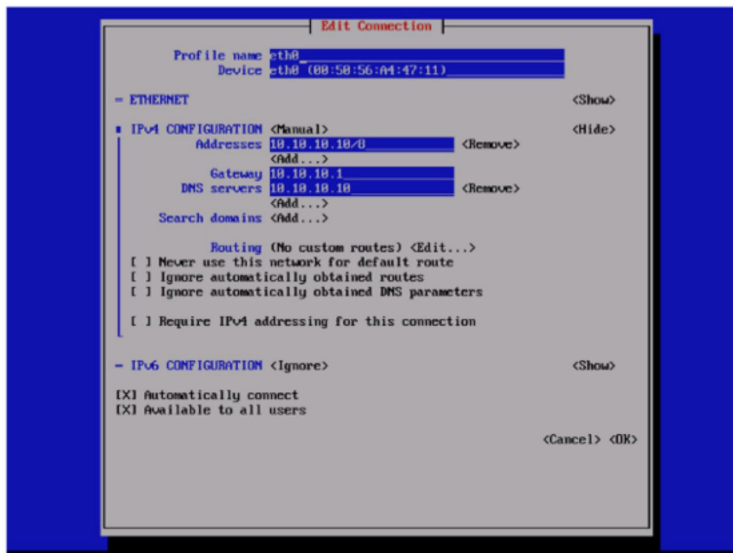


注:カーソルを前または次のフィールドに移動するには、左右の矢印キーを使用します。選択するには **Space** を使用します(赤で強調表示されます)。

4. カーソルを **[Edit]** に移動して **Space** キーを押します。

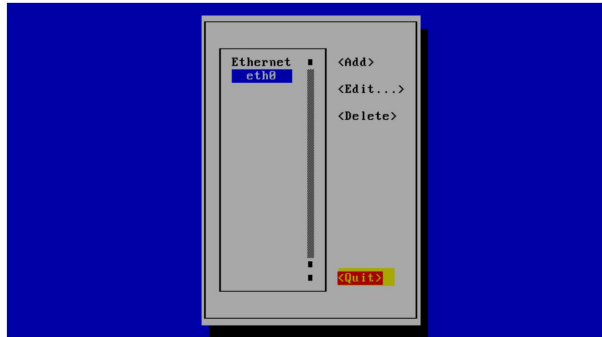
注:IPv4 アドレスは xxx.xxx.xxx.xxx/CIDR 形式である必要があります。詳細については、「[CIDR conversion table](#)」を参照してください。

図 4 接続アドレスの更新の編集



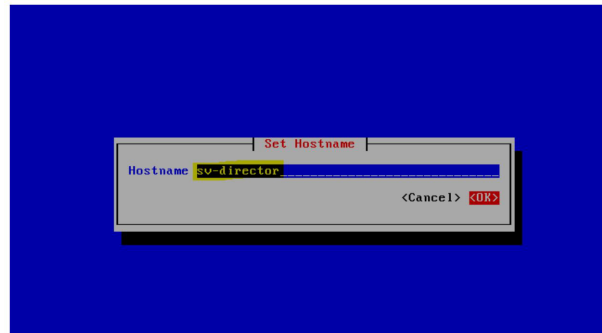
5. ネットワーク設定の TUI を終了するには、[Quit] を選択します(図 5(22 ページ))。

図 5 ネットワーク設定の TUI の終了



6. 次の TUI ウィンドウで [Hostname] を割り当てます(図 6(22 ページ))。

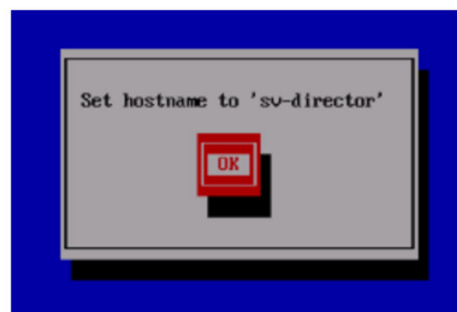
図 6 ホスト名の設定



注: ホスト名は完全修飾ドメイン名 (FQDN) に設定することを推奨します。FQDN は、上の図の「sv-director」のような単一の名前ではなく、ドメイン名を使用した名前です。

7. [OK] をクリックします(図 7(22 ページ))。DSD コンポーネントのインストールを開始する必要があります。

図 7 FQDN を使用したホスト名の設定

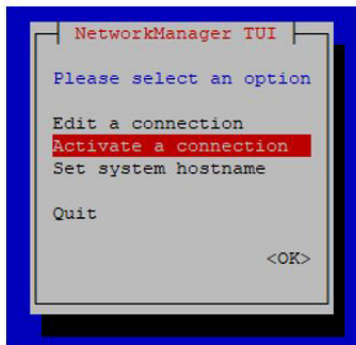


8. DSD コンポーネントのインストールが完了したら、ブラウザから DSD にログインします。

9. eth0 インターフェイスをアクティブ化します(図 8(23 ページ))。

注: フル インストール時の SSL 証明書の生成に関する既知の問題があります。ブラウザがロードされない場合は、証明書を再生成し、TUI から Apache を再起動します。

図 8 接続のアクティブ化



完全な ISO インストール後に行うシステム設定の初期設定

インストールの一部としてネットワーク構成が正常に完了したら、SSL 証明書を生成し、サーバーで日付と時刻のオプションを設定して (NTP および PTP)、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動します。

セキュリティアラート: インストーラのパスワードを再設定してください。

日付と時刻のオプションを設定する方法の詳細については、[Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定 \(28 ページ\)](#) を参照してください。

ネットワーク情報の設定

ヒント: 何らかの理由で TUI メニューから戻る場合は、:q またはカンマを入力します。

Cisco Vision Director サーバーのネットワーク情報を設定する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、インストール担当者として TUI にログインします。TUI のメインメニューが表示されます。
2. メインメニューで、[System Settings] > [Network Settings] > [Setup NetworkInformation] に移動します。

ヒント: TUI メニュー内を移動するには、メニュー領域に対応する文字 (a、b、c など) を入力して、**Enter** を押します。他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用して前のメニューに戻ります。

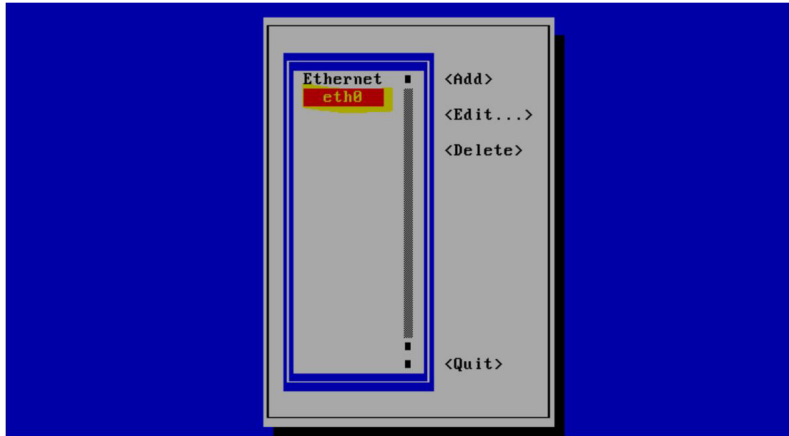
3. [Network Manager TUI] 画面で、[Edit a Connection] を選択します (図 9(23 ページ))。

図 9 接続の編集



4. [eth0] を選択します。
5. [Edit...] を選択します(図 10(24 ページ))。

図 10 ネットワークの編集

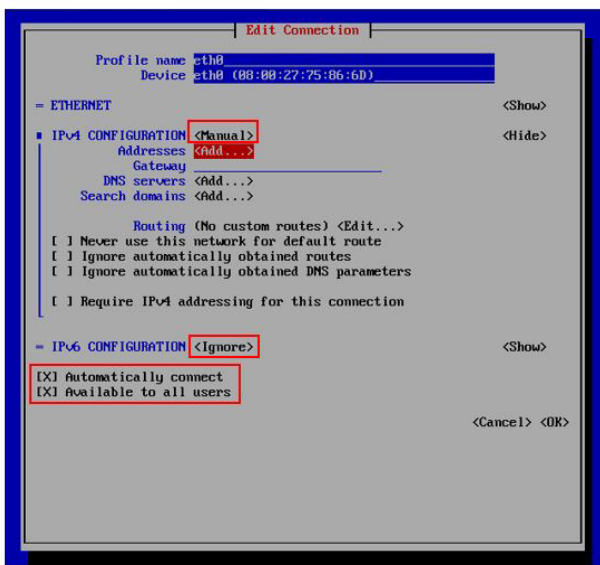


6. [IPv4 CONFIGURATION] を [Manual] に設定します(図 11(24 ページ))。
7. [Show] を選択して詳細を入力します。
8. Cisco Vision Director の IP アドレスを入力し、その後にネットワーク プレフィックスを入力します。

形式: *ip address/prefix*

9. 次の IPv4 設定を指定します。
 - Gateway
 - DNS サーバ
 - Search domains

図 11 ネットワーク設定



重要:上記のボックスおよび下記のリストのデフォルト値がオンになっている、または選択されていることを確認します。

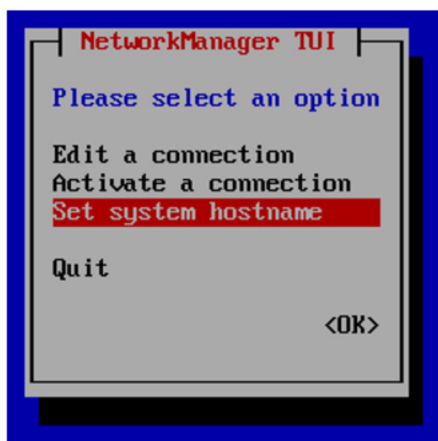
- 名前は「eth0」のままにします。
- [IPv6 CONFIGURATION] は [Ignore] のままにします。
- [Automatically connect] および [Available to all users] のボックスはオンのままにします。

10. [OK] に移動して **Enter** を押します。

11. [Network Manager TUI] のメインメニューに戻ります。

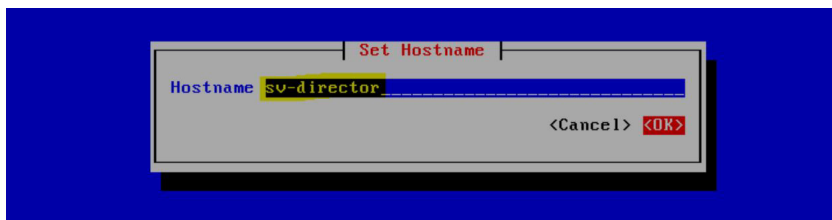
12. [Set system hostname] を選択します(図 12(25 ページ))。

図 12 システム ホスト名の設定



13. Cisco Vision Director サーバーの名前を入力して [OK] をクリックします。

注:ホスト名には、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してください。



ホスト ファイルの編集

注:完全な ISO インストールの一部としてネットワーク設定を完了できなかった場合は、このタスクを実行してください。

作業を始める前に、vi エディタの使い方について理解してください。詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス\(113 ページ\)](#)を参照してください。

ホストファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. TUI インターフェイスにログオンします。
2. [System Settings] の a を入力します。

3. [Network Settings] の **a** を入力します。
4. [Edit hosts file] オプションの **c** を入力します。

重要: `etc/hosts` のホスト名を変更したら、サーバーをリブートして有効にする必要があります。

5. 確認プロンプトで、任意のキーを押して `/etc/hosts` ファイルを編集用に開きます。
6. 次の例に示すように、IP アドレス「10.10.10.10」の行をコメントに変更します(行の先頭に `#` 文字を挿入します)。

```
#10.10.10.10
```

7. 次の例に示すように、IPv6 localhost エントリ「::1」の行をコメントに変更します。

```
#::1
```

8. 次の例に示すように、サーバーの IP アドレスとホスト名の行を追加します。ここで、`x.x.x.x` は Cisco Vision Director サーバーの IPv4 アドレス、`hostname` はサーバーを識別する名前です。

```
x.x.x.x hostname
```

注: ドメイン情報が含まれている完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してください。

9. **Esc** を押して `vi` コマンド モードを開始します。
 10. 次のコマンドを入力して、変更をファイルに保存します。
- ```
:wq
```
11. 任意のキーを押して [Network Settings] メニューに戻ります。

## サーバーでのネットワーク サービスの再起動

**注:** 完全な ISO インストールの一部としてネットワーク設定を完了できなかった場合は、このタスクを実行してください。

Cisco Vision Director サーバーでネットワーク設定が完了したら、ネットワーク設定を適用するためにネットワーク サービスを再起動します。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、サーバーでシステムステータスとして TUI にログインします。TUI のメイン メニューが表示されます。
2. メイン メニューで、[Services Control] > [Networking] > [Restart networking] に移動します。ネットワーク インターフェイス `eth0` が再起動します。
3. コマンドが正常に完了したことを確認します。
4. 任意のキーを押して [Networking] メニューに戻ります。
5. メイン メニューに戻ります。

## SSL 証明書の生成

**注:** リリース 6.4 への最初のアップグレード後に、新しい SSL 証明書を生成してください。

**SSL 証明書を生成するには、次の手順を実行します。**

1. メイン メニューで、[System Settings] > [Network Settings] に移動します。
2. [Generate certificate file] オプションを選択します。

3. 確認メッセージが表示されたら、「Y」と入力して続行し、新しい **SSL 証明書** を生成します。  
新しい証明書を生成せずに中止するには、「N」と入力します。
4. 任意のキーを押して **[Network Settings]** メニューに戻ります。

## DMP 証明書のインポート

外部 URL をサポートするには、**Web** サイトを正しくレンダリングするために場合によっては **DMP** で証明書をインポートする必要があります。新しい **DMP** 証明書のアップロード、変更、および **DMP** 証明書の削除は、**DSD** サーバーから行います。また、リストは完全にソート可能です。

この機能では、ユーザが **Cisco Vision Director** に使用する証明書を管理できるように **Web** ベースの **UI** が提供されます。自己署名証明書に関連付けられたセキュリティ警告が表示されることなく、セキュアなプロトコルを介して **Cisco Vision Director** にアクセスできます。証明書タイプ **.cer**、**.crt**、および **.pem** がサポートされています。

**UI** には、インポート済みの証明書が一覧表示されます。証明書の名前、ファイル名、ファイルのサイズ、アップロード日、発行元名、証明書がいつ有効かが表示されます。

**DMP 証明書をインポートする手順は次のとおりです。**

1. **[More]** > **[Manage Software]** に移動します。**[Software Manager]** ウィンドウが表示されます (図 13(27 ページ))。
2. **[証明書(Certificates)]** タブをクリックします。
3. **[Upload]** をクリックします (図 14(27 ページ))。

図 13 DMP 証明書

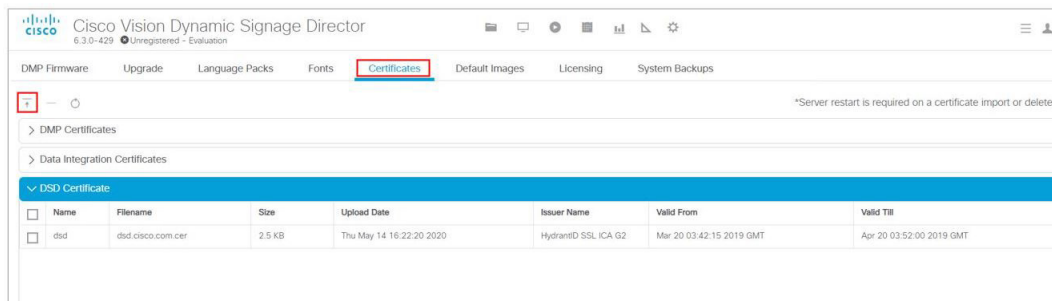
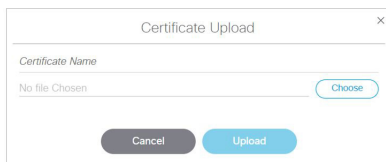


図 14 [Certificates Upload] 画面



4. ファイルを選択して **[OK]** をクリックすると、アップロード済みとして表示されます。

ファイルを削除するときは、証明書の削除を確認するための警告ダイアログボックスが表示されます。**[Delete]** をクリックします。**[Name]** 列の近くにある **[Delete All]** チェックボックスをクリックすると、すべての証明書を削除できます。

5. 証明書の秘密キーをインポートします。

インポートした証明書はバックアップされ、復元操作の対象となります。UI の証明書情報には、次の情報が表示されます。

- 発行元の共通名
- 有効期間(開始日と期限日)

注: 証明書をアップロードした後で、DMP 証明書が DMP にプッシュされるようにコンテンツのステージングを行ってください。新しい証明書が有効になるように DMP を再起動してください。Cisco Vision Director UI からコンテンツのステージングを手動で開始するには、[Script Management] を使用します。

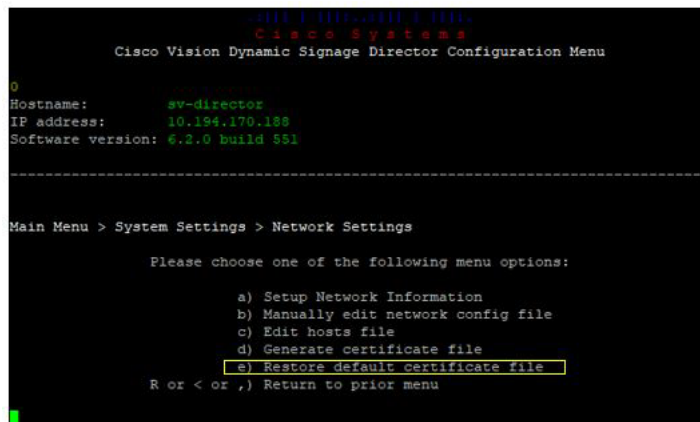
## Dynamic Signage Director (DSD) 証明書のインポート

[Cisco Vision Director] でアップロードした DSD 証明書が期限切れになるか無効になり、Web インターフェイスを介して Cisco Vision Director にアクセスおよびログインできない場合は、デフォルトの証明書を復元できます。Cisco Vision Director によって生成されるデフォルトの自己署名証明書を復元するには、次の方法を使用します。その後、Web サーバーを再起動してプライマリ サーバー IP 経由で DSD にアクセスします。

**DSD のデフォルト証明書ファイルを復元するには、次の手順を実行します。**

1. Cisco Vision Director TUI にログインします。ユーザー ID とパスワードを使用します。
2. [Main Menu] で、[System Settings] の **a** を入力します。
3. [Network Settings] の **a** を入力します。
4. [Restore default certificate file] の **e** を入力します(図 15(28 ページ))。

図 15 デフォルト証明書ファイルの復元



## Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定

Cisco Vision Director では、次のデバイスで Network Time Protocol (NTP) サービスが必要です。

- Cisco Vision Director サーバー
- DMP 高精度時間プロトコル (PTP) リードデバイス

NTP は、信頼性の高いクロック機能を Cisco Vision ネットワークに提供するもので、冗長サーバー間の同期の確保に役立ちます。

注: メディア プレーヤーで同期を最適化するには、PTP を使用してください。PTP リードのみが NTP を使用してクロックを生成します。

Cisco Vision Director サーバーの NTP 設定を確認してください。デフォルトの NTP ソースはパブリック プールであり、施設で使用する NTP サーバー ソースになっていない場合があります。

DMP の NTP ソースは Cisco Vision Director 内で設定します。[Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Time Source] の順にクリックします。ベスト プラクティスとして、すでに Cisco Vision Director サーバーは、すべてのメディア プレーヤーに対してデフォルトで NTP ホストとして設定されています。施設で別の NTP ソースを必要としない限り、この設定を変更する必要はありません。

**注意:** Cisco Vision Director サーバー自体は、メディア プレーヤーへの時間供給のみの目的で NTP ホストとして有効になっています。Cisco Vision Director をネットワーク内の他のデバイスの NTP ホストとして使用しないでください。

ここでは、次の作業について説明します。

- Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件(29 ページ) (必須)
- Cisco Vision Director サーバでの NTP を使用したシステム日時の設定(30 ページ) (必須)
- Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動(34 ページ)
- 手動による日時の設定(34 ページ)
- Digital Media Player での NTP と PTP の設定(35 ページ) (必須)

## Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件

**注意:** ずれが生じる可能性のある不正確な VM 環境のクロックを利用せずに、専用デバイスで動作している信頼性の高い NTP サーバーを参照してください。

Cisco Vision Director サーバーと DMP で NTP を設定する前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- vi エディタの使い方を理解している必要があります。
- Cisco Vision Director サーバーの NTP ホストの要件を理解している必要があります。
  - Cisco Vision Director サーバー用に NTP サーバーのデフォルトのパブリック プールを使用しない場合は、ネットワークの NTP ホストの IP アドレスまたは DNS 名が必要です。
  - NTP サーバーのパブリック プールを使用する場合は、Cisco Vision Director ネットワークからサーバーに到達可能である必要があります。デフォルトでは、Cisco Vision Director サーバーの ntp.conf ファイルで、サーバーの次の Red Hat Linux パブリック プールが設定されています。

```
server 0.rhel.pool.ntp.org iburst
server 1.rhel.pool.ntp.org iburst
server 2.rhel.pool.ntp.org iburst
server 3.rhel.pool.ntp.org iburst
```

**ヒント:** NTP プール サーバーの使用の詳細については、Network Time Protocol の Web サイトを参照してください。

- DMP 用に Cisco Vision Director サーバーを NTP ソースとして使用するというデフォルトのベストプラクティスを変更する場合は、必ず次の要件を満たしていることを確認してください。
    - 先に、Cisco Vision Director サーバー用の NTP ホストを設定しておきます。
    - DMP のファームウェアのアップグレードを済ませておきます。
- DMP のファームウェアをアップグレードする方法の詳細については、お使いのリリースに対応した『Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director, Release 6.4』を参照してください。
- 最適な同期を実現するには、Cisco Vision Director サーバー用に設定したものと同一 NTP サーバーを使用します。ただし、必須ではありません。

- DMP から NTP サーバー プールを参照する必要があります。Cisco Vision Director サーバーが NTP サーバー プールを参照する場合は(デフォルト)、DMP の NTP サーバーと同じプールから特定のサーバーを選択します。
  - DMP では、NTP サーバー アドレスで IPv4 のみがサポートされています。
  - DMP の NTP サーバーはロード バランスされたサーバーであってはなりません。
- Cisco Vision Director ネットワークは、ポート 123 で NTP メッセージ用に UDP メッセージを双方向に伝送できるように設定する必要があります。

UDP ポート 123 は、Cisco Vision Director サーバーと NTP ホスト間、および DMP と NTP ホスト(デフォルトではこれは Cisco Vision Director サーバー)間の通信に使用されます。

Cisco Vision Director サーバーの詳細なポート参照については、お使いのリリースに対応した『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director, Release 6.4](#)』で「Port Reference」のモジュールを参照してください。

## Cisco Vision Director サーバでの NTP を使用したシステム日時の設定

Cisco Vision Director のインストールまたはアップグレードを行う際、TUI でシステム日時を設定する必要があります。また、タイムゾーンも設定する必要があります。

注: システム日時は必要に応じてサーバーで手動で設定できますが、実稼働ネットワークではこれは避ける必要があります。

- [Cisco Vision Director サーバーでの NTP ソースの設定 \(30 ページ\)](#) (必須)
- [タイムゾーンの設定 \(32 ページ\)](#) (必須)
- [Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動 \(34 ページ\)](#) (必須)
- [手動による日時の設定 \(34 ページ\)](#) (必要な場合)

## Cisco Vision Director サーバーでの NTP ソースの設定

注: このタスクは、サーバーのデフォルトのパブリック プールを使用したくない場合にのみ実行します。

標準の NTP サーバー設定では、単語「server」の後に NTP サーバーのドメイン ネーム システム (DNS) 名または IP アドレスが使用されます。デフォルトでは、Cisco Vision Director サーバーの `ntp.conf` ファイルで、サーバーの次の Red Hat Linux パブリック プールが設定されています。

```
server 0.rhel.pool.ntp.org iburst
server 1.rhel.pool.ntp.org iburst
server 2.rhel.pool.ntp.org iburst
server 3.rhel.pool.ntp.org iburst
```

これらのサーバーを参照クロックとして使用できるように、Cisco Vision Director ネットワークから到達可能にする必要があります。

独自のサーバーを使用する場合は、必ず `ntp.conf` ファイルでそのサーバーを追加し、これらのデフォルトのプールサーバーをコメントアウトしてください。それ以外の場合は、このタスクでこれ以上 `ntp.conf` ファイルを編集する必要はありません。

**Cisco Vision Director サーバーで NTP ホストを設定するには、次の手順を実行します。**

1. TUI メインメニューで、**[System Settings] > [Date and Time Settings] > [Setup NTP Source]** に移動します。

NTP を設定して `ntp.conf` ファイルを編集する確認画面が表示されます。

2. `ntp.conf` ファイルを開いて編集するには、任意のキーを押します。

vi エディタに `ntp.conf` ファイルが開き、最後に設定した NTP サーバーの行の末尾にカーソルが表示されます。それ以外の場合は、サーバー設定セクションに移動します。

3. 「挿入」の行編集モードに移るには、「i」と入力します。

vi エディタが挿入モードに変わります。

4. サイトで参照クロック ソースとして使用するサーバーを用意している場合は、次の操作を行います。

- 行を追加し、「**server ip-address**」または「**server dns-name**」と入力します。ここで、*ip-address* または *dns-name* を、設定する NTP サーバーの IP アドレスまたは名前に置き換えます。
- プール サーバーが設定されている行に移動して、次に示すように、先頭に「#」記号を追加して設定からコメントアウトします。

```
#server 0.rhel.pool.ntp.org iburst
#server 1.rhel.pool.ntp.org iburst
#server 2.rhel.pool.ntp.org iburst
#server 3.rhel.pool.ntp.org iburst
```

5. 挿入モードを終了して vi コマンドモードに戻るには、**Esc** を押します。

6. 変更内容を保存するには「:wq」と入力します。

Return キーを押します。設定が保存され ntpd サービスが再起動します。ntpd が起動していることを確認する [OK] が表示されていることを確認します。

7. [Date and Time Settings] メニューに戻るには、任意のキーを押します。

## NTP AUTH3 の設定

ネットワーク上のいずれかの場所にある NTP サーバーによって、DSD サーバーに正確な時刻が提供されます。セキュリティ強化のために、認証を許可するようにこの NTP サーバを設定できます。この場合は、NTP AUTH 3 プロトコルを使用します。認証を使用するために NTP サーバとの通信をセットアップする場合は、最初に NTP サーバの設定方法に関する情報を確認してください。具体的には、キーの ID とキー値、および NTP サーバの IP アドレスを把握する必要があります。

1. TUI を使用して、[Main Menu] > [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Setup NTP Symmetric Keys for NTP authentication] に移動します。
2. 端末セッションでエディタが起動され、NTP クライアントの設定行を追加できます。
3. ID、タイプ、およびキーの情報を入力します。この例では、ID が 15、タイプが M、キーが I\_see! です。

```
For more information about this file, see the man page ntp_auth(5).
#
id type key
15 M I_see!
```

4. ファイルを保存して TUI メニューに戻ります。
5. 前の TUI メニュー オプションに移動します。
6. [Setup NTP Source] の **a** を選択します。このファイルには、NTP サーバを示す行が必要です。次の例のようにファイルに行を追加します。

```
Use public servers from the pool.ntp.org project.
Please consider joining the pool (http://www.pool.ntp.org/join.html).
server 192.168.69.78 iburst key 15
```

7. ファイルを保存します。数分後、Cisco Vision Director サーバの時刻が NTP サーバに基づいた正しい時刻と一致します。

## タイム ゾーンの設定

Cisco Vision Director サーバーではタイム ゾーンの設定が必要です。

**注:** Cisco Vision Director サーバの [Configuration] > [Venues] インターフェイスにタイム ゾーンを設定するためのオプションがありますが、このオプションは情報提供のみを目的としています。この情報は再生証明レポートにも使用されます。

ここでは、次の作業について説明します。

- システム設定のタイム ゾーン コードの検索(32 ページ) (任意)
- システムのタイム ゾーンの設定(33 ページ) (必須)

### システム設定のタイム ゾーン コードの検索

サーバーのタイム ゾーン情報を設定するためにタイム ゾーン コードを探す必要がある場合は、このタスクを実行します。

**注:** このタスクは情報を提供するだけであり、実際にはタイム ゾーンは設定されません。

システム設定のタイムゾーンコードを検索するには、次の手順を実行します。

- a. TUI インターフェイスから [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Change Timezone] に移動します。
- b. サーバーのロケーションに該当する大陸または海洋に対応する番号を入力します。
- c. 国に対応する番号を入力します。
- d. (必要に応じて)タイム ゾーンの番号を入力します。
- e. 設定したタイムゾーン情報の確認が表示されたら、**1**(はいの場合)を入力して設定を承認するか、または **2**(いいえの場合)を入力してキャンセルします(図 16(32 ページ))。

図 16 タイム ゾーンの確認プロンプト

```
The following information has been given:

 United States
 Pacific Time

Therefore TZ='America/Los_Angeles' will be used.
Local time is now: Mon Feb 18 16:42:55 PST 2013.
Universal Time is now: Tue Feb 19 00:42:55 UTC 2013.
Is the above information OK?
1) Yes
2) No
#?
```

- f. 承認したことをプロンプトで確認した後、表示されたタイム ゾーン文字列をコピーします。



図 17(33 ページ)は、America/Los\_Angeles のタイムゾーンコードの例です。

図 17 タイムゾーンコードの例

```
The following information has been given:

 United States
 Pacific Time

Therefore TZ='America/Los_Angeles' will be used.
Local time is now: Mon Feb 18 16:56:47 PST 2013.
Universal Time is now: Tue Feb 19 00:56:47 UTC 2013.
Is the above information OK?
1) Yes
2) No
#? 1

You can make this change permanent for yourself by appending the line
 TZ='America/Los_Angeles'; export TZ
to the file '.profile' in your home directory; then log out and log in again.

Here is that TZ value again, this time on standard output so that you
can use the /usr/bin/tzselect command in shell scripts:
America/Los_Angeles
Press any key to return to the menu.
█
```

8. 任意のキーを押して [Date and Time Settings] メニューに戻ります。
9. サーバー ロケーションに該当するコードを使用してシステムのタイムゾーンを設定します。システムのタイムゾーンの設定(33 ページ)を参照してください。

## システムのタイムゾーンの設定

### 前提条件

システムのタイムゾーンを設定する前に、次の情報が必要になります。

- vi エディタのコマンドの使い方を理解している必要があります。
- サーバー ロケーションのタイムゾーンコード。タイムゾーンコードを検索する必要がある場合は、システム設定のタイムゾーンコードの検索(32 ページ)を参照してください。

### 手順

システムのタイムゾーンを設定してサーバーの再起動後も持続させるには、次の手順を実行します。

1. サーバーの TUI メインメニューから [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Change System Timezone] に移動します。
2. タイムゾーンコードを入力します。この例では、アジア/東京(図 18(34 ページ))になります。

図 18 タイムゾーンの編集

```

Cisco Vision Dynamic Signage Director Configuration Menu

0
Hostname: sv-director
IP address: 10.194.170.188
Software version: 6.3.0 build 1069

 Configure Timezone
 The timezone will be changed to the TimeZone Code you will now enter.
Enter the TimeZone Code you found
Asia/Tokyo
Asia/Tokyo
Timezone is Asia/Tokyo
The time is Thu Apr 8 00:44:46 JST 2021

It is recommended to restart the DSD services for timezone changes to take effect.
Press any key to return to the menu.

```

3. メインメニューに戻ります。
4. [Cisco Vision Server Administration] > [Restart Dynamic Signage Director Software] をクリックします。
5. サーバーを再起動し、タイムゾーンの変更を有効にします。

## Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

サーバーの TUI で NTP サーバーとタイムゾーンを設定した後、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動する必要があります。

**Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動する手順は次のとおりです。**

1. サーバーの TUI メインメニューから、次に移動します。  
[Cisco Vision Server Administration] > [Restart Cisco Vision Dynamic Signage Director software]。
2. プロンプトが表示されたら、任意のキーを押して [Server Administration] メニューに戻ります。
3. メインメニューに戻って TUI を終了します。

## 手動による日時の設定

**注:** このタスクは、システム日時の手動設定が必要であると判断した場合に備えるための手段として提供されています。実稼働システムや代用の NTP サービスでは、日時の手動設定は避けてください。

日時を手動で設定するのは、次の手順を実行します。

1. サーバーの TUI メインメニューから [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Change Date and Time] に移動します。
2. 確認のプロンプトで、「Y」と入力して続行します。
3. 新しい日付と時刻を MMDDhhmm[[CC] YY] [.ss] の形式で入力します。
  - MMDDhhmm は必須です (MM は月、DD は日、hh は時、mm は分)。
  - CC は世紀 (西暦年の最初の 2 桁の数字) で、YY の使用は任意です。たとえば、2013 年では「20」になります。
  - YY は、西暦年の最後の 2 桁の数字で、省略可です。たとえば、2013 年では「13」になります。
  - .ss は秒で、省略可です。
4. 任意のキーを押して [Date and Time Settings] メニューに戻ります。

## Digital Media Player での NTP と PTP の設定

デフォルトでは、NTP と PTP の両方のサービスがデジタルメディアプレーヤーで自動的に有効になります。デジタルメディアプレーヤーは、PTP を使用して最適な同期を実現します。ただし、ネットワーク内の PTP リードとして選択されたデバイスに初期クロッキングを提供するために、NTP ソースも使用する必要があります。

このセクションでは、デフォルトの設定とそれらの変更方法について説明します。次の作業について説明します。

- [デジタルメディアプレーヤーでの NTP および PTP の制約事項\(35 ページ\)](#)
- [デジタルメディアプレーヤーでの NTP と PTP に関するガイドライン\(35 ページ\)](#)
- [システムにあるすべての DMP での標準的な NTP および PTP 設定の変更\(36 ページ\)](#) (任意)
- [デジタルメディアプレーヤーに対する PTP 動作の確認\(38 ページ\)](#)

### デジタルメディアプレーヤーでの NTP および PTP の制約事項

デジタルメディアプレーヤーで PTP を設定する前に、次の制約事項を考慮してください。

- デフォルトで PTP メッセージは VLAN を通過しません。PTP リーダー候補を VLAN ごとに識別して [Configuration] > [System Configuration] ページで設定する必要があります。
- システムは、[Configuration] > [System Configuration] ページで設定可能な高精度時間プロトコル (PTP) 存続可能時間 (TTL) 設定をサポートします。PTP TTL は、PTP リーダーの選出で通過できる VLAN の数を指定します。デフォルト値の 1 (推奨) は、各 VLAN で独自の PTP リーダーが選出されることを意味します。

**注:** 複数の VLAN がある場合に簡単に設定を行えるように、システムは PTP リーダー候補の対象としてすべてのデジタルメディアプレーヤーを表示するようにデフォルト設定されています。これによって設定はシンプル化されますが、デバイスが各ネットワークでリーダーデバイスを調停する際の所要時間は、各ネットワーク内の対象デバイスの数によって異なる点に注意してください。

- デジタルメディアプレーヤーでビデオを再生する際のコンテンツ同期には、PTP を使用した DMP 全体の正確な時刻が利用されます。DMP でビデオを再生中にいずれかのデバイスがリポートすると、リポートしたユニットはビデオを最初から再生し直します。他のプレーヤーと同期されるのは、再生リストが次にレンダリングされる時のみです。
- デジタルメディアプレーヤーが、同期機能が強化されたビデオウォールのゾーンベースコンテンツ同期に参加している場合、リポートしたユニットはビデオウォールのデバイスリーダーで現在再生されているアイテムと同期されます。詳細については、『[Release 6.3: Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide](#)』の「Working with Video Walls」を参照してください。

### デジタルメディアプレーヤーでの NTP と PTP に関するガイドライン

デジタルメディアプレーヤーで NTP と PTP を設定する前に、次のガイドラインを考慮してください。

- Cisco Vision Director の新規インストールの場合、デジタルメディアプレーヤーのデフォルト時刻源は PTP で、選出された PTP リーダーのデフォルト時刻源は NTP です。

#### NTP のガイドライン

- PTP リーダー (VLAN ごと) に指定されたデジタルメディアプレーヤーは、それぞれの時刻源として NTP を使用します。ネットワーク内の他のデバイスは、選出された PTP リーダーの PTP 基準クロックを使用して動作します。
- PTP を無効にすると (非推奨)、すべてのデバイスが NTP を使用してローカルクロックを設定します。

**注:** 同期ビデオ再生の場合、デバイスは NTP のみに依存できません。PTP も使用する必要があります。

- ホスト タイム サーバーとのデフォルト NTP 同期間隔は 1 時間ですが、設定可能です。
- Cisco Vision Director で NTP ソースを設定する必要があります。デフォルトで、Cisco Vision Director サーバーはデバイスの NTP ホストとして設定されます。

**PTP のガイドライン**

- PTP バージョン 2 はデジタル メディア プレーヤーでのみサポートされ、設定すると Cisco Vision Director ネットワーク内のすべてのデバイスにグローバルに適用されます。
- PTP 設定には、PTP ドメインと一連のリーダー候補が含まれます。
  - [PTP domain]: デフォルトは 0 です。  
このドメインがネットワーク内で使用される他のどの PTP ドメイン(およびマルチキャストアドレッシング)とも競合しないことを確認し、必要に応じて変更します。詳細については、「[Global DMP Settings]: PTP プロパティの値」の表を参照してください。
  - [PTP leader candidates]: デフォルトは \* です。  
これは、ネットワーク内のすべてのデバイスがリーダー候補の対象であり、それぞれのサブネットのリーダーを指定する調停が実行されることを指定します。
- デフォルトの PTP リーダー候補設定を変更する場合は、VLAN ごとに IP アドレスをセミコロンで区切って 1 台以上のデバイスをリーダー候補として設定する必要があります。  
ネットワークあたり 2 つ以上のリーダー候補が推奨されます。
- ネットワークに社内 PTP リーダーがある場合は、[PTP leader candidates] プロパティの値を空白のままにします。ただし、この設定がサポートされるのは複数のサブネットが使用されていない場合のみです。

**システムにあるすべての DMP での標準的な NTP および PTP 設定の変更**

デフォルトで NTP サービスと PTP サービスは、デジタルメディアプレーヤーで自動的に有効化および設定されます。このタスクは、表 3(36 ページ)および表 4(37 ページ)で説明されているデフォルト設定を変更する必要がある場合に使用します。

**表 3 Global DMP Settings: PTP プロパティの値**

| プロパティ<br>(レジストリ キー)                                       | 説明                                         | 値                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PTP ドメイン<br><br>(Globaldmpsetting.common.init.ptp.domain) | PTP 通信のマルチキャストアドレスを定義する PTP ネットワークのドメイン番号。 | IEEE 1588 PTP の有効な値は次のとおりです。<br><b>0:</b> (デフォルト) 224.0.1.129<br><b>1:</b> 224.0.1.130<br><b>2:</b> 224.0.1.131<br><b>3:</b> 224.0.1.132 |

表 3 Global DMP Settings: PTP プロパティの値(続き)

| プロパティ<br>(レジストリ キー)                                              | 説明                         | 値                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| PTP リーダー候補<br><br>(Globaldmpsetting.common.init.ptp.master.host) | リーダー候補選択の対象となるデバイス。        | 値は次のとおりです。<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>■ *: (デフォルト)。PTP リーダー候補の対象としてネットワーク内のすべてのデバイスを指定するワイルドカードパターン。</li> <li>■ サブネットごとにセミコロンで区切られた、デバイスの IPv4 アドレス。</li> </ul> 例:<br>10.0.0.3;10.0.0.4;192.168.0.5;192.168.0.6<br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>■ 空白: Cisco Vision Director の外部にある PTP リーダーソースが使用されることを指定します。この設定は、複数のサブネットにデバイスがない場合にのみ有効です。</li> </ul> |
| PTP time-to-live<br><br>(Globaldmpsetting.common.init.ptp.ttl)   | PTP リーダーの選出で通過できる VLAN の数。 | 1(デフォルト)<br><br>注: ビデオウォールごとの PTP リーダーの選出を 1(デフォルト値)のままにすることをお勧めします。TTL を 2 以上に設定すると、ローカル ビデオ同期の低下が発生する可能性があります。                                                                                                                                                                                                                                                                          |

注: ドメインの設定を空白にすると、すべての DMP で PTP が無効になります。DMP は時刻源として再び NTP を使用するようになります。

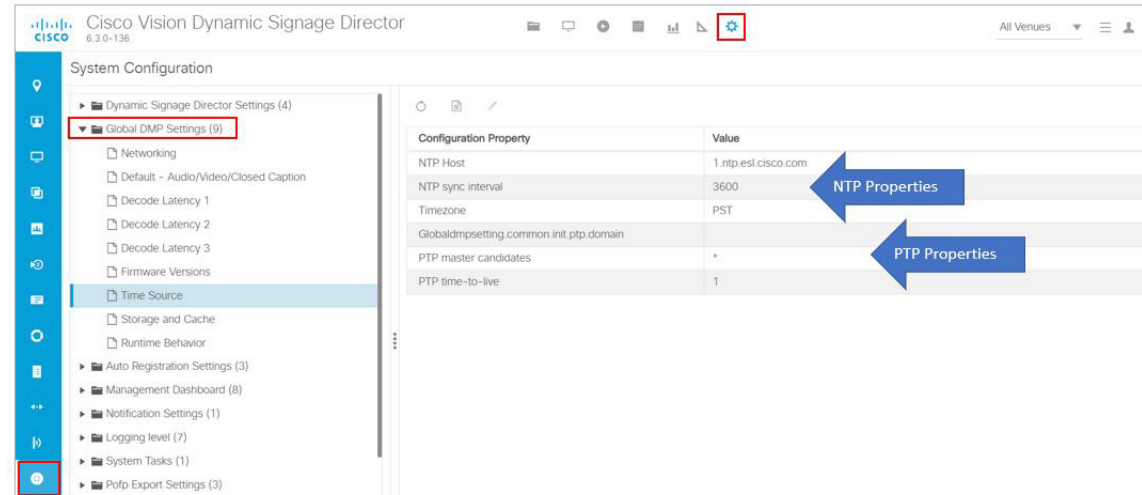
表 4 Global DMP Settings: NTP プロパティの値

| プロパティ<br>(レジストリ キー)                                                     | 説明                                   | 値                                           |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------|
| NTP Host<br><br>(Globaldmpsetting.common.deploy.ntpc.hostname)          | NTP サーバーの IPv4 アドレス。                 | デフォルト: Cisco Vision Director サーバーの IP アドレス。 |
| NTP sync interval<br><br>(Globaldmpsetting.common.deploy.ntpc.interval) | 設定された NTP ホストと時刻を同期するまでにデバイスが待機する秒数。 | 3600(デフォルト)                                 |
| Timezone<br><br>(Globaldmpsetting.common.deploy.ntpc.timezone)          | 使用するタイムゾーンのコード。                      | GMT(デフォルト)                                  |

すべての **DMP** で標準的な **NTP** および **PTP** 設定を変更する手順は次のとおりです。

1. 管理者として **Cisco Vision Director** サーバーにログインします。
2. **[Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Time Source]**([図 19\(38 ページ\)](#))の順にクリックします。

図 19 DMP の NTP と PTP のグローバル DMP 設定



3. (オプション)ネットワークの必要に応じて、グローバル **PTP** プロパティを変更します。**[Edit]** アイコン(鉛筆)をクリックします。[表 3\(36 ページ\)](#)を参照してください。
4. (オプション)環境の必要に応じて、グローバル **NTP** プロパティを変更します。**[Edit]** アイコン(鉛筆)をクリックします。[表 4\(37 ページ\)](#)を参照してください。
5. **[保存(Save)]** をクリックします。
6. デバイスをリブートします。

### デジタルメディアプレーヤーに対する PTP 動作の確認

ここでは、**PTP** 設定だけでなく、デバイスに対する **PTP** 動作も合わせて確認する方法について説明します。

デジタルメディアプレーヤーに対する **PTP** 動作を確認する手順は次のとおりです。

1. ブラウザを開き、**DMP** の 1 つに移動します。

**http://sv4k-ip-address/ptp.html**

2. 「offsetFromMaster」の値が **0.0** のユニットを探して、**PTP** リーダーを特定します。

図 20(39 ページ)では、PTP リーダーが強調表示され、12 のメンバーで PTP が正常に動作しているネットワークが示されています。

図 20 正常な PTP クロック動作

## PTP clock status

```

Status from local PTP:
sending: GET CURRENT_DATA_SET
90ac3f.ffff.038649-0 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 0
 offsetFromMaster 0.0 ←
 meanPathDelay 0.0

Status from remote PTP devices:
sending: GET CURRENT_DATA_SET
90ac3f.ffff.03863d-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 333.0
 meanPathDelay 12613.0
90ac3f.ffff.03863b-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster -597.0
 meanPathDelay 13332.0
90ac3f.ffff.03863c-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster -366.0
 meanPathDelay 13741.0
90ac3f.ffff.03863f-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 334.0
 meanPathDelay 12543.0
90ac3f.ffff.03863e-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 849.0
 meanPathDelay 13017.0
90ac3f.ffff.038641-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster -323.0
 meanPathDelay 13228.0
90ac3f.ffff.03864f-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 239.0
 meanPathDelay 12560.0
90ac3f.ffff.038645-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 90.0
 meanPathDelay 12642.0
90ac3f.ffff.038647-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 1328.0
 meanPathDelay 13542.0
90ac3f.ffff.03863a-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster 33.0
 meanPathDelay 14068.0
90ac3f.ffff.038646-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
 stepsRemoved 1
 offsetFromMaster -1768.0
 meanPathDelay 14699.0

```

## Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- Cisco Vision Director でのマルチキャスト サポートについて(40 ページ)
- Cisco Vision Director のユニキャスト レジストリキー(43 ページ)
- Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定方法(44 ページ)

## Cisco Vision Director でのマルチキャスト サポートについて

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [SV-4K、CV-UHD、および CV-UHD2 メディア プレイヤーでビデオをチャンネルとしてストリーミングするための HDMI-In エンコーディング \(40 ページ\)](#)
- [スクリプトごとのマルチキャスト最適化 \(40 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Director でのマルチキャスト レジストリキー \(42 ページ\)](#)

### SV-4K、CV-UHD、および CV-UHD2 メディア プレイヤーでビデオをチャンネルとしてストリーミングするための HDMI-In エンコーディング

Cisco Vision Director は、Cisco Vision Director のマルチキャストベースのチャンネルとして再生される SV-4K、CV-UHD、または CV-UHD2 デジタルメディアプレーヤーにおいて、HDMI-In ポートに接続されたラップトップまたはその他のサポート対象デバイスからのビデオのストリーミングをサポートしています。

Connected Venue (Connected Stadium) ネットワークでこの機能に使用するマルチキャスト範囲には、IPv4 組織ローカル/サイト スコープと呼ばれる管理スコープ アドレス範囲の一部、または IPv4 組織ローカル/サイト スコープ (239.0.0.0/8) の拡張を使用することを推奨します。SSM の場合は、管理スコープ範囲 (239.232.0.0/16) の特定のブロックを推奨します。

注: チャンネルのプライバシーを維持する場合は、一意のマルチキャスト アドレス (239.193.20.0/24 の範囲内) を使用してスイートごとに DMP エンコード チャンネルを作成し、スイートごとに個別のチャンネルを作成します。たとえば、10 個のスイートがある場合は、一意のマルチキャスト アドレスを使用して 10 個の独立した DMP エンコード チャンネルを作成し、DMP エンコード チャンネルごとに 10 個の異なるチャンネル ガイドを作成して、各スイートを異なるチャンネル ガイドに割り当てます。

この機能の設定については、『[Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4](#)』を参照してください。

### スクリプトごとのマルチキャスト最適化

シスコでは現在、各 DMP で処理する必要があるマルチキャスト メッセージの数を減らすために、スクリプトごとのマルチキャスト最適化を使用しています (最大 20 個の異なるスクリプトを対象)。スクリプトごとのマルチキャスト最適化は、Cisco Vision Director で次の条件が成り立つ場合に DMP の負荷を減らすことを目的としています。

- 複数のイベント スクリプトが施設で同時に実行されている。  
スクリプトは、複数の施設にわたって実行することも、1 つの施設で実行することもできます。
- スクリプトの DMP に複数のメッセージを送信する「外部コンテンツ統合」機能を使用している。

スクリプトごとのマルチキャスト最適化について

- スクリプトごとに最大 20 使用できます。
- 実行中のスクリプトの数が 20 を超える場合、最初の 20 個のスクリプトはスクリプトごとのマルチキャスト チャンネルを使用して動作し、その他のスクリプトはグローバル マルチキャスト ホスト ポート経由で動作します。
- リモート サーバーは不要です。
- デフォルト: 無効化

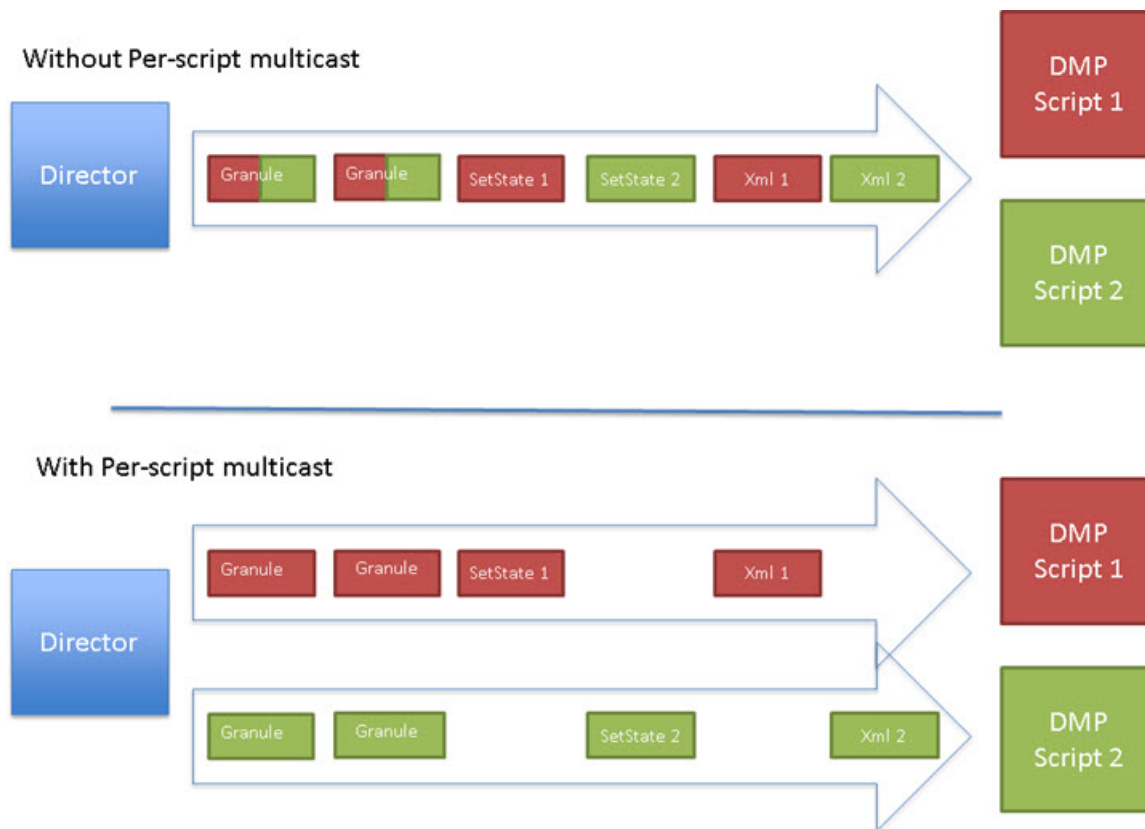


### スクリプトごとのマルチキャストの利点

複数のマルチキャストチャンネルを設定できます。サーバはそれらを介して、最大 20 個のスクリプトについて特定のイベントスクリプトに必要なマルチキャスト メッセージのみを送信します。

図 21 (41 ページ) に、スクリプトごとのマルチキャストがある場合とない場合のメッセージの分離を示します。各 DMP は、4 ~ 2 つのパケットを認識します。特に、各 DMP は 1 つの XML ペイロードのみを処理するだけで済むようになります。このことは、XML ペイロードが大きい場合に重要です。

図 21 マルチキャストメッセージング(スクリプトごとのマルチキャスト最適化がある場合とない場合)



すべての DMP が、リモート サイトに関連付けられている DMP も含めて、これらのスクリプトごとのマルチキャストチャンネルをリッスンします。

複数のイベントスクリプトに適用されるメッセージの場合は、メッセージが複製されて各マルチキャストチャンネルに送信されます。したがって、この機能によって、DMP が認識および処理するメッセージの数が減る代わりに、トレードオフとして Cisco Vision Director の負荷が増える (送信およびコピーされるメッセージの数が増える) 可能性があります。ただし、この負荷は無視しうる程度であると見込まれます。

ユニキャスト機能の詳細については、「Cisco Vision Director のスクリプトごとのユニキャストの設定 (45 ページ)」を参照してください。

## Cisco Vision Director でのマルチキャスト レジストリキー

Cisco Vision Director は、DMP コントロールプレーンの操作にマルチキャスト メッセージを使用します。Cisco Connected Venue (Connected Stadium) ネットワークの設計では、Cisco Vision Director が使用する次のマルチキャスト グループ アドレスが割り当てられます。

- 239.193.0.0/24: 制御通信用
- 239.192.0.0/24: ビデオ通信用(このモジュールで説明しているマルチキャスト設定では、このネットワークの使用は避けてください)

マルチキャスト アドレス指定は、Cisco Vision Director [Configuration]>[System Configuration]>[Advanced Registry Settings] ページのレジストリキーを使用して設定されます。

表 5(42 ページ)では、マルチキャスト設定を制御する Cisco Vision Director のレジストリ キーについて説明しています。

注:デフォルトの PTP ドメイン 0 は、マルチキャストアドレス 224.0.1.129 を使用します。詳細については、表 3(36 ページ)を参照してください。

表 5 Cisco Vision Director のマルチキャスト レジストリキー

| レジストリ キー                                                 | デフォルト値                                                                                                                                                                                                                                                                      | 説明                                                             |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| Globaldmpsetting.sv4k.init.dmpsync.m<br>ulticast.address | 239.193.0.253                                                                                                                                                                                                                                                               | DMP でのゾーンベースの同期に使用されるグローバル マルチキャスト アドレスを設定します。                 |
| Globaldmpsetting.sv4k.init.dmpsync.m<br>ulticast.port    | 50001<br><br>注: システムでは、セカンダリ ビデオについてこのデフォルト(デフォルト + 1)に基づいて追加のポートが自動的に使用されます。デフォルトが 50001 の場合は、50002 もセカンダリ ビデオの使用に予約されています。                                                                                                                                                | DMP でのゾーンベースの同期のマルチキャスト アドレスを使用するためのプライマリ ビデオのデフォルト ポートを設定します。 |
| MulticastHostPort                                        | 239.192.0.254:50001<br><br>注意: このデフォルトのマルチキャストアドレスは、インストール後に 239.193.0.0/24 のアドレス範囲、または Cisco Connected Stadium ネットワークで Cisco Vision Director の制御用に設定したネットワークを使用するように変更してください。                                                                                              | Cisco Vision Director のグローバル マルチキャスト アドレスおよびポートを設定します。         |
| transport.dynamic.enable                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ False(アップグレードしたサーバーの場合)</li> </ul> スクリプトごとのマルチキャスト最適化は無効になり、Cisco Vision Director サーバーは、すべての通信を MulticastHostPort アドレス経由ですべての DMP(すべてのリモート DMP を含む)に直接送信します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ True(新規インストールの場合)</li> </ul> | スクリプトごとのマルチキャスト最適化を有効または無効にします。                                |

表 5 Cisco Vision Director のマルチキャスト レジストリキー(続き)

| レジストリ キー                     | デフォルト値                                                                                                                                                      | 説明                                                                                                                                         |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| transport.dynamic.send_range | 50080-50099<br><br>MulticastHostPort レジストリ キーが 239.193.0.254:50001 に設定されている場合は、実行中スクリプトのグローバル ホストポートの範囲として 239.193.0.254:50080-239.193.0.254:50099 が使用されます。 | スクリプトごとのマルチキャスト最適化を行うためのポート範囲を指定します。<br><br>これらのポートは MulticastHostPort レジストリ キーで指定されたネットワークで使用され、実行中スクリプトに割り当てられる追加のグローバル ホストポートの範囲を定義します。 |

### Cisco Vision Director のユニキャスト レジストリキー

リリース 6.2 以降、DMP が Cisco Vision Director からのユニキャスト制御メッセージを介してユニキャスト状態変更メッセージを受信できるようにするユニキャストレジストリ設定がサポートされています。ユニキャストのレジストリ設定は、**script.stateChange.nextStateDelay** です。

注:ユニキャストの使用には、次の警告が適用されます。

- ユニキャストによって**その他の**マルチキャストが不要になるわけではありません。
  - データ統合のデータに依存するウィジェットを使用する場合は、ウィジェットがマルチキャストを利用してデータ競合を取得することを確認してください。
  - マルチキャスト ビデオ チャネルの場合はユニキャストを使用しないか、ユニキャスト ビデオ チャネルを使用してください。
  - ビデオ ウォール同期の代替手段はありません。
- 同時に到着する **setState** メッセージに依存する同期は実行されない可能性があります。
- この機能は、エッジ条件のみをカバーする代替手段です。

**重要:**setState を使用して DMP を同期する場合は、同期を試行するために、レジストリ値 **script.stateChange.nextStateDelay** によってすべての状態変化メッセージ(マルチキャストとユニキャストの両方)が遅れます。これを「ベスト エフォート」として使用します。環境に合わせて調整してください。5 秒に設定すると、**すべての状態変化が 5 秒間遅れます。**

詳細については、[Cisco Vision Director のスクリプトごとのユニキャストの設定\(45 ページ\)](#)を参照してください。

### Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定に必要な前提条件

マルチキャスト ポートを設定する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- Cisco Connected Venue ネットワークや Cisco Vision Mobile ネットワークを含む、Cisco Vision Director ネットワークのすべての領域におけるマルチキャスト アドレッシングの使用について理解する必要があります。マルチキャスト アドレス/ポートのオーバーラップがないことを確認します。

**注意:**スクリプトごとのマルチキャスト設定では多数のポートが必要になります。また、ビデオが DMP の制御チャンネルにルーティングされる場合、診断が困難な障害を起こす可能性があります(ポート番号が同じ場合に発生する可能性があり、グループ/ホスト部分が異なる場合でも同様です)。そのため、使用を予定しているポート範囲がネットワーク内の他のマルチキャスト ソースで使用されていないことを確認することが重要です。

- Cisco Connected Venue ネットワークで推奨されるマルチキャスト アドレッシングの詳細については、『[Cisco Vision Network, Server, and Video Headend Requirements Guide](#)』を参照してください。このガイドは認定パートナーがシスコ担当者から入手できます。

- Cisco Vision Director ネットワーク (リモート施設のネットワークや、複数施設環境の施設に関連付けられているネットワークも含む) のすべての DMP に向けてグローバル マルチキャスト ホスト ポートをルーティングして DMP に認識されるように、ネットワークを正しく設定する必要があります。

## Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

- Cisco Vision Director のグローバル マルチキャスト ホスト ポートの設定 (44 ページ) (必須)
- Cisco Vision Director のスクリプトごとのマルチキャストの設定 (44 ページ) (推奨)
- DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャスト サポートの設定 (48 ページ) (任意)

### Cisco Vision Director のグローバル マルチキャスト ホスト ポートの設定

グローバル マルチキャスト ホスト ポートは、メッセージがスクリプトの一部ではない場合、スクリプトごとのマルチキャストが無効になっている場合、または、実行中のスクリプトの数が設定済みのスクリプトごとのマルチキャスト ポートの最大数を超えた場合に、Cisco Vision Director が DMP にメッセージを送信するために使用します。

[Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] インターフェイスの「MulticastHostPort」レジストリキーを使用して設定されます。

注: デフォルト値は現在、アドレス 239.192.0.254:50001 を使用しており、239.193.0.0/24 の範囲のネットワーク アドレスに変更する必要があります。

**Cisco Vision Director のマルチキャスト アドレッシングを確認または設定する手順は次のとおりです。**

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします。
2. キーリストで「MulticastHostPort」レジストリキーまでスクロールし、レジストリのエントリを確認します。
3. [Value] フィールドをクリックし、[Edit] をクリックします。[Edit - Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます。
4. 239.193.0.0/24 の範囲のマルチキャストアドレスとポート番号を指定します。

注: 必ず Cisco Connected Venue ネットワークで Cisco Vision Director 制御メッセージ用に設定した値を使用し、:port を含めてください。デフォルトの推奨値は :50001 です。

5. [保存 (Save)] をクリックします。

### Cisco Vision Director のスクリプトごとのマルチキャストの設定

デフォルトでは、スクリプトごとのマルチキャスト最適化は無効になり、Cisco Vision Director サーバは、すべての通信を MulticastHostPort アドレス経由ですべての DMP (すべてのリモート DMP を含む) に直接送信します。

スクリプトごとのマルチキャストを設定するには (ポートの数を増やす/減らす)、次の手順を実行します。

1. 実行中のすべてのスクリプトを停止します。
2. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします。

スクリプトごとのマルチキャストを有効にするには、次のレジストリ キーの値を変更します。

- **transport.dynamic.enable**: 値 **true** を指定します。
- **transport.dynamic.send\_range**: (必要に応じて) ネットワーク設定に従うようにポートの範囲を変更します。デフォルトは 50080-50099 です。

注: これらのポートが、ネットワークで使用している他のマルチキャスト ポートと重複しないことを確認してください。

3. [保存 (Save)] をクリックします。

4. すべての DMP で HTML ランタイムをリロードします。
  - a. コマンドを適用する必要があるすべての DMP デバイスを選択します。
  - b. [Play] ボタンをクリックして、選択されたデバイスに対してコマンドを実行します。
5. 設定を確認するには、次のコマンドを実行します。
  - a. イベント スクリプトを開始して停止し、状態を変更します。
  - b. DMP がリッスンしているグローバル マルチキャストが、グローバル マルチキャスト ホストポート (50001) ではなく、スクリプトごとのポート (デフォルトでは 50080-50099) のいずれかであることを確認します。

スクリプトが開始および停止しない場合は、[スクリプトごとのマルチキャスト設定のトラブルシューティング \(47 ページ\)](#) を参照してください。

### Cisco Vision Director のスクリプトごとのユニキャストの設定

リリース 6.2 以降、ユニキャストの状態変更展開機能がサポートされています。ユニキャストの状態変化 DMP には、マルチキャストが提供する機能のすべては備わっていません。**推奨**されるベスト プラクティスは、マルチキャストの状態変化展開です。DMP がメインの施設外に存在するか、マルチキャスト ルーティングを使用できないように配置および設定されている可能性がある場合は、ユニキャストの状態変化を使用します。

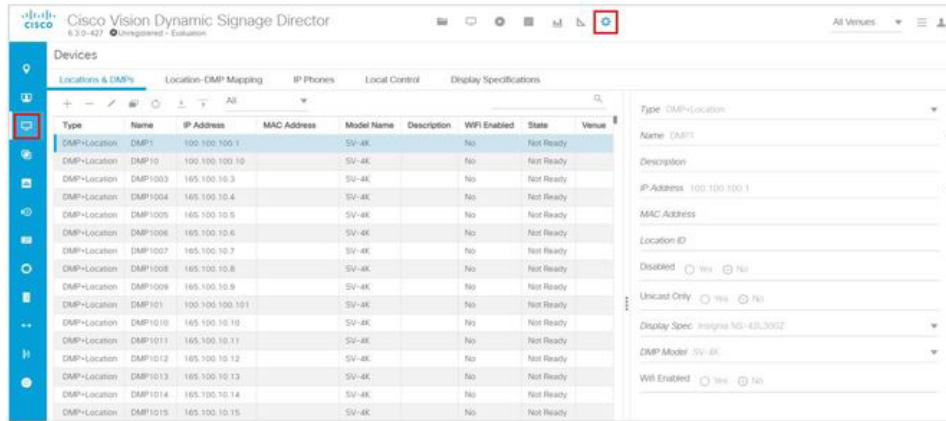
ユニキャストの状態変化メッセージには、いくつかの制限事項があります。

- ユニキャストの状態変化メッセージを使用する DMP は、他のユニキャストの状態変化 DMP、またはマルチキャストの状態変化メッセージを使用する DMP のいずれとも、状態変化を同期しません。同期が行われないことによる影響は、すべてのコンテンツ タイプに及ぶ可能性があります。
- ユニキャスト状態変更メッセージはすべての DMP に送信されますが、ネットワークの遅延、DMP サーバーの処理負荷、および DMP の状態が原因で、状態変更メッセージが遅延する場合があります。これが同期不足の原因です。
- 大規模なサーバー展開を使用する 5000 DMP の場合、最良のケースは、すべての 5000 DMP への送信に少なくとも 3 秒かかることです。ただし、これは最良の場合の見積もりです。実際の状況では、setState メッセージを受信した最初の DMP から最後まで状態の違いとして、3 秒を超えるタイミングが発生します。
- ユニキャストの状態変化メッセージによって、システムでの以下を含むその他のマルチキャストの使用が不要になることはありません。
  - マルチキャスト ビデオ ストリーム。
  - DMP 間のゾーンベースのビデオ ウォール同期通信には、ビデオ ウォール内の DMP 間のマルチキャスト通信が使用される。
  - PTP によるマルチキャスト通信の使用。
  - データ統合機能を使用した外部データ ソースのマルチキャスト アップデート (ウィジェットとの組み合わせ)。回避策として、データ統合機能を使用するウィジェット内にデータ バインド コンポーネントを設定する。
  - ユニキャスト状態変更メッセージは再送信されません。サーバーが (ネットワークの問題、DMP のダウンなどにより) 時間内に状態変更メッセージで DMP に到達できない場合、メッセージは再送信されません。DMP は、将来の状態変更で状態変更メッセージが正常に送信されるまで、前の状態を表示します。

Cisco Vision Director UI を使用してデバイスでユニキャストを選択するには、次の手順を実行します。

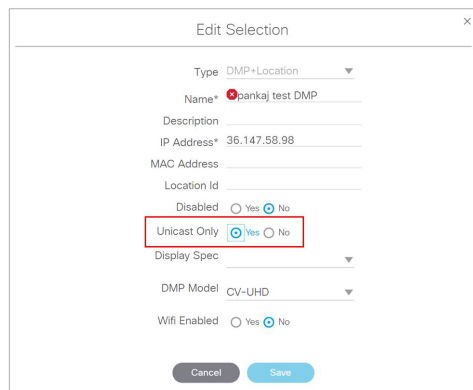
1. [Configuration] > [Devices] > [Locations & DMPs] タブをクリックします (図 22(46 ページ))。

図 22 ユニキャストするデバイスの選択



2. リストから特定のデバイスを選択し、[Edit] アイコンをクリックします。[Edit selection] ダイアログボックスが表示されます (図 23(46 ページ))。

図 23 特定の DMP のユニキャストオプションの選択



3. デバイスの [Unicast Only] の [Yes] をオンにします。
4. 残りのフィールドに入力し、[Save] をクリックします。

## 状態遅延: 推奨ソリューション

ユニキャストの状態変化メッセージを使用する DMP は、それらの状態変化を他の DMP (ユニキャストの状態変化 DMP を使用する DMP やマルチキャスト状態変化を使用する DMP) と同期しません。

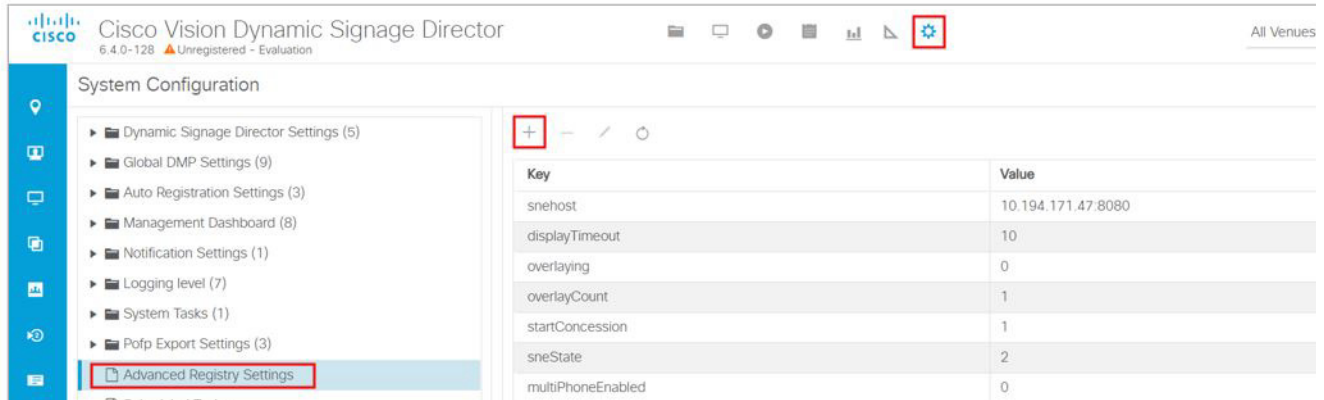
考えられる回避策の 1 つは、システムがすべてのユニキャスト DMP と通信できるように、状態変化の実装を遅らせることです。

**注:** この手順は、ユニキャストの状態変化メッセージが原因で同期の問題が発生した場合の回避策としてのみ使用されます。このような同期の問題が特に発生していない限り、状態の遅延を有効にしないでください。上記の注意事項を考慮してください。

デバイスの **Cisco Vision Director** でユニキャストレジストリを設定するには、次の手順を実行します。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします (図 24(47 ページ))。
2. [Key] 列で [Add] をクリックします。[Create Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます。

図 24 レジストリの追加



3. [Name] フィールドに **script.stateChange.nextStateDelay** と入力します。
4. [Value] フィールドに **n** と入力します。ここで、n は状態変化を遅延させる秒数です。
5. [保存(Save)] をクリックします。

#### 状態遅延に関する注意事項

- 状態遅延は、システム内のすべての DMP (ユニキャストを使用する DMP とマルチキャストの状態変化メッセージを使用する DMP) に影響します。
- 状態遅延によってすべての状態変化がその時間に応じて遅れるため、状態が急に変化しにくくなります。
- 状態遅延は「ベスト エフォート」です。ネットワークとシステムの条件によっては、上記で選択した値で状態変化メッセージの同期が実行される保証はありません。
- 状態変化が保留されている間は状態を変化させないでください。予期しない結果となる場合があります。

#### スクリプトごとのマルチキャスト設定のトラブルシューティング

このセクションでは、スクリプトごとのマルチキャスト最適化が有効になっている場合に生じる次の動作について、そのトラブルシューティングに関する情報を示します。

- [スクリプトを開始または停止できない\(47 ページ\)](#)
- [DMP がリブートする\(48 ページ\)](#)

#### スクリプトを開始または停止できない

マルチキャストのパケットが次の方法の一部またはすべてを使用して DMP に到達していることを確認します。

- Cisco Vision Director の TUI の [Troubleshooting] メニューから参照できる、制御ログの `sv_msg_mcast_trace.log` を調べます。
- Cisco Vision Director や DMP でパケット スニファ デバイスを使用します。
- マルチキャスト グループのサブスクリプションのデバッグを有効にして、Cisco Connected Venue スイッチのマルチキャスト設定を調べます。

**ヒント:**特定の DMP がリッスンする必要のあるマルチキャストグループ/ポートを把握することが重要です。これは、次の URL に移動して `dmpconfig` デバッグ機能を使用することで検証できます。

**`http://svd-ip:8080/StadiumVision/dmpconfig/000000000000?ipaddr=x.x.x.x,`**

ここで、`x.x.x.x` は、デバッグ対象の DMP の IP アドレスです。XML の出力から、マルチキャスト IP アドレスと使用中のポートがわかります。

### DMP がリポートする

スクリプトごとのマルチキャストを有効にしているときに、DMP がリポートする、または応答しなくなる場合、最も可能性が高い原因は、一部のマルチキャスト ビデオ ポートがマルチキャストの制御に使用されるポートとオーバーラップしていることです。

この状態を診断する手順は次のとおりです。

1. 設定にあるすべてのマルチキャスト ポートを調べて、マルチキャスト グループ/ポートが重複していないか確かめます。
2. パケット スニファを使用し、DMP 経由ではなく別のボックスでポート範囲を経由して DMP のネットワーク トラフィックを調べます。

## DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャスト サポートの設定

ゾーンベース コンテンツ同期を使用すると、プレイリストの実行中に DMP がリポートした場合のビデオウォールのリカバリ機能が強化されます。ゾーンベース ビデオウォール同期とは、ビデオウォールに参加しているデバイスで使用できる代替の同期形式です。この形式ではデバイス固有のメカニズムが使用されるため、一連のメディアプレーヤーはマルチキャストを介して常にリーダーデバイスとコンテンツを同期できます。

一般的なガイドラインとして、15分を超えるビデオコンテンツを再生する専用ビデオウォールには、ゾーンベース ビデオウォール同期を使用します。すべてのビデオウォールにこの同期形式を使用できますが、同期の利点がわかりやすいのは、より長いビデオウォールコンテンツを再生する場合です。

デフォルトのマルチキャストアドレスとポートは、Cisco Vision Director ソフトウェアのインストール時に、DMP でゾーンベース コンテンツ同期をサポートするように自動的に設定されます。ただし、この機能はデフォルトでは有効になっていません。

システム全体でマルチキャストアドレッシングが必要であると判断し、必要に応じてデフォルトのマルチキャストの値を変更する場合は、このタスクを実行します。

**注:**デフォルトでは、ゾーンベース コンテンツ同期は有効になっていません。詳細については、『[Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4](#)』の「Working with Video Walls」の項を参照してください。

DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャストサポートを設定する手順は次のとおりです。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
2. 次のプロパティについて、次のデフォルト値にネットワークとの互換性があることを確認し、必要に応じて変更します。
  - **Content sync multicast address:** 239.193.0.253
  - **Content sync multicast port:** 50001
3. 変更を保存します。



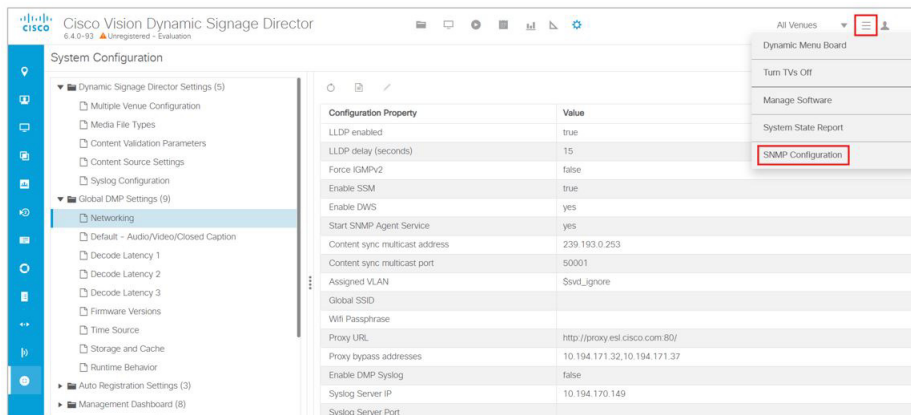
## Cisco Vision Director で SNMP を有効にする方法

リリース 6.4 では、Cisco Vision Director が、ネットワーク管理サーバーから送信された Simple Network Management Protocol (SNMP) 情報要求に応答できるようにします。

**Cisco Vision Director で SNMP を有効にするには、次の手順を実行します。**

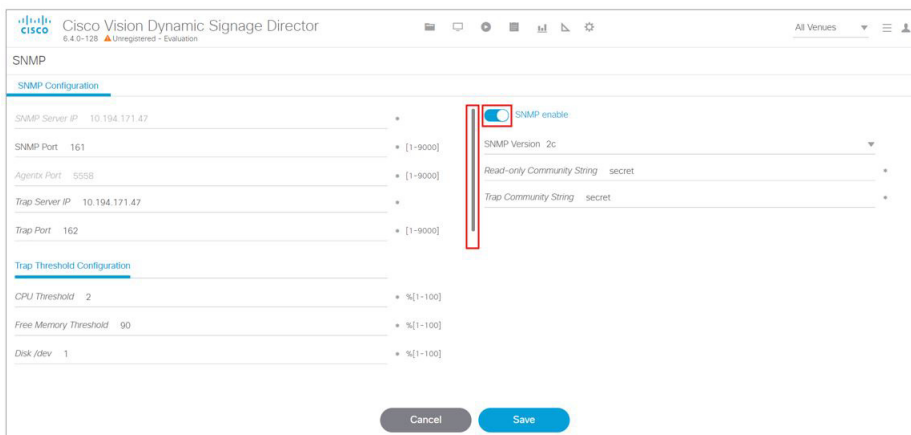
1. [詳細] > [SNMP] 設定をクリックします(図 25(49 ページ))。画面が更新され、設定とトラップのしきい値が表示されます。

図 25 ディレクタでの SNMP の有効化



2. [slider] をクリックして **SNMP** を有効化します(図 26(49 ページ))。スクロールバーを使用して、すべてのトラップしきい値設定を表示します。

図 26 SNMP 設定情報の設定



任意のフィールドにカーソルを合わせると、矢印が表示されます。必要に応じて変更を加えます。

3. [保存(Save)] をクリックします。

**注:** デフォルトでは、これは設定されていません。SNMP を有効にして設定を選択する必要があります。次に、トラップのしきい値を選択します。

## DMP での SNMP の有効化

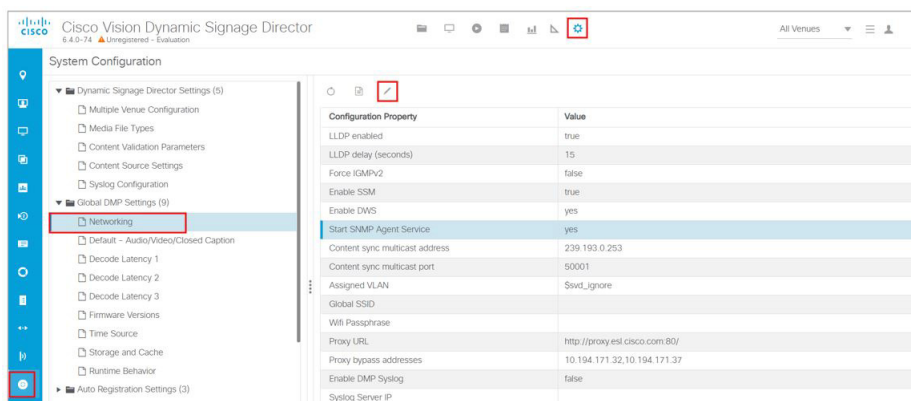
リリース 6.4 では、DMP での SNMP サポートが導入されています。サポートされている SNMP のバージョンは SNMP V2C です。

DMP で SNMP を有効にすると、メディアプレーヤーが外部ネットワーク管理サーバーからの SNMP 要求に応答できるようになります。これにより、ネットワーク上のさまざまなデバイスが、異なるソフトウェアを実行しており、さまざまなハードウェアデバイスを含んでいる場合でも、情報を共有できます。

DMP で SNMP サービスを開始するには、次の手順を実行します。

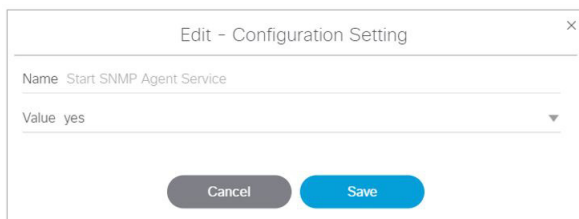
1. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
2. [Configuration Properties] パネルから [Start SNMP Agent Service] (図 27 (50 ページ)) を選択します。

図 27 DMP での SNMP の有効化



3. [Edit] をクリックします。[Edit - Configuration] ダイアログボックスが表示されます。
4. 値を「はい」に設定します。[保存 (Save)] をクリックします。

図 28 SNMP エージェントサービスの開始の設定



このレジストリは、デバイスの SNMP ポートを開き、ログファイルを受信できるようにします。これで、DMP から SNMP サービス情報を受信できるようになりました。

## ディレクターからの外部サーバーへの Syslog サポートの有効化

リリース 6.4 では、システムログファイルを Cisco Vision Director から syslog サーバーに送信できます。[System Configuration] インターフェイスで設定する新しい設定プロパティを追加しました。このプロパティのデフォルトは「false」です。Syslog ファイルを送信するように Director を設定した後、Cisco Vision Director からファイルを受信するように外部サーバーを設定します。

syslog プロパティを有効にするには、次の手順を実行します。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Dynamic Signage Director Settings] > [Syslog Configuration] をクリックします。
2. [Enable Syslog]([図 29\(51 ページ\)](#))を選択します。
3. [Edit] をクリックします。[Edit Configuration Settings] ダイアログボックスが表示されます。
4. 下矢印から「true」を選択し、[Save]([図 30\(51 ページ\)](#))をクリックします。

図 29 Syslog プロパティの有効化

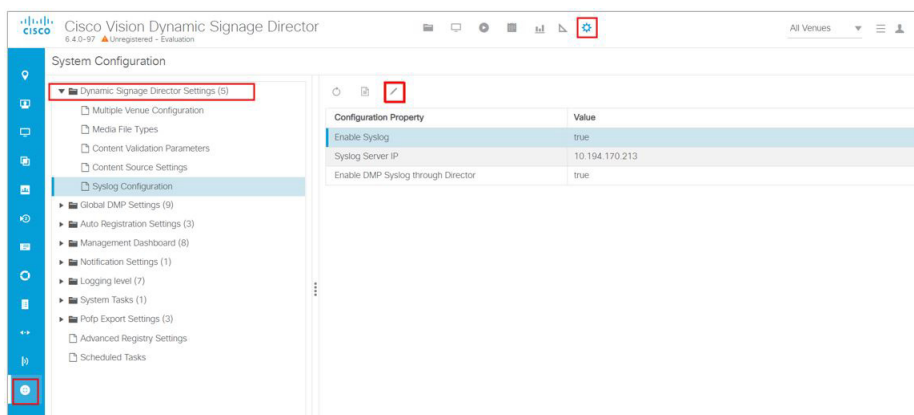
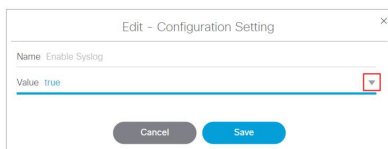


図 30 Syslog プロパティの有効化の設定



Cisco Vision Director は、次のシステムログファイルを NMS サーバーに転送します。

- RFC5424: RFC5424 で定義されている syslog メッセージの最新の形式
- RFC5426: ユーザー データグラム プロトコル(UDP)を介してログを転送します。

サービスを有効にしたので、syslog ファイルの送信先を Director に指示します。

syslog IP およびポートアドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. [Syslog Server IP & Port]([図 31 \(52 ページ\)](#))をクリックします。
2. [Edit] をクリックします。[Edit - Configuration] ダイアログボックス ([図 32 \(52 ページ\)](#))が表示されます。

図 31 Syslog サーバー IP およびポートアドレスの設定

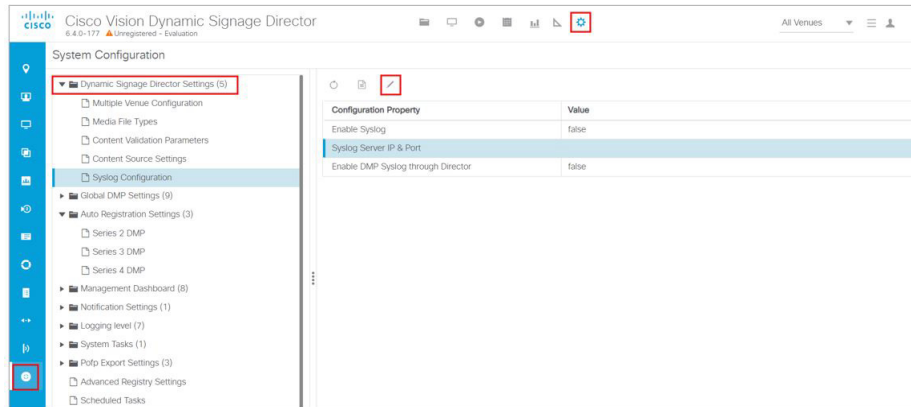
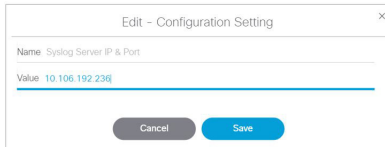


図 32 Syslog サーバー IP およびポートプロパティ



3. [Value] フィールドにアドレスを入力します。
4. [保存 (Save)] をクリックします。

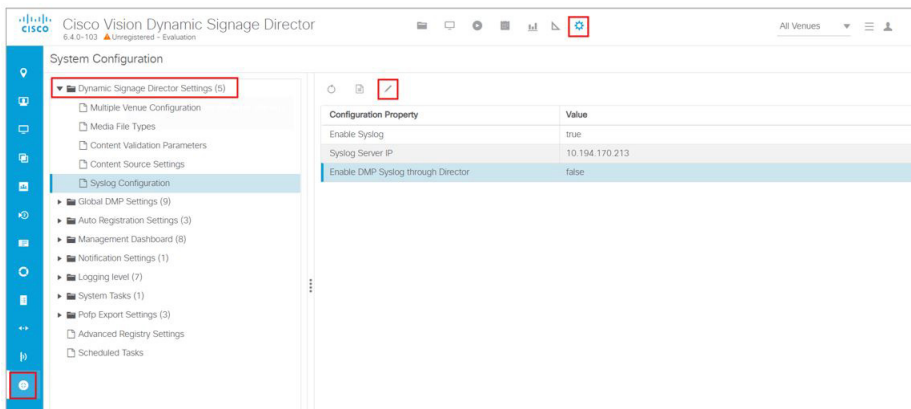
設定した IP アドレスは、syslog 情報を Cisco Vision Director からそのサーバーにルーティングします。

5. IP とポートのアドレスがフィールド([図 31 \(52 ページ\)](#))に表示されていることを確認します。

DMP システムログが Director にアクセスできるように設定するには、次の手順を実行します。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Dynamic Signage Director Settings] > [Syslog Configuration] をクリックします。
2. [Enable DMP Syslog through Director] プロパティ ([図 33 \(53 ページ\)](#))を選択します。
3. [Edit] をクリックします。[Edit Configuration Settings] ダイアログボックスが表示されます。
4. 値を **True** に変更します。

図 33 Director プロパティを介した DMP Syslog の有効化



## DMP での Syslog サポート

[nable DMP Syslog] を **true** に設定すると、このコマンドにより、DWS ログを除くシステムログファイルが外部の Syslog サーバーに送信されるようになります。Cisco Vision Director の設定プロパティのデフォルトは **false** です。

DMP Syslog を有効化するには、次の手順を実行します。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
2. [Enable DMP Syslog] を選択します。
3. [Edit] をクリックします(図 34(53 ページ))。[Edit - Configuration Setting] ダイアログボックス(図 35(54 ページ))が表示されます。

図 34 DMP Syslog サポートの有効化

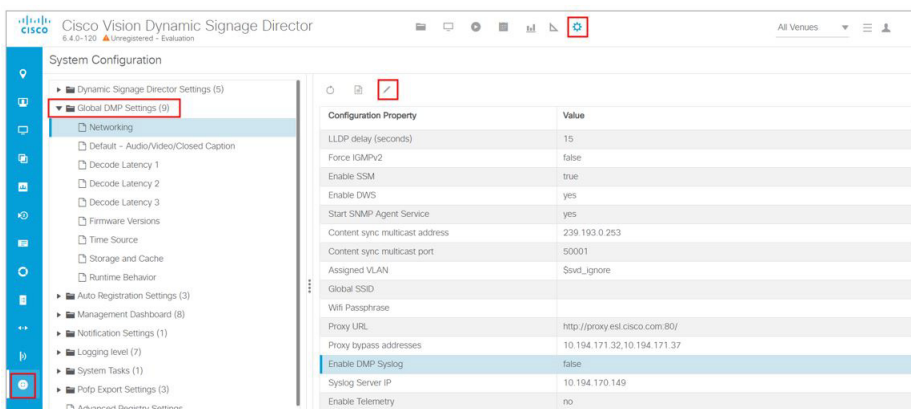


図 35 DMP Syslog プロパティの有効化の設定

4. 値を **true** に設定します。[保存(Save)] をクリックします。

注: このプロパティを有効にしたら、DMP を再起動します。

Syslog のサービスを開始または停止すると、ログファイルが最初から開始され、履歴が失われます。古いログファイルの消去および廃棄機能は同じままです。

システムログファイルをリモートサーバーに送信するには、Director UI で Syslog サーバー IP 設定を設定します。

Syslog サーバーの IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

5. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
6. [Syslog Server IP] を選択します。
7. [Edit] をクリックします (図 36 (54 ページ))。[Edit - Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます (図 37 (54 ページ))。

図 36 DMP からの Syslog サーバー IP

| Configuration Property         | Value                          |
|--------------------------------|--------------------------------|
| LLDP enabled                   | true                           |
| LLDP delay (seconds)           | 15                             |
| Force IGMPv2                   | false                          |
| Enable SSM                     | true                           |
| Enable DWS                     | yes                            |
| Start SNMP Agent Service       | no                             |
| Content sync multicast address | 239.193.0.253                  |
| Content sync multicast port    | 50001                          |
| Assigned VLAN                  | \$vid_ignore                   |
| Global SSID                    | BigQ8-DevQA                    |
| Wifi Passphrase                | *****                          |
| Proxy URL                      | http://proxy.esl.cisco.com/80/ |
| Proxy bypass addresses         | 10.194.170.142                 |
| Enable DMP Syslog              | false                          |
| Syslog Server IP & Port        | 10.194.170.149                 |
| Enable Telemetry               | no                             |

図 37 DMP からの Syslog サーバーの IP アドレスの設定

8. [Value] フィールドにアドレスを入力します。

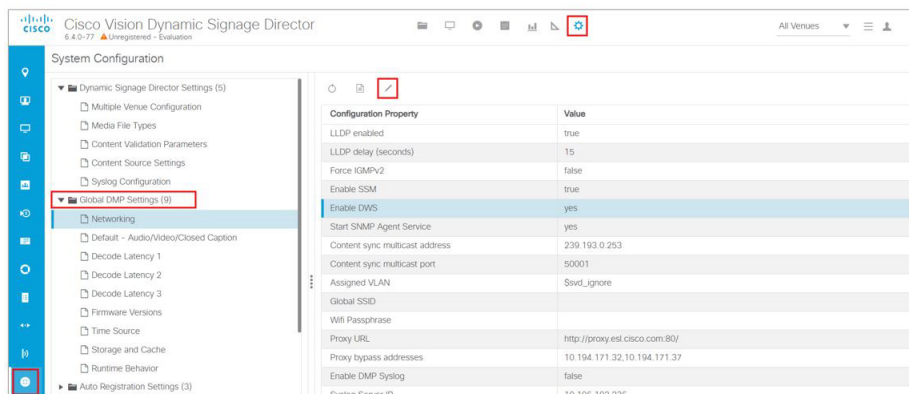
9. [保存(Save)] をクリックします。

設定した IP アドレスは、syslog 情報を DMP からその外部サーバーにルーティングします。

IP アドレスがフィールドに表示されていることを確認します。

注: 診断 Web サーバーログを DMP に送信するには、[Enable DWS] プロパティを [yes] に設定する必要があります (図 38 (55 ページ))。

図 38 DMP の DWS の有効化



注:DMP を再起動して有効にします。

## ディレクターの管理情報ベース (MIB) 変数

Cisco MIB データを取得するには、次の手順を実行します。

1. FTP クライアントプログラムを使用して、[ftp.cisco.com](ftp://ftp.cisco.com) にアクセスします。
2. ログインして、**anonymous** をユーザー名として使用し、メールアドレスをパスワードとして使用します。
3. **cd/pub/mibs** コマンドを発行して、ディレクトリを **/pub/mibs/v2** に変更します。

注:問題が発生した場合は、パスワードの最初の文字としてマイナス記号(-)を使用してログインしてみてください。これにより、FTP クライアントプログラムを混乱させる可能性のある機能が無効になります。**Cisco.com** からファイルをダウンロードするには、パッシブモード対応の FTP クライアントを使用する必要があります。次のを取得するには、システム管理者に連絡します。

FTP 関連の問題に関する質問、意見、または問題レポートを [Cisco.com](https://www.cisco.com) フィードバックに送信します。

次の表に、Cisco Vision Director で現在サポートされている MIB を示します。

表 6 Cisco Vision Director の MIB

| 送信元 | 値                                         |
|-----|-------------------------------------------|
| CPU | ユーザー CPU 時間の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.11.9.0   |
|     | 未処理のユーザー CPU 時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.50.0 |
|     | システム CPU 時間の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.11.10.0  |
|     | 未処理のシステム CPU 時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.52.0 |
|     | CPU アイドル時間の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.11.11.0   |
|     | 未処理の CPU アイドル時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.53.0 |
|     | 未処理の CPU 最適時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.51.0   |

## 次の作業

表 6 Cisco Vision Director の MIB (続き)

| 送信元           | 値                                                     |
|---------------|-------------------------------------------------------|
| メモリ           | 合計スワップサイズ:.1.3.6.1.4.1.2021.4.3.0                     |
|               | 利用可能なスワップ領域:.1.3.6.1.4.1.2021.4.4.0                   |
|               | マシンの合計 RAM:.1.3.6.1.4.1.2021.4.5.0                    |
|               | RAM 合計使用済み容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.6.0                  |
|               | RAM 合計空き容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.11.0                   |
|               | RAM 合計共有済み容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.13.0                 |
|               | RAM 合計バッファリング済み容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.14.0            |
|               | キャッシュされたメモリの合計:.1.3.6.1.4.1.2021.4.15.0               |
| ディスク          | ディスクがマウントされている場所のパス:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.2           |
|               | パーティションのデバイスのパス:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.3               |
|               | ディスク/パーティションの合計サイズ(キロバイト):<br>.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.6 |
|               | ディスクの空き容量:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.7                     |
|               | ディスクの使用済みスペース:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.8                 |
|               | 使用されているディスク容量の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.9              |
| Network       | NIC 名のリスト:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.2                        |
|               | データの受信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.10                          |
|               | NIC 4 のデータの受信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.10                   |
|               | データの送信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.16                          |
|               | NIC 4 のデータの送信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.16                   |
| NTP 同期ステータス   | .1.3.6.1.4.1.9.9.1051.2.3                             |
| TV HDMI オン/オフ | .1.3.6.1.4.1.9.9.1051.2.2.1                           |
| ディレクタサービス     | .1.3.6.1.4.1.9.9.1051.2.2                             |

## 次の作業

Cisco Vision Director サーバーのシステムの設定が完了したら、次の作業を実行します。

- プライマリ サーバとセカンダリ サーバ間でバックアップ環境を設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 \(87 ページ\)](#)を参照してください。
- 複数施設をサポートするための Cisco Vision Director の設定については、[複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定 \(57 ページ\)](#)を参照してください。





# 複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定

複数施設アーキテクチャでは、中央のサーバー サイトを複数のリモート サイトと一緒に導入できます。このマニュアルは Cisco Vision Dynamic Signage Director の管理者を対象とするもので、複数施設サポートを有効にして管理する方法について説明します。

## 目次

- [複数施設サポートの設定に必要な前提条件 \(57 ページ\)](#)
- [複数施設サポートの設定に関する制約事項 \(57 ページ\)](#)
- [複数施設サポートの設定について \(59 ページ\)](#)
- [複数施設サポートの設定方法 \(61 ページ\)](#)
- [展開済みデバイスを 1 つの施設システムから複数の施設システムへ移行する方法 \(68 ページ\)](#)

## 複数施設サポートの設定に必要な前提条件

複数施設サポートを設定する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- [Cisco Vision Dynamic Signage Director オンプレミス アーキテクチャの概要 \(11 ページ\)](#) を読んでおく必要があります。
- Cisco Vision Dynamic Signage Director におけるゾーン、グループ、ロケーションの導入について理解し、プレイリストとスクリプトの使用について理解する必要があります。
- 一元化された Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーがインストールされています。
- 既存のロケーションに対する新規の設定または設定の変更について計画を済ませておく必要があります。既存のロケーションの場合は、必ず現在のグループ/ゾーンの関連付けを把握しておいてください。既存のロケーションを特定の施設に再割り当てすると、この関連付けは無効になります。

## 複数施設サポートの設定に関する制約事項

複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定を行う前に、必ず次の制限事項を考慮してください。

- リモートの場所にある DMP はすべて、中央の Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーによって制御されます。
- DMP タイムサービス用の PTP リードは、これらのリモート DMP と一緒に配置し、同じ VLAN 上に配置する必要があります。

## 複数施設サポートの設定に関する制約事項

- 施設オブジェクト(ロケーション、プレイリスト、スクリプトなど)は、施設オペレータ ロールに割り当てられているユーザーを除いて、単一施設の関連付けに制限されます。

**注意:** 既存のロケーションを特定の施設に再割り当てすると、以前のグループ/ゾーンに関連付けはすべて無効になり、ロケーションをグループ/ゾーンに割り当て直す必要があります。

- 施設管理者または施設オペレータのみを、1 つまたは複数の施設に関連付けることができます。
- Cisco Vision Dynamic Signage Director ソフトウェアの領域のうち「施設対応」となっているのは一部のみです。つまり、特定のロールが施設セクタを使用して施設固有の制御スコープを適用することができます。それらの領域は次のとおりです。
  - [Device Management](コマンドセンター モニタリング)
  - [Library] > [Upload Assets]
  - [Script Management]

**注:** 外部コンテンツ、チャンネル、およびダイナミック メニュー ボード(DMB)のコンテンツ アイテムは、すべての施設に対してグローバルです。したがって、施設管理者はこれらのグローバル コンテンツ アイテムも削除することができます。

  - [Event Management]
  - システム ステータス

ユーザ ロール別に許可されている特定のアクセスの詳細については、表 2(84 ページ)を参照してください。

**注:** [Configuration] インターフェイス の次の領域は、施設セクタを使用した直接の施設対応ではありませんが、定義されているオブジェクトに施設固有の関係を持たせることができます。

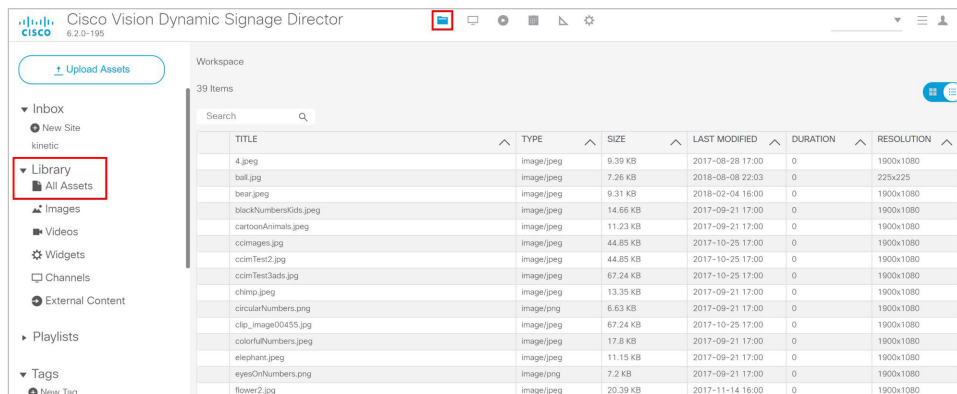
- [Users]: [Configuration] > [Users] ですべてのユーザを定義できますが、実行できるのは [Venues] タブで施設管理者または施設オペレータに施設を関連付けることのみです。[Users] インターフェイスは施設対応ではありません。
- [Groups & Zones]: ゾーンとグループでは、それらの施設との関連付けがロケーションを通じて継承されます。ロケーションは、管理者によって [Venues] タブで施設に関連付けられます。
- [Triggers]: トリガーは施設関連のスクリプトに適用できますが、トリガー インターフェイス自体は施設対応ではなく、Cisco Vision Dynamic Signage Director で定義されているトリガーのスコープはすべてグローバルです。
- メディア プランナー インポート API を使用してインポートしたプレイリストは、Cisco Vision Dynamic Signage Director へのインポート後に手動で施設に割り当てる必要があります。

**注意:** Cisco Vision Dynamic Signage Director では、複数施設サポートを有効にしてオブジェクトを関連付けた後に、複数施設サポートを無効にする(「Multiple Venue Enabled」プロパティを false に設定する)ことはできません。

**注:** 複数施設が有効になっている場合、[All Assets] メニュー項目は表示されません(図 1(59 ページ))。

複数施設サポートの設定について

図 1 複数施設を有効にした状態では [All Assets] を使用できない



## 複数施設サポートの設定について

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 複数施設の階層管理を行うためのロールベース アクセス コントロール (59 ページ)
- 施設の関連付けについて (60 ページ)
- 複数施設環境におけるスクリプトとステージングの動作について (61 ページ)

## 複数施設の階層管理を行うためのロールベース アクセス コントロール

Cisco Vision Dynamic Signage Director リリース 5.0 では、新しい施設管理者ロールが導入されています。

ユーザーの管理、およびロールベース アクセス コントロール (RBAC) の詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザ管理 \(81 ページ\)](#) を参照してください。

### 管理者 (Administrator)

Cisco Vision Dynamic Signage Director 管理者は、施設の管理に関連するすべての機能を実行できます。

複数施設サポートの設定管理のほとんどは、Cisco Vision Dynamic Signage Director 管理者ロールと一緒にのみ存在します。これには次の機能の追加が含まれます。

- Cisco Vision Dynamic Signage Director での複数施設サポートの有効化
- Cisco Vision Dynamic Signage Director での施設の作成
- 施設管理者および施設オペレータのロールを持つユーザーの作成
- ユーザー、ロケーション、コンテンツ、プレイリスト、スクリプト、タグ、およびフォルダに任意の施設を関連付ける機能

## コンテンツ マネージャ (Content Manager)

複数施設アーキテクチャでは、コンテンツマネージャは、標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director 環境内の機能と同じ機能をすべて実行でき、さらに次の追加機能を持ちます。

- **[Configuration] > [Venue]** の選択
- 施設タグを使用して 1 つまたは複数の施設に関連付けるコンテンツのインポート
- 現在選択されている施設スコープまたはすべての施設に関連付けるプレイリストやスクリプトの作成

**注:** コンテンツ マネージャは、現在施設セレクトで選択されている施設に基づいて施設が割り当てられる新しいオブジェクトのみを作成できます。別の施設にオブジェクトを再割り当てする場合、コンテンツ マネージャはオブジェクトを削除して再度追加する必要があります。

## 施設管理者 (Venue Administrator)

施設管理者ロールは、Cisco Vision Dynamic Signage Director の次の領域について、中央管理者がそのユーザーに対して承認された施設での権限が制限されています。

- **Device Management**
- **[Library] > [Upload Assets]**
- **[Script Management]**
- システム設定: コマンドのサポートが制限された読み取り専用アクセス
- **[Configuration] > [Devices]** (ディスプレイ仕様のみ): **[Groups & Zones]**、**[Channels Definitions]**、**[Luxury Suites]** への読み取り専用アクセス。

## 施設オペレータ (Venue Operator)

施設オペレータ ロールは、イベント オペレータ ロールとヘルプ デスク ロールのサブセットをベースに、施設固有の制御スコープの機能を追加したものです。施設オペレータ ロールは次の機能をサポートします。

- **[Configuration] > [Users]** でのユーザー パスワードの変更
- 権限が付与された施設の施設スコープの選択
- 権限が付与された施設への読み取り専用アクセス権限による、**[System Status]** で情報を表示および監視
- 権限が付与された施設でイベント中に行うスクリプトおよび関連するステート機能の実行
- **[Device Management]** の実行

**注:** 複数施設アーキテクチャでは、イベントオペレータは標準の Cisco Vision Dynamic Signage Director 環境内の機能と同じ機能をすべて実行できます。イベント オペレータ ロールは施設対応ではありません。スクリプトに対して施設固有の制御スコープをサポートする場合は、新しい施設オペレータ ロールを使用してください。

## 施設の関連付けについて

複数のリモート サイト (施設) がある集中型 Cisco Vision Dynamic Signage Director サイトでは、次の機能がサポートされます。

- ユーザー、ロケーション、プレイリスト、スクリプト (総称して「施設オブジェクト」) の関連付け
- グループ、ゾーン、ラグジュアリー スイートに対するロケーションからの施設の関連付けの継承

**ヒント:** 一括管理ツール (BAT) を使用して複数のロケーションを施設に関連付けることができます。

## 複数施設環境におけるスクリプトとステージングの動作について

このセクションでは、スクリプトとそれらの複数施設環境での実装に関する情報を示します。

### スクリプトに関するベスト プラクティス

複数施設環境でスクリプトを設定する際は、次のベストプラクティスを考慮してください。

- 1 つの施設のみを制御するようにスクリプトを設定します。
- 施設固有のスクリプトを作成する場合は、次の手順を実行します。
  - a. 最初に、アクションのないスクリプトを作成し、名前を付けて保存します。
  - b. スクリプトを施設に割り当てます。
  - c. スクリプトを編集してゾーン/グループに割り当てます。
  - d. 同じ施設に属するプレイリストを使用します。
  - e. スクリプトを編集してさらに状態を定義します。
- リモート サイトでの実行を意図したスクリプトが、どの非サイト DMP でも実行されないようにします。
- 最適な動作を得るため、サイトの同じ DMP に対して複数のイベント スクリプトを実行することは避けてください。

**注:**施設間でスクリプトの割り当てを移動する場合は、ゾーン/グループ/プレイリストが、手動で再割り当てするまで引き続き古い施設に関連付けられている可能性があることに注意してください。スクリプトが属する施設とゾーン/グループ/プレイリストが属する施設が異なる場合、スクリプトは開始されません。

### スクリプトのステージング動作

Cisco Vision Dynamic Signage Director では、スクリプトのステージングは常にシリアル化されます。たとえば、手動のステージング ジョブが実行されている場合、スクリプトを開始したステージング ジョブは、手動のステージングが完了した後開始されます。スクリプトが同時に開始されることはありません。

コンテンツの入れ替え時には、コンテンツのステージングが直ちに実行されます。現在のステージングが継続中の場合、コンテンツの入れ替えのステージングはキューに入れられます。DMP では、ステージングの成功の確認が行われるまで古いコンテンツが再生されます。そのため、多少の遅延が生じる可能性があります。

## 複数施設サポートの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

- [Cisco Vision Dynamic Signage Director](#) での複数施設サポートの有効化 ([62 ページ](#)) (必須)
- [Cisco Vision Dynamic Signage Director](#) への施設の追加 ([63 ページ](#)) (必須)
- 施設と [Cisco Vision Dynamic Signage Director](#) オブジェクトとの関連付け ([64 ページ](#)) (必須)
- [Cisco Vision Dynamic Signage Director](#) からの施設の削除 ([67 ページ](#)) (任意)
- 施設スコープの選択 ([67 ページ](#)) (任意)
- システムステータスからの施設のモニタリング ([68 ページ](#)) (任意)

## Cisco Vision Dynamic Signage Director での複数施設サポートの有効化

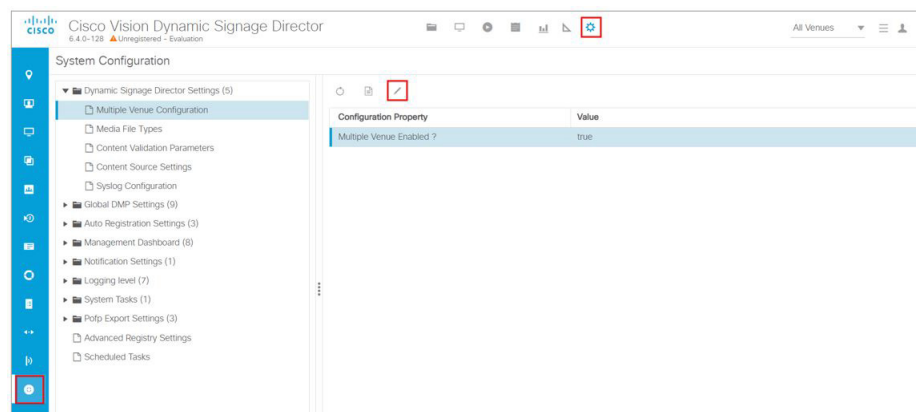
デフォルトでは、Cisco Vision Dynamic Signage Director は複数施設の導入に対応するように設定されていません。Cisco Vision Dynamic Signage Director で集中型サーバーとリモートサイトをサポートするには、[Multiple Venue Configuration] プロパティを設定する必要があります。このプロパティによって、対応するレジストリ キーが設定されます。このレジストリ キーが設定されると、アップグレード時に保存されます。

**注意:** Cisco Vision Director では、以前に複数施設サポートを有効にしてオブジェクトを関連付けた後に、複数施設サポートを無効にする（「Multiple Venue Enabled」プロパティを **false** に設定する）ことはできません。そのため、複数施設サポートの有効化と無効化を切り替えないでください。

Cisco Vision Dynamic Signage Director で複数施設サポートを有効にする手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director に管理者としてログインします。
2. [Configuration] > [System Configuration] > [Dynamic Signage Director Configuration] > [Multiple Venue Configuration] に移動します。
3. [Multiple Venue Enabled?] プロパティの値を「true」に設定します。図 2(62 ページ)を参照してください。「true」に設定されていない場合は、[Edit] をクリックします。[Edit - Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます。[Value] を「true」に設定し、[Save] をクリックします。

図 2 [Management Dashboard] での複数施設の有効化

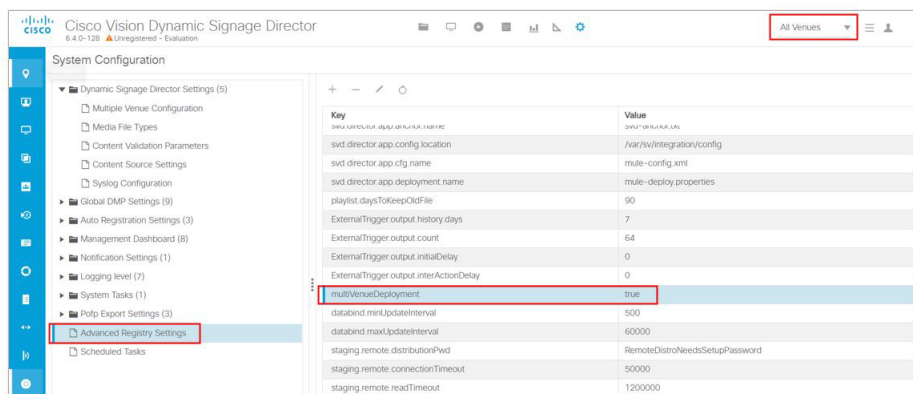


4. [Refresh] アイコンをクリックしてプロパティ値を更新します。
5. [Save] をクリックします。

**注意:** 複数施設管理機能が Cisco Vision Dynamic Signage Director で有効になります。レジストリキー(図 3(63 ページ))の名前は「**multiVenueDeployment**」です。

複数施設サポートの設定方法

図 3 レジストリ: multiVenueDeployment



6. [Main Menu] ウィンドウの右上隅に「すべての施設」コントロールが表示されることを確認します。

7. [Configuration] > [Venues] に移動し、[Venues] アイコンが使用可能であることを確認します。

ヒント: 複数施設サポートを有効にする前にすでに [Configuration] を開いていた場合は、ウィンドウを更新して [Venues] アイコンを表示します。

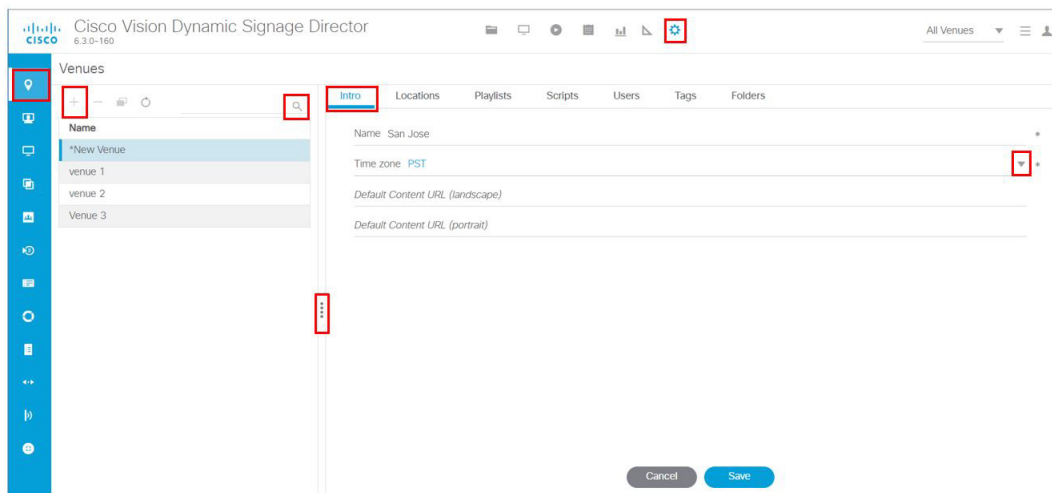
## Cisco Vision Dynamic Signage Director への施設の追加

Cisco Vision Dynamic Signage Director で複数施設サポートを有効にした後、リモート サイトを施設として追加することができます。

Cisco Vision Dynamic Signage Director で施設を追加する手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director に管理者としてログインします。
2. [Configuration] > [Venues] に移動します(図 4(63 ページ))。
3. プラス記号([+])アイコンをクリックします。

図 4 新しい施設を導入するためのパネル



4. (必須)[Name] ボックスに、施設を識別する一意の名前を入力します。デフォルトは「New venue」です。

5. (必須) [Time zone] ボックスで、矢印をクリックしてドロップダウンボックスを開き、リモートサイトのタイムゾーンを選択します。

注: このオプションは参照のみであり、再生証明レポート用です。

6. [Default Content URL (landscape)] を設定します。
7. [Default Content URL (portrait)] を設定します。
8. [保存(Save)] をクリックします。

## 施設と Cisco Vision Dynamic Signage Director オブジェクトとの関連付け

施設は、Cisco Vision Dynamic Signage Director のロケーション、プレイリスト、スクリプト、およびユーザーに関連付けることができます。[Configuration] > [Venues] を使用して、これらすべてのオブジェクトをすべての施設に対して関連付けられるのは、管理者のみです。

Cisco Vision Dynamic Signage Director 管理者による複数施設の初期設定と関連付けが完了すると、他のロール(コンテンツマネージャ、施設管理者、施設オペレータ)は、承認を受けたインターフェイスの機能領域について、Cisco Vision Dynamic Signage Director の施設セレクトアを使用して自分の施設の制御スコープを選択できます。関連するタスクはすべて、選択した施設スコープ(すべての施設または特定の施設)に基づいて決まります。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [施設の関連付けに関するガイドライン\(64 ページ\)](#)
- [施設の関連付けの手順\(65 ページ\)](#)
- [施設の関連付けが競合する場合のトラブルシューティング\(66 ページ\)](#)

### 施設の関連付けに関するガイドライン

Cisco Vision Dynamic Signage Director で施設の関連付けを行う前に、次のガイドラインについて理解してください。

- 各オブジェクトは、ユーザーを除いて、単一施設の関連付けに限られます。
- 割り当てられた施設管理者ロールまたは施設オペレータ ロールを持つユーザーのみを、管理者が 1 つまたは複数の施設に割り当てることができます。
- 次のロールのみが、Cisco Vision Dynamic Signage Director のインターフェイスで施設セレクトアを表示でき、セレクトアを使用して、承認を受けた領域について施設の制御スコープを選択できます。
  - 管理者 (Administrator)
  - コンテンツ マネージャ (Content Manager)
  - イベント オペレータ (Event Operator)
  - 施設管理者 (Venue Administrator)
  - 施設オペレータ (Venue Operator)

注意: ロケーションがすでにグループ/ゾーン設定に含まれている場合、ロケーションに対して施設の関連付けまたは関連付けの解除をすると、それらのグループとゾーンからロケーションが強制的に削除されます。それらのエンドポイントではスクリプトの開始が失敗する場合があります。これは、グループの一部ではなくなっているためです。

- スクリプトの作成と関連付けに関するガイドラインについては、[スクリプトに関するベスト プラクティス\(61 ページ\)](#)を参照してください。



## 施設の関連付けの手順

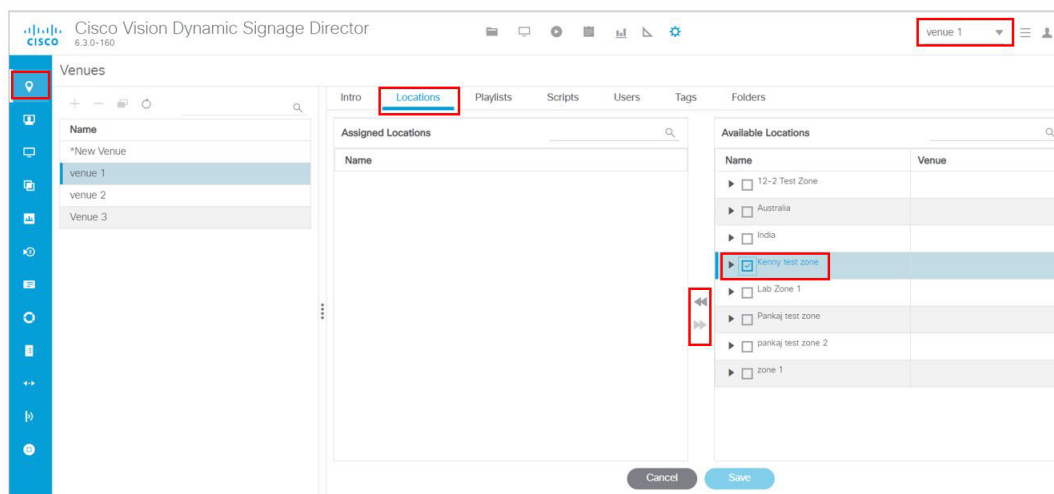
施設と **Cisco Vision Dynamic Signage Director** のオブジェクトとを関連付ける手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director に管理者としてログインします。
2. [Configuration] > [Venues] に移動します。
3. [Venue] リストで、関連付ける施設の名前をクリックします。
4. 選択した施設にオブジェクトタイプを割り当てるには、次の操作を行います。
  - a. [Locations],[Playlists],[Scripts],[Users],[Tags],または [Folders] をクリックします。
  - b. [Available] パネルで、関連付けるロケーション、プレイリスト、スクリプト、ユーザー、タグ、またはフォルダの名前を選択します。
 

ヒント:オブジェクトは複数選択できます。チェックボックスをクリックし、**Ctrl** を押しながらクリックして、追加のオブジェクトを選択します。
  - c. 赤で示されている [moving box icon] アイコンをクリックします。
 

オブジェクト名が [Assigned] パネルに追加されます。
  - d. 関連付けを必要とするオブジェクトの数だけ、ステップ a. (65 ページ)～ステップ b. (65 ページ)を繰り返します。

図 5 ロケーションを施設に関連付ける例



5. (オプション)割り当て済みのオブジェクトを削除するには、[Assigned] パネルでオブジェクトの名前を選択し、[move] ボタンをクリックします。
6. 関連付けを終えたら、[Save] をクリックします。

## 施設の関連付けが競合する場合のトラブルシューティング

オブジェクトを施設に関連付けようとするとき、ロケーションがすでに別の施設のグループまたはゾーンに関連付けられている場合など、特定の条件によっては、施設に関連付けるための設定が最適でないオブジェクトについてシステムから警告が表示されることがあります。警告メッセージではそうしたオブジェクトが特定され、次の 2 つのうちいずれかを実行できます。

- **[Close]** をクリックして **Cisco Vision Dynamic Signage Director** の設定に戻り、オブジェクトが施設の関連付けのガイドラインに最大限従っていることを確認して、設定内容を控えておくか設定を変更します。
- **[Force]** をクリックし、競合しているオブジェクトについて、要求された関連付けを試みるよう許可します。

**注:****[Force]** ボタンは、すべての関連付けで機能するとは限りません。指定されたユーザー操作の強制が試みられますが、成功するかどうかはいくつかの要因によって決定されます。最善の結果を得るため、エラーメッセージを見てどのオブジェクトが要求された操作と競合しているかを確認してください。**Cisco Vision Dynamic Signage Director** 内の競合を避けるため、修正手順を実行してください。

図 6(66 ページ)は、施設オブジェクトの関連付けをしようとして、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** の設定内で競合が生じている場合に表示される可能性のあるエラーメッセージの例です。競合していないその他のオブジェクトはすべて、要求どおりに施設に関連付けられます。

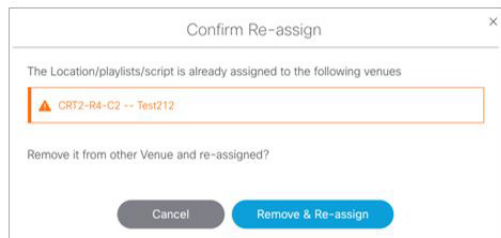
図 6 施設の関連付けで生じる競合メッセージの例



図 7(66 ページ)に、割り当て競合のメッセージの例を示します。この例では、施設に割り当てようとしたロケーション、プレイリスト、またはスクリプトが、すでに別の施設に割り当て済みであることが示されています。元の施設の割り当てはメッセージに表示されます(この例では「Cheyenne2」)。次の 2 つのうちいずれかを実行できます。

- **[Remove & Re-assign]** をクリックして新しい施設の割り当てに進み、指定されたオブジェクトを現在の施設の割当から削除します。
- **[Cancel]** をクリックして、元の施設の割り当てを保持し、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** に戻ります。

図 7 オブジェクトの再割り当てを確認するメッセージの例



## Cisco Vision Dynamic Signage Director からの施設の削除

Cisco Vision Dynamic Signage Director から施設を削除する手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director に管理者としてログインします。
2. [Configuration] > [Venues] に移動します(図 5(65 ページ))。
3. 削除する施設にリンクされているすべてのオブジェクトから、関連付けを削除します。
4. [Venue List] パネルで、削除する施設を選択します。
5. [Delete] アイコン(ダッシュ記号)をクリックします。

## 施設スコープの選択

施設スコープの選択は [Configuration] > [Venues] インターフェイス および [Management Dashboard] で行えます。ただし、施設対応になっているのはインターフェイスの特定の領域のみです。ソフトウェアで複数施設サポートを有効にして新しい施設を追加すると、施設対応になっているそれらの領域で施設セクタを使用できるようになります。

施設のステータスは、施設セクタでラジオ ボタンを使用して示されます。赤色は施設が無効になっていることを示し、緑色は施設がオンラインであることを示します。

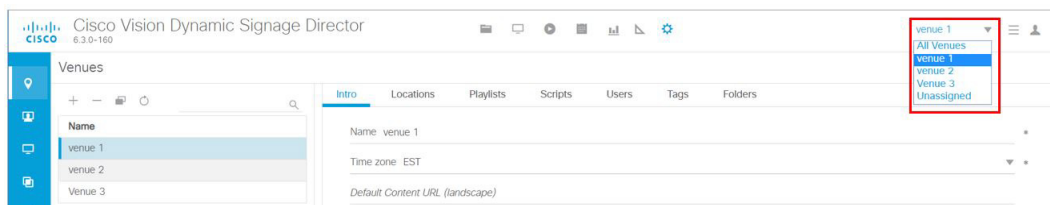
**注意:** 施設セクタには、選択した最後の施設が表示されますが、インターフェイスの施設対応ではない領域にいる場合、スコープは選択した施設に限定されません。グローバル スコープ(すべての施設)が適用されます。詳細については、[施設の関連付けについて\(60 ページ\)](#)を参照してください。

施設スコープを選択する手順は次のとおりです。

1. 管理者、コンテンツ マネージャ、施設管理者、または施設オペレータとして Cisco Vision Dynamic Signage Director にログインします。
2. ウィンドウの上部で施設セクタ ドロップダウンボックスを探します。

図 8(67 ページ)は、Cisco Vision Dynamic Signage Director の施設セクタの例です。

図 8 [Venue Selector] ドロップダウン ボックス



3. 次のいずれかを実行します。
  - 操作の範囲を特定の施設に適用するには、ドロップダウンボックスでその施設の名前を選択します。
  - 操作の範囲をすべての施設に適用するには、[All Venues] を選択します。
4. 設定する [Configuration] 領域に移動します。

展開済みデバイスを 1 つの施設システムから複数の施設システムへ移行する方法

## システムステータスからの施設のモニタリング

[System Status] インターフェイスから、選択した施設のリモートデバイスのステータスをモニタリングできます。

リモート DMP のトラフィック監視にはユニキャストメッセージングが使用されます。そのため、マルチキャストの最適化は適用されません。

システムステータスインターフェイスから施設をモニタリングするには、次の手順を実行します。

1. 管理者として Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーにログインします。
2. [System Status] > [Monitor and Status] をクリックします。
3. ウィンドウの上部で、監視するデバイスのある施設を選択します。[Services] ウィンドウには、各デバイス(図 9(68 ページ))のステータス、ポーリング、モード、間隔、サービス名、およびサービスステータスが表示されます。

図 9 サービスウィンドウでの特定の施設のデバイスのモニタリング

| Status | Polling | Mode      | Interval | Service Name                  | Service Status                                                              |
|--------|---------|-----------|----------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ●      | Enable  | Automatic | 30       | Director Server OS            | CPU 22.0% Memory 54.0% Disk usage 35.0% System running normally.            |
| ●      | Enable  | Automatic | 600      | High Availability Hardware    | No HA system configured in registry entry backup.secondaryip.               |
| ●      | Enable  | Automatic | 600      | Network Configuration         | Network name resolution is ok.                                              |
| ●      | Enable  | Automatic | 600      | Director Database             | Database is running normally.                                               |
| ●      | Enable  | Automatic | 30       | Control Server                | Server is available.                                                        |
| ●      | Enable  | Automatic | 30       | Config Server                 | Server is available.                                                        |
| ●      | Enable  | Automatic | 30       | Monitor Server                | Server is available.                                                        |
| ●      | Enable  | Automatic | 30       | Content Management CMS Server | Server is available.                                                        |
| ●      | Enable  | Automatic | 30       | Local Control Server          | Server is available.                                                        |
| ●      | Enable  | Automatic | 600      | Integration Broker            | Server is available.                                                        |
| ●      | Enable  | Automatic | 600      | CUCM Server                   | CUCM is NOT pingable, CUCM or network is down trying to reach 10.194.170.23 |

## 展開済みデバイスを 1 つの施設システムから複数の施設システムへ移行する方法

このセクションでは、一括管理ツール(BAT)を使用して多数の展開済みのデバイスやロケーションを 1 つの施設システムから複数の施設システムへ移行する際のベストプラクティスについて説明します。

ここでは、BAT を使用した TSV ファイルのエクスポート、編集、インポートについて触れています。これらの作業の詳細については、『Cisco Vision Director Bulk Administration Tool』ガイドを参照してください。

ここでは、次の作業について説明します。

- 前提条件(69 ページ) (必須)
- 元の設定用のデバイス リストのエクスポート(70 ページ) (必須)
- 新しい施設の作成(70 ページ) (必須)
- 既存のグループからのすべてのロケーションの削除(70 ページ) (必須)
- 既存のスイートからのロケーションの削除(71 ページ) (DMP がスイートにある場合のみ必須)
- 施設への最初のロケーションの関連付け(71 ページ) (必須)
- 施設固有の情報の設定と BAT を使用したロケーションの関連付け(71 ページ) (必須)
- 新しいデバイス リストのグループ情報の設定(72 ページ) (必須)

## 前提条件

展開済みのデバイスを Cisco Vision Dynamic Signage Director から移行する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

**注意:** Cisco Vision Dynamic Signage Director では、以前に複数施設サポートを有効にしてオブジェクトを関連付けた後に、複数施設サポートを無効にする（「Multiple Venue Enabled」プロパティを **false** に設定する）ことはできません。そのため、複数施設サポートの有効化と無効化を切り替えしないでください。

- 次のオブジェクト タイプが設定されていて、施設ごとに一意であることを確認する必要があります。

グループ、ゾーン、ロケーション、スクリプト、スイート、プレイリスト。

- オブジェクトが関連付けられている施設を簡単に識別できるように、オブジェクト名にプレフィックスを割り当てる命名規則を使用します。これにより、関連するオブジェクトを簡単に見つけて追跡できます。

たとえば、「WEST-SIDE-VENUE」という施設に属するスクリプト、プレイリスト、ロケーションに名前を付ける場合は、「WE」というプレフィックスを使用して、WE-Script1、WE-Script2、WE-Playlist1、WE-Location1 などとすることができます。

- 複数の施設を対象としたグループに既存の DMP が存在する場合は、それらを分割して、グループごとに「単一の施設にのみ対応する」DMP が含まれるようにする必要があります。

たとえば、Cisco Vision Dynamic Signage Director のすべての DMP で構成されるグループ (ALL-DMPs) がある場合は、「ALL-DMPs-Venue1」、「All-DMPs-Venue2」、「ALL-DMPs-No-Venue」などのように、施設ごとに、より小さい DMP グループに分割します。

ゾーン、スクリプト、スイート、ロケーションなど他のオブジェクトについても、これと同じルールが適用されます。これらのいずれかに、別の施設を対象としたオブジェクトや、グローバルにすべきオブジェクト（つまり、どの施設にも属さないオブジェクト）がある場合は、それらを施設単位で分割します。

- (DMP がスイートにある場合のみ) すべてのスイートにスイート コントローラを関連付ける必要があります。

**ヒント:** エクスポートした元のデバイス リストを調べて、スイートでコントローラが定義されているかどうかを簡単に確認することができます (元の設定用のデバイス リストのエクスポート (70 ページ) を参照)。列 N (「Suite Name」) に値があり、同じ行で列 M (「Suite Control Type」) に対応する値がない場合は、列 N に名前のあるスイートにデバイス リストが関連付けられていないことがわかります。

スイート コントローラが関連付けられていない場合は、スイート コントローラをスイートに割り当てます。使用可能なスイート コントローラがない場合は、仮のスイート コントローラを作成してスイートに割り当てます。移行プロセスが正常に完了した後、それらの架空のコントローラを削除します。

- a. [Configuration] > [Devices] > [IP Phones] に移動します。
- b. ping 不可の架空の IP アドレスを持つ仮の IP フォン エントリを作成します。
- c. [Configuration] > [Luxury Suites] に移動します。
- d. スイート コントローラを持っていないスイートを選択します。
- e. スイート プロパティのある右側のパネルで、[Phone & Remote] タブをクリックします。
- f. 作成した架空の IP フォンを割り当てるスイートのチェックボックスをオンにします。

## 元の設定用のデバイス リストのエクスポート

最初の単一施設システムの設定情報を保持し、後で作成した新しい複数施設デバイス リストにその情報を簡単に再設定できるようにするには、次のタスクを実行します。

詳細については、『[Cisco Vision Director Bulk Administration Tool](#)』ガイドで「Exporting and Downloading a TSV File for Locations and DMPs」のトピックを参照してください。

元のシステム設定用のデバイス リストをエクスポートする手順は次のとおりです。

1. **[Configuration] > [Devices] > [Locations & DMPs]** に移動します。
2. **[Export]** をクリックします。
3. **[Export]** ボックスが表示されたら、**[Download]** をクリックします。
4. **[Select location for download]** ウィンドウが表示されたら、保存する .txt ファイルの名前を入力するか、デフォルト名を受け入れて、**[Save]** をクリックします。
5. 必ず、最初にエクスポートしたデバイスリストの「**プリンシパルコピーを保存**」してください。

## 新しい施設の作成

このタスクでは、基本的な情報を使用して新しい施設を作成する方法について説明します。ここで使用する基本的な情報は、後のタスクで **BAT** を使用してさらに更新します。

新しい施設を作成する手順は次のとおりです。

1. **[Configuration] > [Venues]** に移動します。
2. **[+]** アイコンをクリックして施設を作成します。
3. 施設の名前とタイムゾーンを指定します。
4. **[Save]** をクリックします。

## 既存のグループからのすべてのロケーションの削除

**注:** 既存のグループからロケーションを削除する前に、「前提条件」の項に示す要件を実行して、すべてのオブジェクトを施設ごとに一意のグループに配置してください。

ロケーションを新しい施設に関連付ける前に、ロケーションを既存のグループから削除します。

グループからすべてのロケーションを削除する手順は次のとおりです。

1. **[Configuration] > [Groups & Zones] > [Location<->Group]** に移動します。
2. **[Groups]** をクリックします。
3. 個別のグループを選択します。
4. 右側の **[Locations]** パネルで、選択したグループに対するすべてのロケーションを選択します。
5. **Ctrl** キーまたは **Shift** キーを押しながらクリックすると、複数のロケーションを選択できます。
6. **[Remove From Groups]** をクリックします。
7. ロケーションの削除を必要とするすべてのグループについて、ステップ **3. (70 ページ)** を繰り返します。
8. 変更を反映させるため、ブラウザを更新して **UI** をリロードします。

## 既存のスイートからのロケーションの削除

ロケーションを施設に関連付けるには、既存のスイートからロケーションを削除します。エクスポートした元のデバイス リストを使用し、BAT ツールを通じてそれらのロケーションを再び設定に追加します。

既存のスイートからロケーションを削除する手順は次のとおりです。

1. [Configuration] > [Luxury Suites] に移動します。
2. 施設に移動する対象のロケーションが含まれているスイートをすべて選択します。
3. それぞれのロケーションを選択し、上部の [-] アイコンをクリックして、スイートからロケーションを削除します。

ヒント:[-] アイコンをクリックすると、すぐにスイートから DMP が削除されます。

4. すべての DMP がスイートから削除されたら、[Save] をクリックします。
5. ロケーションの削除を必要とするそれぞれのスイートについて、ステップ 2.(71 ページ) を繰り返します。

## 施設への最初のロケーションの関連付け

新しい複数施設のデバイス リストをエクスポートする際に、施設固有のフィールドを確立するには、作成したそれぞれの新しい施設に少なくとも 1 つのロケーションを関連付けます。

詳細については、施設と Cisco Vision Dynamic Signage Director オブジェクトとの関連付け(64 ページ)を参照してください。

## 施設固有の情報の設定と BAT を使用したロケーションの関連付け

このタスクにより、残りの施設固有の情報をより簡単に設定し、BAT を使用してロケーションを関連付けることができます。

施設固有の情報を設定してロケーションを関連付ける手順は次のとおりです。

1. 新しいデバイス リストをエクスポートします。

施設ごとに少なくとも 1 つのロケーションを関連付けると、新しくエクスポートしたデバイス リスト ファイルに施設固有のフィールド エントリが追加され、残りの必要な設定情報をより簡単に設定できるようになります。

BAT ファイル内の施設固有のフィールド エントリは次のとおりです。

- Venue Name
- Venue Timezone
- Venue JMX Password: システムのグローバル資格情報が無効になっている場合にのみ、JMX パスワードが施設情報に保存されます。

注: Venue JMX Username フィールドは常に無視されます。

2. 施設へのロケーションの関連付けを行うため、Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して TSV ファイルを編集します。
  - a. 施設固有の情報を設定します。
  - b. コピー(または自動入力)を行い、施設に追加する新しいロケーションの行を追加します。
3. デバイス リストをインポートします。

詳細については、『Cisco Vision Director Bulk Administration Tool』ガイドで「Importing a TSV File」のトピックを参照してください。

4. [Configuration] > [Venues] に移動し、ロケーションが施設に正しく関連付けられていることを確認します。

## 新しいデバイス リストのグループ情報の設定

この手順では、より簡単な方法で、元のシステムのグループ情報を新しい複数施設のデバイス リストに再設定できます。

元のデバイス リストからグループやその他の情報を設定する手順は次のとおりです。

1. 新しいデバイス リストをエクスポートし、スプレッドシート アプリケーションでファイルを開きます。
2. 最初の行を除くすべての行および列を選択します。
3. スプレッドシートを **[Name]** フィールド(列 **E**) でソートします。
4. **ステップ 1** でエクスポートしたプリンシパルデバイスリストのコピーを作成します。
5. プリンシパル スプレッド シートを **[Name]** フィールドでソートします。
6. 元のプリンシパルファイルから、グループ情報 (**Z**、**AA**、**AB**、**AC** など) のある列をコピーし、新しいデバイスリストに適切に貼り付けます。

**ヒント:** Microsoft Excel で特定の行および列を操作する際、行または列の非表示/再表示の機能や固定/固定解除の機能を使用すると、この作業を効率的に実行できます。これらの機能の詳細については、Microsoft のサポート サイトを参照してください。

7. 元のプリンシパルファイルから、**[Suites]** および **[Suite Controller]** 情報のある列 (**J** ~ **Y**) をコピーします。
8. 新しいデバイス リストを保存します。
9. 新しいデバイス リストを Cisco Vision Dynamic Signage Director にインポートします。
10. インポートが完了したら、ブラウザを更新します。





# Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのシステム アカウント

このモジュールでは、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** により実装され、特定のサーバー機能へのアクセスと制御を行うためのデフォルトのシステム アカウントについて説明します。管理アカウントとは別に、これらのシステム アカウントは通常はユーザー アカウントから分離され、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** の機能の設定や操作へのアクセスが保護されます。

また、サーバーのインストール後に行う全般的な変更を目的としているものは、これらのアカウントのうちごく少数です。それ以外のシステム アカウントは特別なサービスやテクニカル サポート用に予約されているものであり、指示を受けて使用する場合は、サーバーのインストールへの影響について理解している場合以外は変更しないでください。

**Cisco Vision Dynamic Signage Director** におけるユーザ アカウントとロールベース アクセス コントロール (RBAC) の詳細については、「[Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザ管理 \(81 ページ\)](#)」を参照してください。

## 目次

- システム アカウントに関する情報 (73 ページ)
- ブラウザ インспекタの有効化/無効化 (76 ページ)

## システム アカウントに関する情報

システム アカウントはすべて、**Dynamic Signage Director** ソフトウェアのインストール時に自動的に実装されます。

このセクションでは、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** のデフォルトのシステム アカウントについて、その概要を説明します。

- よく使用するシステム アカウント (74 ページ)
- 新しいパスワード ポリシー (75 ページ)

## よく使用するシステム アカウント

表 1 (74 ページ) では、Cisco Vision Dynamic Signage Director でよく使用するシステム アカウントと、サポートされているサーバー プラットフォームについて説明しています。これらのアカウントについては、サーバーの導入後にユーザーが変更することを想定しています。これらのよく使用するシステム アカウントは、Dynamic Signage Director ソフトウェアのインストール時に自動的に実装されます。

表 1 よく使用するシステム アカウントの説明

| アカウント                                  | 目的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | サーバー プラットフォーム                         |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 管理者                                    | <p><b>Cisco Vision Dynamic Signage Director</b></p> <p>Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザー インターフェイス (UI) にある管理者 RBAC 機能へのアクセスを提供するアカウント。<sup>1</sup> Dynamic Signage Director ソフトウェアのインストール時に自動的に実装されます。</p> <p>ユーザー名: <b>admin</b></p> <p>デフォルトのパスワード: <b>C-V1\$!0n</b></p> <p>テキストユーティリティ インターフェイス (TUI) を使用して管理者アカウントのパスワードを変更することで、インストール担当者は Cisco Vision Dynamic Signage Director UI へのアクセスを回復することができます。管理者ユーザーアカウントのパスワードは [Configuration] &gt; [User] Cisco Vision Dynamic Signage Director でも変更できます。または管理者アカウントでの初回ログイン時にパスワードの変更を強制するオプションを設定することで変更できます。</p> | Cisco Vision Dynamic Signage Director |
| インストーラ                                 | <p>直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して TUI へのアクセスを提供するアカウント。</p> <p>ユーザー名: <b>installer</b></p> <p>デフォルトのパスワード: <b>cisco!123<sup>2</sup></b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | Cisco Vision Dynamic Signage Director |
| TAC (Technical Assistance Center) アクセス | <p>問題のトラブルシューティングをサポートするために Cisco TAC 担当者がアクセスできるようにするアカウント。TUI の [System Accounts] にメニュー項目 ([a] Enable/Disable TAC user) があります。詳細については、TAC ユーザーの有効化/無効化 (77 ページ) を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | Cisco Vision Dynamic Signage Director |

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director の管理者ロールの詳細については、「Cisco Vision Dynamic Signage Director のユーザー管理 (81 ページ)」を参照してください。
2. TUI の詳細については、「Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス (113 ページ)」を参照してください。

**注:** インストール後のタスクの 1 つとして、パスワードの変更を強く推奨します。失われた場合、回復する方法はないのでご注意ください。

2.

## 新しいパスワード ポリシー

セキュリティを強化するために、ユーザは強力なパスワードを設定する必要があります。新しいパスワードを設定するときは、次のルールを使用します。

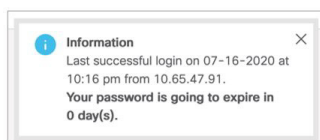
- 少なくとも 1 つの小文字(a ~ z)が必要です。
- 少なくとも 1 つの大文字(A ~ Z)が必要です。
- 少なくとも 1 つの数字(0 ~ 9)が必要です。
- 少なくとも 1 つの特殊文字が必要です。特殊文字は ! @ # \$ % です
- 8 ~ 127 文字を使用する必要があります。
- 次の文字を含めないようにする必要があります。スペース、タブ、改行、ラインフィード、バックスラッシュ (\)。
- 辞書に登録されている事前定義されたリストの文字列は使用できません。
- 連続する 3 文字は使用できません(例: abc5#pqr は許可されません)。
- 文字を 4 回繰り返すことはできません(例: aaaa#2020! は許可されません)。
- 「cisco」、「password」、「admin」など、辞書に載っているような単語は使用できません。

**注:** ユーザが最初にログインしたときと、[User] 画面 ([Configuration] > [User]) でユーザを作成するときに [Generate Password] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、パスワード ルールに一致するランダムなパスワードが生成されます。新しいパスワードを表示するには、「目」のアイコンを使用します。

- Cisco Vision Director にログインした後、UI には最後のログイン日時とその成否に関する簡単なメッセージが表示されます。
- ログイン試行で 1 分以内にパスワードの入力を 5 回失敗すると、アカウントが一時的に 30 分間ロックされます。次のログインが成功すると、試行に失敗した回数が多すぎたためにアカウントがロックされたことを示すメッセージが表示されます。
- [User] インターフェイスで「管理者」ロールを削除することはできません。

**注:**

1. すべてのユーザーは、現在のパスワードをチャレンジとして入力することで、自分のパスワードを変更できます。
2. 管理者は、誰のパスワードでもチャレンジなしで変更できます。
3. パスワードを除いて、ユーザーの他のフィールド(電子メールなど)はチャレンジなしで変更できます。
4. パスワードエントリの有効期限についての通知が表示されます。



5. ユーザーが作成されるか、パスワードが変更されるたびに、変更日がログに記録されます。

## システム アカウントに関する情報

## アップグレード後のパスワード

既存のインストールをアップグレードすると、既存のパスワードが保持されます。

## 新規インストール後のパスワード

ロール: 管理者

新規インストール時に、デフォルトの管理者ユーザは最初のログインでパスワードを変更するよう求められます。リリース 6.1 以降では、新しいパスワードはパスワード ポリシーに従う必要があり、従っていない場合はパスワードが拒否されます。

## DMP 管理者パスワード

新規インストールのデフォルトのパスワードは **C-V1\$!0n** です。有効なパスワードを選択しない場合、エラーメッセージはこのルールが非準拠であることを示します。

## その他のシステム アカウント

表 2 では、その他のデフォルトのシステム アカウントについていくつか説明しています。これらのアカウントは、Cisco Vision でトラブルシューティングや他の特別なアクセスで使用するために予約されています。

表 2 予約済みのシステム アカウントの説明

| アカウント                 | 目的                                                                                                                 | サーバー プラットフォーム                         |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| admgr                 | メディア プランナー インポート API のサポートを目的とする Cisco Systems との特別な契約で使用するために予約されています。 <sup>1</sup>                               | Cisco Vision Dynamic Signage Director |
| MySQL                 | MySQL データベース アカウントへの内部アクセス専用として予約されています。                                                                           | Cisco Vision Dynamic Signage Director |
| TAC ユーザー <sup>2</sup> | リモート シェル アクセスのトラブルシューティング用に予約されています。このアカウントは、シスコ テクニカル サポートからトラブルシューティング目的で指示を受けた場合にのみ有効にし、それ以外の場合は常に無効にしておいてください。 | Cisco Vision Dynamic Signage Director |

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director におけるメディア プランナー インポート API およびその他の API のサポートの詳細については、『Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4』を参照してください。
2. TAC ユーザー アカウントの詳細については、TAC ユーザの有効化/無効化(77 ページ)を参照してください。

## ブラウザ インспекタの有効化/無効化

新しいセキュリティ強化には、デフォルトで DMP ブラウザ インспекタの無効化が含まれています。レジストリ設定を追加してブラウザ インспекタを有効にした場合、レジストリ データを完全に削除して DMP をリブートしない限り有効なままになります。ブラウザ インспекタを無効にすると、DMP へのネットワーク アクセスが防止されます。

ブラウザ インспекタを有効にするには、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にお問い合わせください。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします。
2. [Registry Data] で、[Add Row] をクリックします (図 1 (77 ページ))。

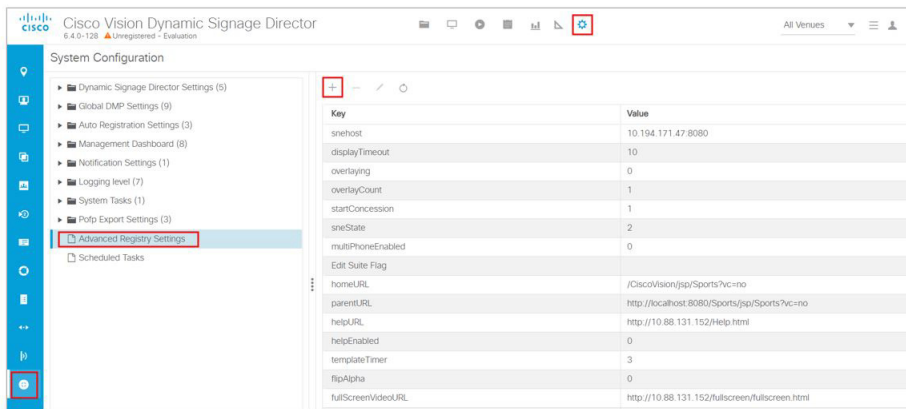
## システム アカウントに関する情報

3. [Configuration Setting] ダイアログボックスで、「**device.SvDmp.browser.inspector.addresses**」と入力します。

たとえば、**192.168.1.1.10.1.1.1** のアドレスを使用すると、IP アドレスが **192.168.1.1.10.1.1.1** の DMP でブラウザ インспекタ機能が有効になります。

注: アドレスが複数ある場合は、IP アドレスをカンマで区切ります。

図 1 レジストリ データへのブラウザ インспекタ アドレスの追加



4. DMP をリブートして変更を有効にします。

ブラウザ インспекタの機能を無効にするには、次の手順を実行します。

1. リストから IP アドレスを削除します。
2. 完全に無効にするには、リストを空にするか、キーを削除します。
3. DMP をリブートして変更を有効にします。

## TAC ユーザの有効化/無効化

リリース 6.2 では、Cisco TAC ユーザ アカウントを作成することで、シスコが問題のトラブルシューティングをサポートできるようになりました。TAC ケースを作成して Cisco TAC 担当者にアクセス権を付与する場合は、ケースが解決されたときに Cisco TAC アクセスを削除することをお勧めします。

TAC ユーザーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [System Accounts] の **b** を入力します。
3. [Enable/Disable TAC user] の **a** を入力します(図 2(78 ページ))。
4. **a** または **b** を入力します。

図 2 TAC ユーザの有効化/無効化

```

Cisco Vision Dynamic Signage Director Configuration Menu

0
Hostname: sv-director
IP address: 10.194.170.188
Software version: 6.2.0 build 456

Main Menu > System Accounts

Please choose one of the following menu options:

a) Enable/Disable TAC user
b) Enable/Disable privileged accounts via remote access (ssh)
c) Enable/Disable all users created by the TAC user
d) Change installer password
e) Enable/Disable Backup user
f) Change MySQL password
g) Change admgr password
h) Change admin password
i) Change JMX password
R or < or ,) Return to prior menu

```

このオプションを初めて使用する場合は、パスワードを設定する必要があります。パスワードは 2 回入力します。

図 3 TAC アカウントのパスワードの初回変更

```

Cisco Vision Dynamic Signage Director Configuration Menu

Hostname: sv-director
IP address: 10.194.170.188
Software version: 6.2.0 build 456

NOTICE NOTICE NOTICE

To enable the TAC account, you must set a password for it now.
You must make a note of the password you will now enter.

Please note: The characters you type will not be echoed to the terminal. You will enter
the password twice to confirm.
Changing password for user snetac.
New password: █

```

**注:** 9 文字以上の大文字、小文字、数字、特殊文字を含む強力なパスワードを選択します。指示を確認してください。選択したクレデンシャルは、Cisco TAC がアクセスして回復することができないため、自身で保管しておいてください。

**注:** 「インストール担当者」のパスワードを変更するには(上記の選択肢 **d**)、ユーザが現在の「インストール担当者」のパスワードを入力する必要があります。

## TAC ユーザーによって作成されたすべてのユーザーの有効化/無効化

セキュリティを強化するために、TAC が問題解決のために有効化したアカウントがある場合はすべて無効にしてください。

**TAC ユーザが作成したアカウントを無効にするには、次の手順を実行します。**

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [System Accounts] の **b** を入力します。
3. [Enable/Disable all users created by the TAC user] の **c** を入力します(図 4(79 ページ))。
4. **a** または **b** を入力します。

## システム アカウントに関する情報

図 4 TAC ユーザーによって作成されたすべてのユーザーの無効化

```

IP address: 10.194.170.188
Software version: 6.2.0 build 456

Main Menu > System Accounts

Please choose one of the following menu options:

a) Enable/Disable TAC user
b) Enable/Disable privileged accounts via remote access (ssh)
c) Enable/Disable all users created by the TAC user
d) Change installer password
e) Enable/Disable Backup user
f) Change MySQL password
g) Change admgr password
h) Change admin password
i) Change JMX password
R or < or ,) Return to prior menu

```

## リモート アクセス (SSH) による特権アカウントの有効化/無効化

セキュリティを強化するために、アカウントへのリモート アクセスを無効にしてください。

SSH によるリモート アクセスを無効にするには、次の手順を実行します。

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [System Accounts] の **b** を入力します。
3. [Enable/Disable privileged accounts via remote access ssh] の **b** を入力します(図 4(79 ページ))。
4. **a** または **b** を入力します。

図 5 リモート アクセスによる特権アカウントの無効化

```

Software version: 6.2.0 build 456

Menu > System Accounts

Please choose one of the following menu options:

a) Enable/Disable TAC user
b) Enable/Disable privileged accounts via remote access (ssh)
c) Enable/Disable all users created by the TAC user
d) Change installer password
e) Enable/Disable Backup user
f) Change MySQL password
g) Change admgr password
h) Change admin password
i) Change JMX password
R or < or ,) Return to prior menu

```

## システム アカウントのパスワードの変更方法

システム アカウントのパスワードを Cisco Vision Dynamic Signage Director のデフォルトから変更するには、TUI を使用します。

**注:** TUI メニュー内を移動するには、移動先のメニュー領域に対応する文字(a、b、c など)を入力して、Enter を押す必要があります。他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用してメニュー階層から前のメニューに戻る必要があります。

システム アカウントのパスワードを変更する手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director で、次の手順に従って TUI にログインします。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または Cisco Vision Dynamic Signage Director ネットワークに接続しているラップトップ コンピュータから SSH クライアントを使用し、サーバーの IP アドレスを使用してプライマリ Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザ ID を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. メイン メニューで、[System Accounts] に移動します。
3. パスワードを変更するシステム アカウントを選択します。
4. プロンプトで、新しいパスワードを入力します。
5. 確認のプロンプトが表示されたら、パスワードを再入力します。
6. 任意のキーを押して [System Accounts] メニューに戻ります。
7. メイン メニューに戻って TUI を終了します。





# Cisco Vision Dynamic Signage Director の ユーザ管理

**Cisco Vision Dynamic Signage Director** を展開する場合、通常、会場の設定とイベントの運営の各方面を担当する担当者のチームが組織されます。たとえば、システム管理者に加えて、イベントオペレータ、コンテンツマネージャおよび技術担当者が通常は存在します。各担当者は、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** ソフトウェアを操作するために必要な各種スキルを持ちます。

**Cisco Vision Dynamic Signage Director** ソフトウェアは、ロールベースアクセスコントロール(RBAC)を実装しており、これにより権限とユーザアクセスの制御が可能になり、トレーニングを受けた人員は使用権限がある部分のみにアクセスできます。複数のユーザーを、このソフトウェアの同じロールに割り当てることができます。ただし、各ユーザー名には単一のロールしか割り当てることができません。

複数施設環境での RBAC の詳細については、[複数施設の階層管理を行うためのロールベースアクセスコントロール\(59 ページ\)](#)を参照してください。

## ユーザー管理について

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [管理者 \(Administrator\) ロールの概要 \(81 ページ\)](#)
- [RBAC ロールの概要 \(82 ページ\)](#)
- [ロールによるアクセスの概要 \(84 ページ\)](#)

## 管理者 (Administrator) ロールの概要

注: このセクションでは、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** システムのプライマリ (主要な) 管理者 (Administrator) ロールについて説明します。施設管理者は、開催場所単位で付与される管理権限のサブセットです。[表 2 \(84 ページ\)](#)を参照してください。

プライマリ管理者 (Administrator) ロールは、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** ソフトウェアへの無制限のアクセス権限を持ちます。このロールは、ユーザーを追加し、それらのユーザーに RBAC 権限を割り当てることができる唯一のロールです。管理者 (Administrator) ロールは、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** で事前設定されており、削除できません。ただし、パスワードは変更できます。また、複数のユーザーに管理者の権限を割り当てすることもできます。

**Cisco Vision Dynamic Signage Director** 管理者は、施設全体への **Cisco Vision** ソリューションの展開を担当する担当者です。

プライマリ管理者は、次の機能を実行するための十分な権限を持ちます。

- **Cisco Vision Dynamic Signage Director** サーバのインストール、アップグレード、バックアップ、復元。
- 施設へのオブジェクト (施設オペレータや施設管理者を含む) の関連付け。

注: 管理者ロールが割り当てられたユーザは、複数施設環境において複数の開催場所への「グローバルな」アクセス権限を持ちます。施設管理者は、特定の開催場所へのアクセス権限のみ持ち、それらのアクセス権限は **Cisco Vision Dynamic Signage Director** のプライマリ管理者によって付与されます。

- 追加ユーザの作成とロールの割り当て。
- **Cisco Vision Director** へのデバイスの追加。
- コンテンツのステーキング。
- チャンネル編成の設定(コンテンツ マネージャもこのエリアの設定が可能)
- スイート ルーム、バック オフィス、バーなどのローカル制御エリアの設定。
- **Point of Sale (POS)** の設定。
- 再生証明 (PoP) の生成。
- **ダイナミック メニュー ボード (DMB) (Dynamic Menu Board (DMB))** アプリケーションの設定。
- **TV オフ カスタム アプリケーション** の設定。
- **DMP** の再起動や **TV** の制御など、**[Device Management]** の設定。

## RBAC ロールの概要

表 1 (82 ページ) に、**Cisco Vision Dynamic Signage Director** の管理者が割り当てることのできるロールの概要を示します。ロール別の権限の詳細な対応付けについては、表 2 (84 ページ) を参照してください。

表 1 **Cisco Vision Dynamic Signage Director** ロール(Roles)

| ロール                              | 概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コンセショナリー<br>(Concessionaire)     | <p>コンセショナリーは、<b>ダイナミック メニュー ボード (Dynamic Menu Board)</b> アプリケーションへのアクセス権限のみ持ち、特定のテキストベース アイテムとグラフィック アイテム、およびメニューの背景グラフィックを変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザーにロールが割り当てられ、そのロールに基づいた十分な権限がユーザーにある場合、それらのすべてのユーザーは、コンセショナリーがアップロードしたすべてのコンテンツを使用できます。</li> <li>■ コンセショナリーロールに、<b>[System Configuration] &gt; [User Administration]</b> または <b>[System Configuration]</b> の権限はありません。表示できるのは自分で作成した <b>DMB</b> テーマのみです。</li> </ul> |
| コンテンツ マネージャ<br>(Content Manager) | <p>コンテンツ マネージャは、クリエイティブ サービス チームが用意したコンテンツと広告のアップロードを担当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コンテンツ マネージャは、指定のスケジュールに従い、開催場所の適切なエリア、および <b>TV</b> 画面の適切なエリアに正しいコンテンツが表示されるようにするために、イベント スクリプトを作成します。</li> <li>■ コンテンツ マネージャは、<b>Cisco Vision Dynamic Signage Director</b> でイベントのスタート/スクリプト、ゾーン、グループ、画面テンプレート、プレイリスト、およびティックャーを設定するための権限を持ちます。</li> <li>■ コンテンツ マネージャは、カスタム メニュー用のガジェットを割り当てることや、それらのメニューのプレイリストを作成することもできます。</li> </ul>    |

表 1 Cisco Vision Dynamic Signage Director ロール(Roles) (続き)

| ロール                         | 概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| イベント オペレータ (Event Operator) | <p>イベント オペレータは、イベント中に Cisco Vision Director のイベント スクリプトを実行します。イベント オペレータは、スクリプトを開始および停止する権限と、それらのスクリプトのステートを変更する権限を持ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ イベント オペレータは、イベント ステートの遷移を時間ベースから手動に変更すること、イベントを 3 つのアドホック ステート (内部緊急事態、外部緊急事態、または遅延) のいずれかに移行すること、ティッカー コンテンツ (レガシー バージョン) を承認することが可能です。</li> <li>■ さらに、イベント オペレータは、どのような休止ステートが行われたか追跡し、また試合前のウォークスルー (リハーサル) の実行を担当します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 施設オペレータ (Facility Operator) | <p>施設オペレータは、TV オフ (TV Off) アプリケーションにのみアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 施設オペレータは、<a href="http://ipaddress:9090/web/sv/home">http://ipaddress:9090/web/sv/home</a> (<i>ipaddress</i> は Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバの IP アドレス) を使用して、このアプリケーションに直接アクセスする必要があります。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ヘルプデスク (Help Desk)          | <p>ヘルプデスクユーザーは、[System Configuration] で情報を表示および監視するための読み取り専用アクセス許可と、[Device Management] を使用する権限を与えられます。このロールには、自分のパスワードを変更する以外に [System Configuration] &gt; [User Administration] の権限はありません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| サポート (Support)              | <p>サポート ユーザーは、1 次レベルのテクニカル サポートを担当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サポートユーザーには、[System Configuration] への制限付きアクセス権限があり、Cisco Vision ネットワークでの DMP ステータスの監視、トラブルシューティング、および DMP の管理を実行できます。[Device Management] へのアクセス権限もあります。</li> <li>■ サポートロールには、自分のパスワードを変更する以外に [System Configuration] &gt; [User Administration] の権限はありません。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 施設管理者 (Venue Administrator) | <p>施設管理者は、Cisco Vision Dynamic Signage Director の次の領域について、中央管理者がそのユーザーに対して承認された施設での権限が制限されています。</p> <p><b>注:</b> 施設管理者向けに、新しい [System Configuration] および [Device Management] 機能が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ スクリプト管理</li> <li>■ システム設定: <ul style="list-style-type: none"> <li>- 施設管理者は、すべての DMP および TV コマンドを発行できます。</li> <li>- コマンドのサポートが制限された読み取り専用アクセス。</li> </ul> </li> <li>■ デバイス管理: <ul style="list-style-type: none"> <li>- 施設管理者は、[Device Management] から Reboot Device コマンドを実行して DMP を再起動できます。</li> <li>- 読み取り専用アクセス権。</li> </ul> </li> <li>■ [System Configuration] &gt; [Devices] ([Display Specifications] のみ) : [Groups &amp; Zones]、[Channels]、[Luxury Suites] への読み取り専用アクセス。</li> </ul> |

表 1 Cisco Vision Dynamic Signage Director ロール(Roles) (続き)

| ロール                      | 概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設オペレータ (Venue Operator) | <p>施設オペレータ (Venue Operator) は、スクリプト制御のみ行うことができ、また管理者 (Administrator) がそのユーザーに対して権限を付与した施設に対してのみ制御を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [System Configuration] で、施設オペレータは、権限が付与された施設への読み取り専用アクセスにより、[System Configuration] の情報を表示および監視できます。</li> <li>■ [Device Management] へのアクセス権限もあります。</li> </ul> <p>注: 施設固有の権限を持つロールは施設オペレータ (Venue Operators) と施設管理者 (Venue Administrators) のみです。詳細については、複数施設サポートのための <a href="#">Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定 (57 ページ)</a> を参照してください。</p> |

## ロールによるアクセスの概要

表 2 (84 ページ) に、Cisco Vision Dynamic Signage Director ソフトウェアのユーザ ロール別のアクセス エリアの概要を示します。

注: 「○」は、そのユーザ ロールが対応する機能エリアへのアクセス権限を持っていることを示し、「-」は、そのロールがそのエリアへの権限を持たないことを示します。

表 2 の機能エリア別ロールアクセス一覧 Cisco Vision Dynamic Signage Director

| 機能エリア                    | 管理者 | コンセショナリー | コンテンツ マネージャ | イベントオペレータ | 施設オペレータ | ヘルプデスク            | サポート   | 施設管理者             | 施設オペレータ           |
|--------------------------|-----|----------|-------------|-----------|---------|-------------------|--------|-------------------|-------------------|
| <b>Device Management</b> | 対応  | -        | -           | -         | -       | 読み取り専用            | 読み取り専用 | 対応                | 読み取り専用            |
| <b>設定</b>                |     |          |             |           |         |                   |        |                   |                   |
| チャンネル定義                  | 対応  | -        | 対応          | -         | -       | -                 | -      | 読み取り専用            | -                 |
| チャンネルガイド                 |     |          |             |           |         |                   |        |                   |                   |
| データ統合                    | 対応  | -        | 対応          | -         | -       | -                 | -      | -                 | -                 |
| デバイス                     | 対応  | -        | -           | -         | -       | -                 | -      | 制限付き <sup>1</sup> | -                 |
| Groups & Zones           | 対応  | -        | 対応          | 対応        | -       | -                 | -      | 読み取り専用            | -                 |
| メニュー                     | 対応  | -        | 対応          | -         | -       | -                 | -      | -                 | -                 |
| マイプロフィール                 | -   | 対応       | 対応          | 対応        | 対応      | 対応                | 対応     | 対応                | 対応                |
| 再生証明                     | 対応  | -        | -           | -         | -       | -                 | -      | -                 | -                 |
| 店舗                       | 対応  | -        | -           | -         | -       | -                 | -      | -                 | -                 |
| Luxury Suites            | 対応  | -        |             |           |         |                   |        | 制限付き <sup>2</sup> | 読み取り専用            |
| システム設定                   | 対応  | -        | -           | -         | -       | 制限あり <sup>5</sup> | 対応     | 制限あり <sup>7</sup> | 制限あり <sup>8</sup> |
| トリガー                     | 対応  | -        | -           | -         | -       | -                 | -      | -                 | -                 |

表 2 の機能エリア別ロール アクセサリー一覧 Cisco Vision Dynamic Signage Director (続き)

| 機能エリア                  | 管理者 | コンセショナ<br>リー | コンテン<br>ツ マネー<br>ジャ | イベン<br>トオペ<br>レータ | 施設オペ<br>レータ | ヘルプデ<br>スク            | サポート            | 施設管理者             | 施設オペ<br>レータ           |
|------------------------|-----|--------------|---------------------|-------------------|-------------|-----------------------|-----------------|-------------------|-----------------------|
| ユーザ管理                  | 対応  | -            | -                   | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| 開催場所                   | 対応  | -            | -                   | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| スクリプト<br>管理            |     |              |                     |                   |             |                       |                 |                   |                       |
| コンテンツ                  | 対応  | -            | 対応                  | -                 | -           | -                     | -               | 制限付き <sup>3</sup> | -                     |
| コントロール                 | 対応  | -            | -                   | 対応                | -           | -                     | -               | 制限付き <sup>4</sup> | 制限<br>あり <sup>5</sup> |
| ステージング                 | 対応  | -            | -                   | 対応                | -           | -                     | -               | 対応                | -                     |
| スケジューリ<br>ング           | 対応  | -            | 対応                  | -                 | -           | -                     | -               | 対応                | -                     |
| テンプレート                 | 対応  | -            | 対応                  | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| ウィジェット                 | 対応  | -            | 対応                  | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| ダイナミック<br>メニュー<br>ボード  | 対応  | 対応           | 対応                  | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| システムス<br>テータス          | 対応  | -            | -                   | -                 | -           | 制限<br>付き <sup>5</sup> | 対応 <sup>6</sup> | 制限付き <sup>7</sup> | 制限<br>付き <sup>8</sup> |
| スケジューラ<br>アプリケー<br>ション | 対応  | -            | -                   | 対応                | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| ソフトウェア<br>マネージャ        | 対応  | -            | -                   | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| システム状態<br>レポート         | 対応  | -            | -                   | -                 | -           | -                     | -               | -                 | -                     |
| TV オフ アプリ<br>ケーション     | 対応  | -            | -                   | 対応                | 対応          | -                     | -               | -                 | -                     |

1. 施設管理者 (Venue Administrator) は、ディスプレイ仕様 (Display Specifications) パネルのみ編集できます。
2. サポート (Support) ユーザは、スイートの TV 制御 PIN およびチャンネル ガイドを設定できます。
3. 施設管理者 (Venue Administrator) は、その施設管理者 (Venue Administrator) に権限が付与されているに関連する (タグが付けられている) コンテンツを削除できます。外部コンテンツ、チャンネル、およびダイナミック メニュー ボード (DMB: Dynamic Menu Board) のコンテンツ アイテムは、すべてのに対してグローバルです。したがって、これらのグローバル コンテンツアイテムも施設管理者 (Venue Administrator) は削除できます。
4. 施設管理者 (Venue Administrator) および施設オペレータ (Venue Operator) は、スクリプト制御のみ行うことができ、また管理者 (Administrator) がそのユーザに対して権限を付与した施設に対してのみ制御を実行できます。
5. ヘルプデスクユーザは、読み取り専用アクセス権限により、[System Status] の情報を表示および監視できます。また、[System Status] で、DMP に対して Get Status、Ping、Display IP、および Ping Test といった各種コマンドを実行できます。
6. サポート (Support) ユーザは、ステータスの取得、Ping、IP の表示、Ping テスト、TV のオン/オフ、ディスプレイ入力の設定、ディスプレイ パナーの設定、クロズドキャプションの設定、ビデオ チャンネルの設定、TDR を使用した配線テスト、TDR テストの結果表示を、それぞれコマンドで実行できます。
7. 施設管理者は、権限が付与された施設への読み取り専用アクセス権限により、[System Status] で情報を表示および監視できます。また、施設管理者としての権限が付与された施設の DMP に対して、[System Status] で Get Status、Ping、Display IP、および Ping Test といった各種コマンドを実行することもできます。
8. 施設オペレータは、権限が付与された施設への読み取り専用アクセス権限により、[System Status] で情報を表示および監視できます。また、施設オペレータとしての権限が付与された施設の DMP に対して、[System Status] で Get Status、Ping、Display IP、および Query Syslog といった各種コマンドを実行することもできます。

ユーザ管理について



# Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元

このモジュールでは、プライマリ サーバとセカンダリ サーバ間で、バックアップを設定およびスケジュールし、データを復元する方法について説明します。

## 目次

- [Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元に必要な前提条件\(87 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Director サーバーのバックアップおよび復元に関する制約事項\(88 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元に関する情報\(88 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Director サーバのバックアップ方法\(89 ページ\)](#)
- [Cisco Vision Director サーバの復元方法\(97 ページ\)](#)

## Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元に必要な前提条件

Cisco Vision Director サーバーのバックアップまたは復元を行う前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- Cisco Vision Director のテキストベースのユーザー インターフェイス (TUI) に習熟している必要があります。  
詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス \(113 ページ\)](#)を参照してください。
- プライマリのアクティブ サーバとセカンダリ サーバにアクセスするための、直接接続されたコンソールまたは SSH クライアント。
- アクティブ サーバとセカンダリ サーバの IP アドレス。
- Cisco Vision Director のアクティブ サーバとセカンダリ サーバにおけるインストーラ アカウントの資格情報。
- セカンダリ サーバの IP アドレスには、アクティブ サーバからネットワーク上で到達可能である必要があります。到達可能でない場合は TUI のバックアップ設定が失敗します。
- 自動のバックアップと復元を行う適切なスケジュール時間を決めておく必要があります。

## Cisco Vision Director サーバーのバックアップおよび復元に関する制約事項

Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元を行う際は、次の制約事項を考慮してください。

**注意:** このマニュアルで説明している作業は、両方のサーバーで **Cisco Vision Director** ソフトウェアを実行している冗長サーバー環境にのみ適用されます。

- プライマリの問題が原因でセカンダリ Cisco Vision Director サーバーにフェールオーバーする必要がある場合は、元のバックアップ設定が無効になります。

バックアップのコピーを自動的にセカンダリ サーバに転送する方法でのスケジュール済みバックアップ プロセスは、再び TUI の自動バックアップ設定を使用してプライマリ サーバとセカンダリ サーバ間でバックアップ設定をリセットするまでは、完全に動作させることができないので注意してください。ただし、バックアップは引き続きプライマリ サーバに保存されます。

- 元のプライマリ サーバにフェイルバックし、元の IP アドレッシング設定を使用するようになったら、セカンダリ サーバでバックアップ ディレクトリを再度確立できるように、再び TUI の自動バックアップ設定を使用してください。

## Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元に関する情報

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [バックアップ環境 \(88 ページ\)](#)
- [バックアップされる Cisco Vision Director のデータ \(89 ページ\)](#)
- [ディスクのストレージとメンテナンス \(89 ページ\)](#)
- [環境の復元 \(89 ページ\)](#)

## バックアップ環境

バックアップは単一の Cisco Vision Director サーバだけがあるネットワーク環境でも実行できますが、冗長仮想環境をお勧めします。冗長環境では、プライマリ サーバーで Cisco Vision Director を実行し、同じサブネットに接続されたセカンダリサーバーにプライマリ サーバーからのバックアップ データが保存されます。

バックアップ処理は、スケジュールを設定するか、手動で実行できます。バックアップが完了すると、コンテンツ管理システム (CMS) が自動的に再起動します。

バックアップタスクは、イベントスクリプトの実行中でも実行できます。この変更に伴い、バックアップ処理中にはデータベースの最適化と修復は行われなくなったため、必要に応じてデータベース メンテナンスを手動実行するための新規オプションが TUI に追加されています。

データベースのメンテナンスを定期的に行うことは想定されていませんが、パフォーマンスの低下が見られる場合はデータベースのメンテナンスを実行する必要があります。

**ヒント:** バックアップ ログ (/var/log/svd-config/backup-YYYYMMddHHMMSSz.log) を調べて、テーブルの更新が「OK」となっていて最新かどうかを確認することができます。そのような状態になっていない場合は、TUI オプションを使用してデータベースのメンテナンスを行ってください。詳細については、『[Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4](#)』で「Running Database Maintenance」のトピックを参照してください。



## バックアップされる Cisco Vision Director のデータ

バックアップを必要とする **Cisco Vision Director** の領域は複数存在します。バックアップ処理では、**Cisco Vision Director** サーバの次の領域がバックアップされます。

- アップロードされたフォント
- **Cisco Vision Director** コンテンツ管理システム (CMS)
- **Cisco Vision Director** データベース
- **Cisco Vision Director** システム コンフィギュレーション ファイル
- **Content Integration** データ
- **ダイナミック メニュー ボード** のデータ
- **/var/sv/pofp/data** ディレクトリにある再生証明レポート データ

**注意:** **/var/sv/pofp/raw** ディレクトリにある再生証明レポート データはバックアップされません。

## ディスクのストレージとメンテナンス

**注:** システムで十分なディスク容量を確保するため、リリース **4.0** 以降ではデフォルトでバックアップ ファイルが **1** つしか保持されません。

詳細については、『[Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4](#)』で「**Managing Server Resources in Cisco Vision Director**」のモジュールを参照してください。

## 環境の復元

バックアップと同様に、復元プロセスもスケジュールを設定するか手動で実行します。手動復元用の画面が表示されると、バックアップと復元用の両方のディレクトリを合わせたバックアップの一覧が表示されます。これらを使用してプライマリまたはセカンダリ サーバーでの手動復元を開始できます。自動復元では、常に復元ディレクトリにある最新のバックアップファイルが使用されます。

また、プライマリ データベースとセカンダリ データベースで実行するタスクのスケジュールは、バックアップおよび復元のタスクが存在するため異なります。したがって、スケジュール自体は自動的に復元されません。

## Cisco Vision Director サーバのバックアップ方法

ここでは、次の作業について説明します。

- [セカンダリ サーバーでのバックアップ アカウントの有効化 \(90 ページ\)](#) (必須)
- [自動バックアップおよび復元を行うためのプライマリ サーバーの設定 \(90 ページ\)](#) (必須)
- [定期バックアップのスケジュール設定 \(93 ページ\)](#) (必須)
- [手動操作によるバックアップの即時実行 \(94 ページ\)](#) (任意)
- [バックアップ完了の検証 \(95 ページ\)](#) (任意)
- [保持するバックアップ ファイル数の変更 \(96 ページ\)](#) (任意)

## セカンダリ サーバーでのバックアップ アカウントの有効化

冗長のセカンダリ サーバによる自動バックアップおよび復元を行うようにプライマリ Cisco Vision Director サーバを設定する前に、セカンダリ サーバで TUI を使用してバックアップ アカウントを有効にします。

TUI の使用の詳細については、「[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス \(113 ページ\)](#)」を参照してください。

セカンダリ サーバでバックアップ アカウントを有効にする手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバーで、次の手順に従って TUI にログインします。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または Cisco Vision Director サーバ ネットワークに接続しているラップトップ コンピュータから SSH クライアントを使用し、サーバの IP アドレスを使用してセカンダリ Cisco Vision Director サーバへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザー ID を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. メイン メニューで、**[System Accounts] > [Enable/Disable Backup User]** メニュー ([図 1 \(90 ページ\)](#)) に移動します。

**ヒント:** TUI メニュー内を移動するには、移動先のメニュー領域に対応する文字 (a, b, c など) を入力して、Enter を押しします。他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用してメニュー階層から前のメニューに戻ります。

**図 1** **[Enable/Disable Backup User]** メニュー

```

Main Menu > System Accounts

Please choose one of the following menu options:

a) Enable/Disable TAC user
b) Enable/Disable privileged accounts via remote acces
c) Enable/Disable all users created by the TAC user
d) Change installer password
e) Enable/Disable Backup user
f) Change MySQL password
g) Change admgr password
h) Change admin password
i) Change JMX password
R or < or ,) Return to prior menu

```

1. **[Enable backup user account]** を選択します。

正常に作成されると、次のメッセージが表示されます。

```
Backup user has been enabled.
You must set up the backup user key from the primary system to use it.
```

2. 任意のキーを押して **[Enable/Disable Backup User]** メニューに戻ります。
3. 次にメイン メニューに戻って TUI を終了します。

## 自動バックアップおよび復元を行うためのプライマリ サーバーの設定

プライマリ サーバとバックアップ サーバ間でバックアップ アカウントとディレクトリの設定を自動化する TUI メニュー オプションを使用します。TUI を使用して、バックアップおよび復元プロセスを実行するように Cisco Vision Director サーバ環境を設定します。

**注:** TUI はバックアップ環境の設定にのみ使用します。**[System Configuration]** を使用して、手動バックアップをスケジュールまたは実行します。詳細については、[定期バックアップのスケジュール設定 \(93 ページ\)](#)および[手動操作によるバックアップの即時実行 \(94 ページ\)](#)を参照してください。

## 前提条件

バックアップと復元を実行する前に、次のいくつかの手順を実行してください。

- バックアップ ファイルの宛先となる DSD サーバーの IP アドレスを特定します。
- そのサーバー(バックアップ サーバー)で、リモート SSH アクセスを有効にします。バックアップ DSD で TUI を使用します。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または Cisco Vision Director サーバ ネットワークに接続しているラップトップ コンピュータから SSH クライアントを使用し、サーバの IP アドレスを使用してプライマリ Cisco Vision Director サーバへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザ ID を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
  - c. メインメニューから、[System Accounts]([図 2\(91 ページ\)](#))で、[Enable/Disable privileged accounts via remote access (ssh)] を選択します([図 3\(92 ページ\)](#))。

図 2 TUI のシステム アカウント

```

Cisco Vision Dynamic Signage Director Configuration Menu

Login Failures Latest failure From
installer 0
Hostname: sv-director
IP address: 10.194.170.162
Software version: 6.2.0 build 313

Main Menu
Please choose one of the following menu options:
a) System Settings
b) System Accounts
c) Services Control
d) Cisco Vision Server Administration
e) Troubleshooting
X) Exit
```

図 3 SSH によるリモートアクセスの有効化

```

Cisco Vision Dynamic Signage Director Configuration Menu

0
Hostname: sv-director
IP address: 10.194.170.188
Software version: 6.2.0 build 456

Main Menu > System Accounts

Please choose one of the following menu options:

a) Enable/Disable TAC user
b) Enable/Disable privileged accounts via remote access (ssh)
c) Enable/Disable all users created by the TAC user
d) Change installer password
e) Enable/Disable Backup user
f) Change MySQL password
g) Change admgr password
h) Change admin password
i) Change JMX password
R or < or ,) Return to prior menu

```

リモート(バックアップ)サーバーでアクセスを有効にした後、プライマリ DSD サーバーに戻って手順を続行します。

自動バックアップおよび復元を行うようにプライマリ サーバーを設定する手順は次のとおりです。

1. プライマリ サーバーで、次の手順に従って TUI にログインします。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または Cisco Vision Director サーバ ネットワークに接続しているラップトップコンピュータから SSH クライアントを使用し、サーバの IP アドレスを使用してプライマリ Cisco Vision Director サーバへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログインプロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザ ID を入力して続行し、パスワードプロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. メインメニューで、[Cisco Vision Server Administration] > [Setup automatic backup and restore] に移動します。

図 4 [Setup Automatic Backup and Restore] メニュー オプション

```

Main Menu > Cisco Vision Server Administration

Please choose one of the following menu options:

a) Display Software Version
b) Upgrade Server
c) Restart Dynamic Signage Director software
d) Shutdown Dynamic Signage Director software
e) Setup automatic backup and restore
f) Re-Run CiscoVision initial configuration
g) Retention Policy
h) Database Maintenance
i) Clear Switch Host Keys
j) Failover
k) Setup Memory Profile
l) Reboot
m) Power Off
n) Clean up content import history table
o) Restore and Migrate Release 6.1 Backup
p) Restore all system data from system backup
q) Clean up generic content table
r) Restore TV Off Zone Assignments
R or < or ,) Return to prior menu

```

3. 図 5(93 ページ) の例に示すように、プロンプトでセカンダリ(リモートバックアップ)サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

注:画面内に黄色で表示されているテキストは、上記の前提条件(91 ページ)での実行内容の手順を示しています(下図では省略)。

図 5 セカンダリ サーバーの IP アドレス設定

```

Please enter the IP address of the currently inactive Dynamic Signage Director s
erver
Enter hostname (or press <ENTER> to cancel): █

```

4. プロンプトで、セカンダリ バックアップ サーバでのインストール担当者アカウントのパスワードを入力します。
5. パスワードが受け入れられると、RSA キーが生成され、公開キーがセカンダリ サーバーにコピーされます。図 6(93 ページ)に示すように、エラーなしでキーが作成されたことを確認します。

図 6 RSA キーの生成

```

Please enter the IP address of the currently inactive Dynamic Signage Director server
Enter hostname (or press <ENTER> to cancel): 10.194.170.191
Please enter the password for installer @ 10.194.170.191:
Generating public/private rsa key pair.
Your identification has been saved in /root/.ssh/id_rsa.
Your public key has been saved in /root/.ssh/id_rsa.pub.
The key fingerprint is:
SHA256:WiJDBs/au0vu5T/Uc90FjKhWf9CWZrbXdNxEM9uwt5g root@sv-director
The key's randomart image is:
+---[RSA 2048]-----+
| .o . . *+|
| + 0 .o0|
| = = + = .+0|
| = . + o * .0|
| . + .oS+ . E o |
| + +o o o . |
| o o . o . |
| o + . |
| |
+---[SHA256]-----+

```

6. 「Press any key」メッセージが表示されるまで待ちます(表示が多少遅れる場合があります)。
7. 任意のキーを押して [Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。
8. 次にメイン メニューに戻って TUI を終了します。

## 定期バックアップのスケジュール設定

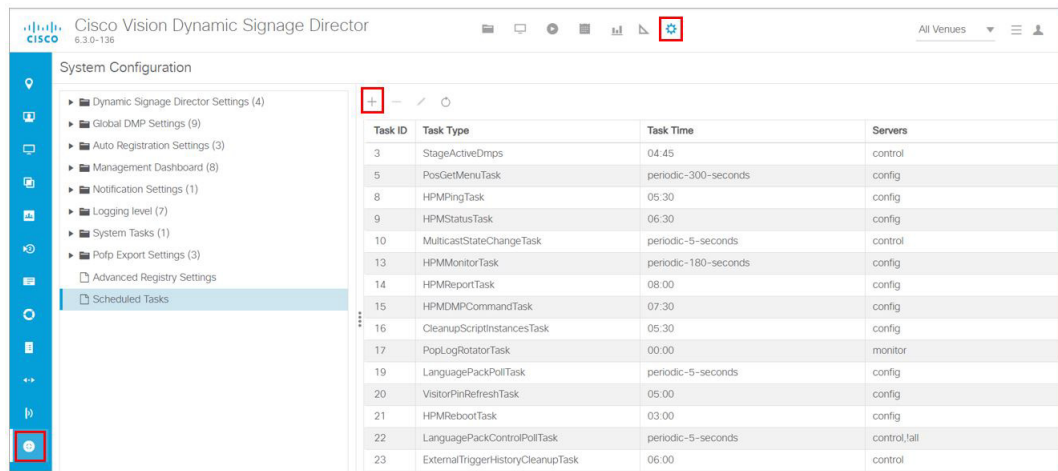
バックアッププロセスをサポートするようにサーバーを設定した後は、Cisco Vision Director ソフトウェアの [System Configuration] を使用してバックアップのスケジュールを設定します。

バックアップの定期実行スケジュールを設定する手順は次のとおりです。

1. プライマリ Cisco Vision Director サーバーに管理者としてログインします。
2. Cisco Vision Director から [Configuration] > [System Configuration] > [Scheduled Tasks](図 7(94 ページ))をクリックします。
3. [Add] アイコンをクリックします。[Schedule Task – Add] ダイアログボックス(図 8(94 ページ))が表示されます。
4. [Task Type] フィールドをクリックし、「BackupTask」と入力します(図 8(94 ページ))。

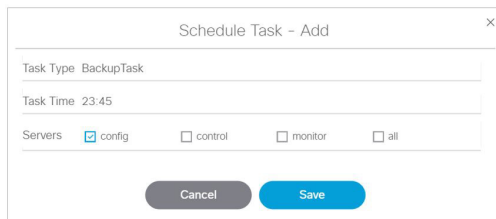
注: タスクの名前は、小文字と大文字の違いも含めて、表示通りに正しく入力してください。

図 7 定期実行させるバックアップタスクの追加



5. [Task Time] フィールドをクリックし、バックアップを開始させる時刻を指定します(24 時間形式)。

図 8 タスクのスケジュール:ダイアログボックスの追加



6. [Servers] フィールドをクリックし、**config** を選択します。

7. [保存(Save)] をクリックします。

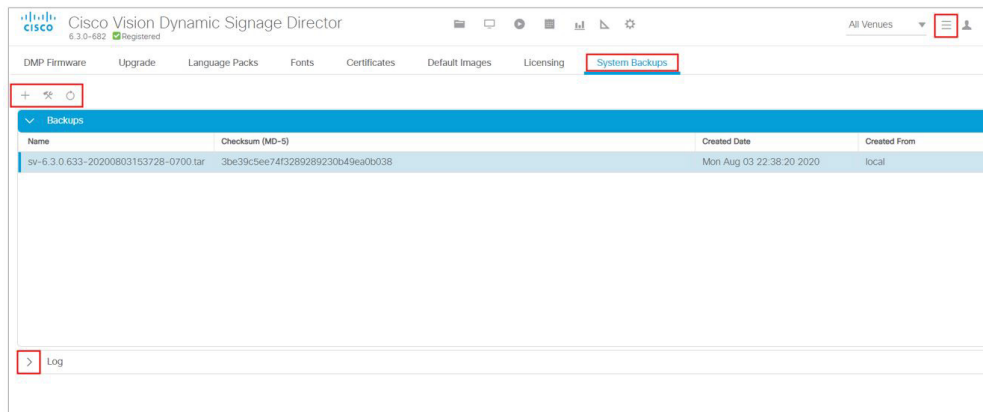
## 手動操作によるバックアップの即時実行

バックアップをすぐに開始する場合は、バックアップを手動で実行します。

バックアップを手動で開始してすぐに実行する手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Director に管理者としてログインします。
2. [More] > [Manage Software] をクリックします。
3. [System Backup] タブ(図 9(95 ページ))をクリックします。
4. + アイコンをクリックして、バックアップの作成を開始します。バックアップが即時に開始されます。

図 9 システムバックアップの生成



ログ矢印を使用して、ログファイル情報を表示します。

注:「success」メッセージの表示は、バックアップ タスクが開始されたことを意味します。これはバックアップの完了を意味するものではありません。

## バックアップ完了の検証

バックアップが完了したことを確かめるには、バックアップ ファイルが存在することと、ログ ファイルにエラーが記録されていないことを確認します。

### バックアップ ファイルが存在することの確認

注:バックアップ ファイルの存在を確認してわかるのは、バックアップが試行されたということだけです。ファイルにエラーがないかどうかを確認してください。

バックアップ ファイルが存在することを確認する手順は次のとおりです。

1. TUI にログインします。ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザー ID を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Restore all system data from system backup] を選択します。
4. 日付と時刻付きでバックアップ ファイルが表示されることを確認します。

### ログ ファイル中でのバックアップ エラーの特定

注:メッセージ「Starting backup」および「Backup completed」は、バックアップが失敗しても常にログに記録されます。

ログ ファイル中のバックアップ エラーを探す手順は次のとおりです。

1. /opt/sv/servers/config/logs/sv\_dev\_debug.log ファイルを開きます。

ヒント:ログ ファイルには、TUI からアクセスするか、[Library] ([MainCisco Vision Director Menu]) でシステム状態レポートを実行してアクセスすることができます。[More] > [System State Report] をクリックします。

2. sv\_dev\_debug.log ファイル中で、文字列「com.cisco.sv.backup」を含むメッセージを特定します。

これらはバックアップ処理のメッセージです。

3. 「Starting backup」メッセージを特定します。
4. 「Starting backup」メッセージの後方(かつ「Backup completed」メッセージの手前)にある「com.cisco.sv.backup」メッセージで、文字列中に「ERROR」を含むものを特定します。

こうしたエラーが存在する場合、バックアップは正常に完了していませんでした。

## 保持するバックアップ ファイル数の変更

システムで必要とされるディスク ストレージ量を節約するため、デフォルトのバックアップ保持ポリシーでは、バックアップ ファイルを 1 つ保持するようにされています。この保持ポリシーを変更して、2、5、7、または 10 日分のバックアップ ファイルを保持できます。

**注意:** 保持するバックアップ ファイル数がシステム リソースによってサポートされるように、全体的なディスクの使用率とバックアップ コンテンツのサイズを確認してください。

**注:** このタスクはプライマリ サーバーとセカンダリ バックアップ サーバーの両方で実行してください。

保持するバックアップ ファイル数を変更する手順は次のとおりです。

1. 次の手順に従って TUI にログインします。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または Cisco Vision Director サーバ ネットワークに接続しているラップトップ コンピュータから SSH クライアントを使用し、サーバの IP アドレスを使用してプライマリ Cisco Vision Director サーバへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザー ID を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. メインメニューから [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Retention Policy] を選択します。
4. [Backup/restore Files] を選択します。

ポリシー オプションのメニューが表示され(図 10(96 ページ))、保持するバックアップ ファイル数として 1(デフォルト)、2、5、7、または 10 を選択できます。

図 10 [Backup Retention Policy] メニュー

```

Main Menu > Cisco Vision Server Administration > Retention Policy > Backup/restore
Files

Please choose one of the following menu options:

a) Retain 1 backup
b) Retain 2 backups
c) Retain 5 backups
d) Retain 7 backups
e) Retain 10 backups
R or < or ,) Return to prior menu

```

5. ファイルを保持する日数に対応する文字を入力し、**Enter** を押します。
6. ポリシー変更の確認メッセージが表示されたら、任意のキーを押して [Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。

図 11 ポリシーの変更の確認

```

Configured Backup/Restore Retention Policy.
Press any key to return to the menu.

```

7. 次にメイン メニューに戻って TUI を終了します。



## Cisco Vision Director サーバの復元方法

Cisco Vision Director ソフトウェアは、プライマリ サーバーとセカンダリ サーバー間でバックアップ ファイルを自動的にコピーし、復元処理の開始時に MD5 チェックサムを検証します。

セカンダリ サーバへのフェールオーバーと復元が必要になった場合は、冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定(99 ページ)の手順に従います。

注: サーバー間で手動でファイルをコピーする必要がある場合は、tar ファイルと .chksum ファイルの両方をコピーしてください。復元処理では MD5 署名の検証で自動的に両方のファイルが使用されます。

ここでは、次の作業について説明します。

- 手動操作による復元の即時実行(97 ページ) (任意)
- Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動(98 ページ) (復元実行後に必要)

### 手動操作による復元の即時実行

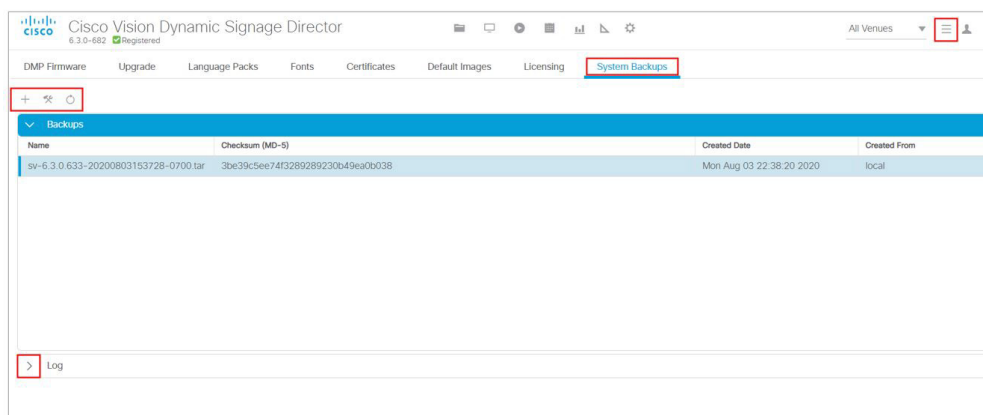
定期的なスケジュールされた時刻以外の時刻に復元を開始する場合、Cisco Vision Director ソフトウェアでは、バックアップから復元を実行してすぐに開始することもできます。

注意: イベントスクリプトの実行中は復元プロセスを正常に実行できません。またバックアップ開始時に実行中であったスクリプトが存在していた場合は、復元の終了後にそうしたスクリプトは実行を開始します。

復元を手動で開始してすぐに実行する手順は次のとおりです。

1. 管理者として Cisco Vision Director にログインします。
2. [More] > [Manage Software] をクリックします。
3. [System Backup] タブ(図 12(97 ページ))をクリックします。
4. [Restore] をクリックします。[Confirm Restore] ダイアログボックスが表示されます。
5. [Yes] をクリックします。

図 12 バックアップからのシステムの復元



バックアッププロセスからのシステムの復元が開始されます。

または、必要に応じて、TUI を使用して同じプロセスを実行できます。

復元を手動で開始してすぐに行う手順は次のとおりです。

1. 次の手順を実行して、TUI にログインします。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または **Cisco Vision Director** サーバ ネットワークに接続しているラップトップ コンピュータから **SSH** クライアントを使用し、サーバの **IP** アドレスを使用してプライマリ **Cisco Vision Director** サーバへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザー **ID** を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. メインメニューから **[Cisco Vision Server Administration]** を選択します。
3. **[Restore all system data from system backup]** を選択します。

復元が即時に開始されます。

## Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

**Cisco Vision Director** サーバで何らかの復元を実行した後は、**Cisco Vision Director** ソフトウェアを再起動してサービスの通常の運用を再開する必要があります。

**Cisco Vision Director** ソフトウェアを再起動する手順は次のとおりです。

1. プライマリ サーバで、次の手順に従って TUI にログインします。
  - a. 直接接続しているコンソールを使用するか、または **Cisco Vision Director** サーバ ネットワークに接続しているラップトップ コンピュータから **SSH** クライアントを使用し、サーバの **IP** アドレスを使用してプライマリ **Cisco Vision Director** サーバへのセキュア ログインを実行します。
  - b. ログイン プロンプトが表示されたら「インストール担当者」のユーザー **ID** を入力して続行し、パスワード プロンプトでインストール担当者のパスワードを入力します。
2. メインメニューから **[Cisco Vision Server Administration]** を選択します。
3. **[Restart Dynamic Signage Director Software]** を選択します。
4. メイン メニューに戻って TUI を終了します。



# 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定

Cisco Vision Director は、Cisco Vision Director ソフトウェアを実行する 2 台のサーバ間で「ウォーム スタンバイ」と呼ばれる環境をサポートします。この環境では、一方のサーバがプライマリ アクティブ サーバとして動作し、もう一方のサーバがセカンダリ バックアップ サーバとして動作します。障害が発生した場合は、バックアップ サーバをアクティブ サーバにするように設定できますが、フェールオーバー処理は自動的に実行されません。

## 目次

- 冗長 Cisco Vision Director サーバー間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件 (99 ページ)
- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項 (100 ページ)
- 冗長 Cisco Vision Director サーバー間でのフェールオーバーについて (100 ページ)
- スタンバイ セカンダリ サーバーをアクティブ サーバーに昇格させる方法 (101 ページ)
- プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法 (107 ページ)

注:セカンダリへのフェールオーバー後にプライマリ サーバを復元するにはサービスの中断が必要になります。そのため、スケジュールされたダウンタイム中のみ実施してください。プライマリ サーバの IP アドレスを変更して、新しくアクティブになったセカンダリ サーバとのアドレス競合を解消するまでは、両方のサーバ間でバックアップのスケジュールを設定することができないので注意してください。復元後にテキスト ユーティリティ インターフェイス (TUI) を使用して、バックアップ/復元環境を再設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 \(87 ページ\)](#) を参照してください。

## 冗長 Cisco Vision Director サーバー間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件

セカンダリ サーバを昇格させてプライマリ アクティブ サーバにする前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- 両方の Cisco Vision Director サーバにログインするための物理コンソールへのアクセスまたは SSH クライアント (PuTTY など) が必要です。
- テキスト ユーティリティ インターフェイス (TUI) の使い方を理解している必要があります。詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス \(113 ページ\)](#) を参照してください。メニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、**Enter** を押します。
- セカンダリ サーバでプライマリ サーバの正常なバックアップがあることを確認します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 \(87 ページ\)](#) を参照してください。
- Cisco Vision Director バックアップ サーバはプライマリ サーバと同じサブネット上に存在する必要があります。

- サーバではネットワークへの接続に **Eth0** インターフェイスを使用している必要があります。
- プライマリ サーバとセカンダリ サーバの **IP アドレス**が必要です。

ヒント:TUI にログインするときに、サーバの **IP アドレス**が画面に表示されます。**[TUI System Settings] > [System Information]** メニュー オプションを使用して、サーバーごとに **/etc/hosts** の情報を表示することもできます。

## 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項

Cisco Vision Director サーバの冗長アーキテクチャには次の制限があります。

- Cisco Vision Director サーバ アーキテクチャでは、アクティブ サーバで障害が発生したときの自動フェールオーバーはサポートされていません。
- 環境によっては、手動のフェールオーバー プロセスが完了するまで **30 分以上**かかります。
- また、手動のフェールオーバー プロセスの完了後、アクティブなイベントにいる場合はスクリプトのプッシュを実行してください。この処理は、導入の規模やコンテンツのサイズに応じて数分から **1 時間**ほどかかることがあります。再度スクリプトのプッシュを行うとサービスの中断が生じます。

## 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーについて

図 1(100 ページ)は、通常のネットワーク状態と運用における Cisco Vision Director サーバの冗長性のアーキテクチャを示しています。プライマリ サーバとセカンダリ サーバは、Cisco Connected Venue(Connected Stadium)ネットワークの同じサブネットで **2 つ**の異なる **IP アドレス**を持つ独立したホストとして扱われます。

セカンダリ サーバは引き続きネットワークに接続していますが、通信と制御は、DMP を含めて、プライマリ Cisco Vision Director サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われることに注意してください。

セカンダリ サーバは、障害が発生した場合のプライマリのバックアップとしてネットワークに接続しているだけです。プライマリ サーバからデータを定期的にバックアップするように、セカンダリ サーバを設定します。

図 1 Cisco Vision Director 通常の動作における冗長性

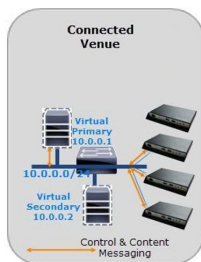
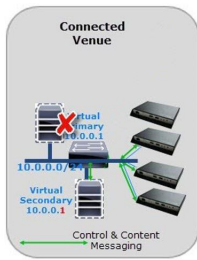


図 2(101 ページ)は、プライマリ Cisco Vision Director サーバからの接続が障害を起こしたときの冗長環境を示しています。プライマリ サーバが障害を起こした場合は、手動のプロセスを通じて、バックアップからセカンダリ サーバを復元し、プライマリ サーバをシャットダウンし、セカンダリ サーバをプライマリとして有効にする必要があります。

元のプライマリ サーバと同じ **IP アドレス**を使用するようにセカンダリ サーバを再構成する必要があることに注意してください。この例では、セカンダリ サーバの **IP アドレス**をプライマリ サーバのアドレスに合わせて **10.0.0.2** から **10.0.0.1** に変更しています。プロセスが完了すると、通信と制御は、新しく有効になったセカンダリ サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われるようになります。

注:ここでの「フェールオーバー」とは、セカンダリ サーバの自動有効化という意味ではありません。フェールオーバーのプロセスは手動です。

図 2 Cisco Vision Director フェールオーバーの動作における冗長性



## スタンバイ セカンダリ サーバーをアクティブ サーバーに昇格させる方法

このセクションでは、冗長サーバ環境において Cisco Vision Director サーバが障害を起こした場合、または Cisco Vision Director ソフトウェアのアップグレードの実行が必要になった場合に、実行する関連タスクについて説明します。これには、セカンダリ サーバを有効にして Cisco Vision Director の運用のためにプライマリ サーバの機能を置き換えるタスクが含まれます。

注: TUI のメニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、**Enter** を押します。

ここでは、次の作業について説明します。

- セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定 (101 ページ) (必須)
- バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元 (102 ページ) (必須)
- サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウン (102 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン (103 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバの IP アドレスの変更 (103 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバでのネットワーク サービスの再起動 (105 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバへのネットワーク接続の確認 (106 ページ) (必須)
- スイッチの ARP キャッシュのクリア (106 ページ) (任意)
- セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動 (106 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認 (107 ページ) (必須)

### セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定

セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定を行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。

3. **[Failover]** を選択します。
4. **[Promote as Primary/Active]** を選択します。

Cisco Vision Director のサービスが開始され、再起動時に自動的に起動するように設定されます。

## バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元

バックアップ ファイルからのシステム データを使用してセカンダリ サーバを復元する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバーでインストール担当者として TUI にログインします。  
  
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. **[Cisco Vision Server Administration]** を選択します。
3. **[Restore all system data from system backup]** を選択します。
4. 復元するコンポーネントを選択し、復元に使用するバックアップ ファイルの日付を選択します。
5. **[Apply]** をクリックします。  
  
復元が開始されます。復元プロセスが正常に完了すると、通知のダイアログボックスが表示されます。
6. 復元が完了したら、システムを調べてすべての処理が想定通りに行われたことを確認します。

## サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバーのシャットダウン

注: プライマリ サーバーをこのタスクに使用できなくなった場合は、新しくアクティブにするセカンダリ サーバーと競合しないように、プライマリ サーバーの電源をオフにしてください。

サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウンを行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「プライマリ」サーバーでインストール担当者として TUI にログインします。  
  
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. **[Cisco Vision Server Administration]** を選択します。
3. **[Failover]** を選択します。
4. **[Configure as Secondary/Inactive]** を選択します。
5. 任意のキーを押して **[Failover]** サブメニューに戻ります。
6. 「R」と入力し、**Enter** を押して、**[Cisco Vision Server Administration]** メニューに戻ります。
7. **[Power Off]** を選択します。  
  
プライマリ サーバーがシャットダウンします。

## セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン

セカンダリ サーバでサービスをシャットダウンする手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは **SSH** クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として **TUI** にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. **[Cisco Vision Server Administration]** を選択します。
3. **[Shutdown Dynamic Signage Director software]** を選択します。

すべての **Cisco Vision Director** サービスが停止します。

4. 「R」と入力し、**Enter** を押して、メニューに戻ります。

## セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更

### 前提条件

セカンダリ サーバーの IP アドレスを変更する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- プライマリ サーバーの IP アドレスが必要です。
- vi エディタの使い方を理解している必要があります。vi エディタの使い方については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス \(113 ページ\)](#) を参照してください。

注: `/etc/hosts` ファイルに **Localhost** エントリがあるものの **hostname** エントリがない場合でも、システムは動作します。ただし、セカンダリの **hostname** が存在する場合は、セカンダリ サーバの IP アドレスをプライマリ サーバの IP アドレスに一致するように変更する必要があります。

### 手順

ヒント: 何らかの理由で TUI メニューから戻る場合は、`:q` と入力します。

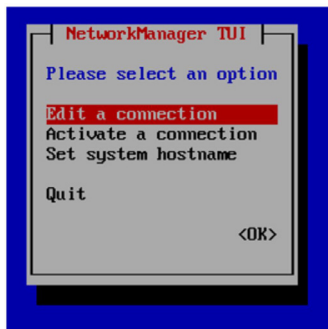
セカンダリ サーバの IP アドレスを変更する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは **SSH** クライアントを使用して、インストール担当者として **TUI** にログインします。TUI のメイン メニューが表示されます。
2. メインメニューから **[System Settings]** を選択します。
3. **[Network Settings]** を選択します。
4. **[Setup Network Information]** を選択します。

ヒント: TUI メニュー内を移動するには、メニュー領域に対応する文字 (**a**、**b**、**c** など) を入力して、**Enter** を押します。他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用して前のメニューに戻ります。

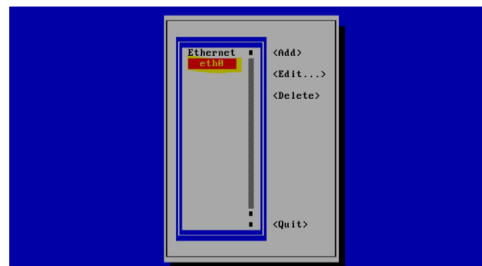
5. **[Network Manager TUI]** 画面で、**[Edit a Connection]** を選択します (図 3 (104 ページ))。

図 3 接続の編集



6. [eth0] を選択します。
7. [Edit...] を選択します(図 4(104 ページ))。

図 4 ネットワークの編集

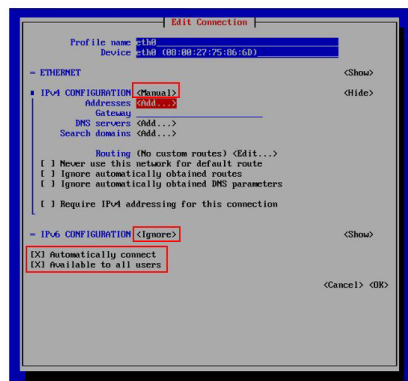


8. [IPv4 CONFIGURATION] を [Manual] に設定します(図 5(104 ページ))。
9. [Show] を選択して詳細を入力します。
10. カーソルが [Static IP] アドレスの行に来るまで、Tab キーを押します。
11. Backspace キーを押して行の先頭に移動し、プライマリ サーバーの IP アドレスを入力します。

形式: *ip address/prefix*

図 2(101 ページ)の例では、10.0.0.1 になっています。プライマリ サーバーの実際の IP アドレスを使用します。

図 5 ネットワーク設定





## スタンバイ セカンダリ サーバーをアクティブ サーバーに昇格させる方法

## 注:

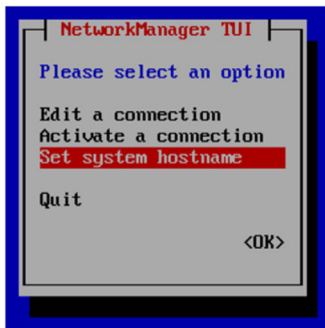
名前「eth0」は変更しないでください。

[IPv6 CONFIGURATION] は [Ignore] のままにします。

[Automatically connect] および [Available to all users] のボックスはオンのままにします。

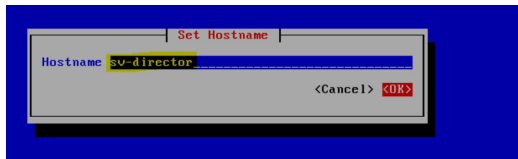
12. [OK] に移動して **Enter** を押します。
13. 任意のキーを押して [Network Settings] サブメニューに戻ります。
14. [Set system hostname] を選択します(図 6(105 ページ))。

図 6 システム ホスト名の設定



15. Cisco Vision Director サーバーの名前を入力して [OK] を選択します。

注: ホスト名には、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してください。



16. ホスト ファイルの編集(25 ページ)を参照してください。
17. このサーバーの IP アドレスをプライマリ サーバーの IP アドレスに置き換えます。
18. 設定を保存し、次のコマンドを使用して vi を終了します。

```
:wq
```

## セカンダリ サーバーでのネットワーク サービスの再起動

セカンダリ サーバーでネットワーク サービスを再起動する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Services Control] サブメニューに移動します。
2. [Networking] オプションを選択します。  
[Networking] サブメニューが表示されます。
3. [Restart networking] オプションを選択します。

ネットワーク デーモンが再起動され、IP アドレスの変更がセカンダリ サーバに反映されます。

注: SSH を使用してネットワーク経由でサーバに接続している場合は、セッションが切断されます。プライマリ サーバの IP アドレスを使用して再接続してください。

## セカンダリ サーバへのネットワーク接続の確認

セカンダリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] オプションを選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、セカンダリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。
4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注:セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア \(106 ページ\)](#)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。

## スイッチの ARP キャッシュのクリア

このタスクは任意です。スイッチの ARP キャッシュは 5 ~ 10 分で更新されます。ただし、セカンダリ サーバの IP アドレスを変更した後にセカンダリ サーバにアクセスできない場合は、スイッチで **clear ip arp** 特権 EXEC コマンドを使用してその IP アドレスの ARP キャッシュをクリアしてください。

スイッチの ARP キャッシュをクリアする手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールを使用して、またはスイッチの IP アドレスがわかっている場合は次の例に示すように **Telnet** を使用して、スイッチにアクセスします。ここで *ip-address* はスイッチのアドレスです。

```
telnet ip-address
```

2. 対応するプロンプトで、次の例に示すようにログイン情報を入力します。ここで *yourname* と *yourpass* は自分のユーザー名とパスワードです。

```
Username: yourname
Password: yourpass
switch>
```

3. **enable** コマンドと対応するパスワードを使用して、特権 EXEC モードに移ります。

```
switch> enable
Password: enablepassword
switch#
```

4. セカンダリ サーバで使用されるようになった、新しく割り当てられた IP アドレスの ARP キャッシュをクリアするには、次の例に示すように **clear ip arp** コマンドを使用します。

```
clear ip arp 10.0.0.1
```

## セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動

セカンダリ サーバで **Cisco Vision Director** を再起動する手順は次のとおりです。

1. 「セカンダリ サーバ」で次のいずれかの操作を行います。
  - 引き続き TUI にログインしている場合は、メイン メニューに移動します。
  - まだセカンダリ サーバでインストール担当者としてログインしていない場合は、直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、新しい IP アドレスでもう一度ログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

## プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Restart Dynamic Signage Director Software] を選択します。  
すべての Cisco Vision Director サービスが開始されます。
4. 任意のキーを押して [Cisco Vision Server Administration] サブメニューに戻ります。
5. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、**Enter** を押します。
6. **X** を押して TUI を終了します。

## セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認

セカンダリ サーバで **Cisco Vision Director** の設定を確認する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して「セカンダリ」サーバーの **Cisco Vision Director** にログインします。
2. **Cisco Vision Director** メインメニューから [Device Management] > [Get Status] をクリックします。
3. [Play] をクリックします(コマンドを送信)。  
DMP と **Cisco Vision Director** の間で正常に通信が行われていることを確認します。
4. すべてのコンテンツがこのサーバー上にあることを確認します。
5. DMP の制御を確立するには、コンテンツなしで、[No Staging] を選択した状態でスクリプトを開始します。この実行に必要な時間は 10 分未満です。

注: コンテンツを指定してスクリプトをプッシュすることもできますが、ダウンタイムが長くなります。

## プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

注: このタスクではサービスの中断が必要です。

スケジュール済みのダウンタイムでは、プライマリ サーバをアクティブ サーバとして復元し、通常の動作環境を再度確立して、元のプライマリ サーバを障害からクリーンアップするか、ソフトウェア アップグレードの実行準備をし、IP アドレッシングを変更し、2 つのサーバ間で再度定期的なスケジュールのバックアップを設定します。

注: TUI のメニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、**Enter** を押します。

ここでは、次の作業について説明します。

- [プライマリサーバーをアクティブとして復元するための前提条件\(108 ページ\)](#)
- [セカンダリ サーバーでのサービスの停止と自動再起動\(108 ページ\)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更\(108 ページ\)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバーのネットワーク接続の確認\(108 ページ\)](#) (必須)
- [元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定\(109 ページ\)](#) (必須)
- [プライマリ サーバーへのネットワーク接続の確認\(109 ページ\)](#) (必須)
- [バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリ サーバの復元\(110 ページ\)](#) (適宜)
- [Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動\(110 ページ\)](#) (復元実行後に必要)

## プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

- 元のプライマリ サーバでの **Cisco Vision Director** の設定の確認(110 ページ) (必須)
- プライマリ サーバー ソフトウェアのアップグレード(111 ページ) (適宜)
- アップグレード後のバックアップ環境の再設定(111 ページ) (適宜)

## プライマリサーバーをアクティブとして復元するための前提条件

アクティブ セカンダリ サーバーに管理上の変更を加えた場合は、正常なバックアップを実行します。

セカンダリサーバーがまだアクティブな状態で、バックアップ環境を再設定し、[Cisco Vision Director Manage Software > System Backups] から手動バックアップを実行します。すると、最新のバックアップがプライマリ (非アクティブ) サーバーにコピーされます。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 \(87 ページ\)](#) を参照してください。

注: スマートソフトウェアライセンスでは、両方のサーバーを登録する必要があります。『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

## セカンダリ サーバーでのサービスの停止と自動再起動

セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動を行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは **SSH** クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバーでインストール担当者として **TUI** にログインします。  
  
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] を選択します。
3. [Configure as Secondary/Inactive] を選択します。
4. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
5. 「R」と入力し、**Enter** を押して、[Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。
6. [Shutdown Dynamic Signage Director software] を選択します。

## セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更

### 前提条件

セカンダリ サーバーの IP アドレスを変更する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- セカンダリ サーバの IP アドレスが必要です。
- **vi** エディタの使い方を理解している必要があります。**vi** エディタの使い方については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス \(113 ページ\)](#) を参照してください。
- [セカンダリ サーバーの IP アドレスの変更 \(103 ページ\)](#) の手順を参照してください。

## セカンダリ サーバーのネットワーク接続の確認

セカンダリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] を選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、セカンダリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。

## プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注:セカンダリ サーバに到達できない場合は、スイッチの ARP キャッシュのクリア(106 ページ)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。

## 元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定

元のプライマリ サーバでサービスの開始と設定を行う手順は次のとおりです。

1. 元の「プライマリ」サーバーの電源を入れます。

注:サーバが起動して SSH が使用できるようになるまでに数分かかる場合があります。

2. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、元の「プライマリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

3. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] を選択します。
4. [Promote as Primary/Active] を選択します。

Cisco Vision Director のサービスが開始され、同時に、再起動時に自動的に起動するように設定されます。

5. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
6. 元のプライマリの Cisco Vision Director サーバでスクリプトが実行されている場合は、スクリプトを終了します。

## プライマリ サーバーへのネットワーク接続の確認

プライマリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. 元の「プライマリ」サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] を選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、プライマリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、**Enter** を押します。
4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注:セカンダリ サーバに到達できない場合は、スイッチの ARP キャッシュのクリア(106 ページ)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。
7. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、**Enter** を押します。
8. **X** を押して TUI を終了します。

## バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリ サーバの復元

他のサーバへのフェールオーバー中に、システムに対して管理上の変更を加えた場合は、セカンダリからバックアップを復元します。

注: この手順では、プライマリ サーバを再度有効化する前に、セカンダリ サーバからプライマリ へのバックアップを実行しておく必要があります。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用して元のプライマリ サーバを復元する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して元の「プライマリ」サーバの **Cisco Vision Director** にログインします。
2. **Cisco Vision Director** メインメニューから、**[Configuration] > [System Configuration]** をクリックします。
3. **[Dashboard]** ドロワーで、**[Tools] > [Advanced] > [Restore system data from backup]** を選択します。
4. 復元するコンポーネントを選択します。
5. 復元に使用するバックアップ ファイルの日付を選択します。
6. **[Apply]** をクリックします。復元が開始されます。

## Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

**Cisco Vision Director** サーバで何らかの復元を実行した後は、**Cisco Vision Director** ソフトウェアを再起動してサービスの通常の運用を再開します。

**Cisco Vision Director** ソフトウェアを再起動する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは **SSH** クライアントを使用して、元の「プライマリ」サーバでインストール担当者として **TUI** にログインします。  
  
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. **[Cisco Vision Server Administration] > [Restart Cisco Vision Director Software]** に移動します。
3. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、**Enter** を押します。
4. **X** を押して **TUI** を終了します。

## 元のプライマリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認

元のプライマリ サーバで **Cisco Vision Director** の設定を確認する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して元の「プライマリ」サーバの **Cisco Vision Director** にログインします。
2. **Cisco Vision Director** の **[Main Menu]** で、**[More] > [Management Dashboard]** に移動します。
3. ダッシュボードのドロワーで、**[DMP and TV Controls] > [Monitoring] > [Get Status]** を選択します。  
  
DMP と **Cisco Vision Director** の間で正常に通信が行われていることを確認します。
4. すべてのコンテンツがこのサーバ上にあることを確認します。
5. 管理ダッシュボードでステータスを表示して、システムをテストします。
6. テスト スクリプトを実行してシステムの動作を確認します。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法

## プライマリ サーバー ソフトウェアのアップグレード

注: このタスクは、『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4](#)』の手順に従って冗長サーバーでソフトウェア アップグレードを実行する場合にのみ必要です。

「セカンダリ」サーバーでソフトウェアをアップグレードした後、元の「プライマリ」サーバーをアクティブ状態に復元したら、プライマリ サーバー ソフトウェアをアップグレードします。

## アップグレード後のバックアップ環境の再設定

セカンダリとプライマリの両方のサーバについてソフトウェアのアップグレードが完了したら、「セカンダリ」サーバでバックアップ アカウントを再度有効にし、「プライマリ」サーバで自動のバックアップと復元を設定するよう、バックアップ環境を再設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元 \(87 ページ\)](#)を参照してください。

プライマリ サーバーをアクティブに復元する方法





# Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス

テキストベースのユーザー インターフェイス (TUI) は、システム インストール担当者、管理者、およびトラブルシューティング担当者が使用するコンソールベースのインターフェイスを提供します。TUI は、あらゆる低レベルのシステム コマンドライン (シェル) へのアクセス要件に代わるもので、システム設定の変更、パスワードの変更、システムログのチェックなどの日常的なシステム タスクを実行します。機能停止や障害が発生した場合に備えて、リモート TAC へのアクセスとトラブルシューティングはいずれも TUI から実行できます。

## 目次

- [TUI に関する情報 \(113 ページ\)](#)
- [TUI の使用方法 \(117 ページ\)](#)
- [関連資料 \(119 ページ\)](#)

## TUI に関する情報

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [TUI メニューの概要 \(113 ページ\)](#)
- [TUI インターフェイスの操作 \(116 ページ\)](#)

## TUI メニューの概要

TUI はネスト構造のメニューになっていて、サーバーで実行する特定のシステム タスクまでドリルダウンするためのオプションがあります。主なメニューは次のとおりです。

- Main Menu
- System Settings
- System Accounts
- Services Control
- Cisco Vision Server Administration
- Troubleshooting

## TUI に関する情報

表 1(114 ページ)は、Cisco Vision Dynamic Signage Director の TUI に含まれている主なメニューの説明です。

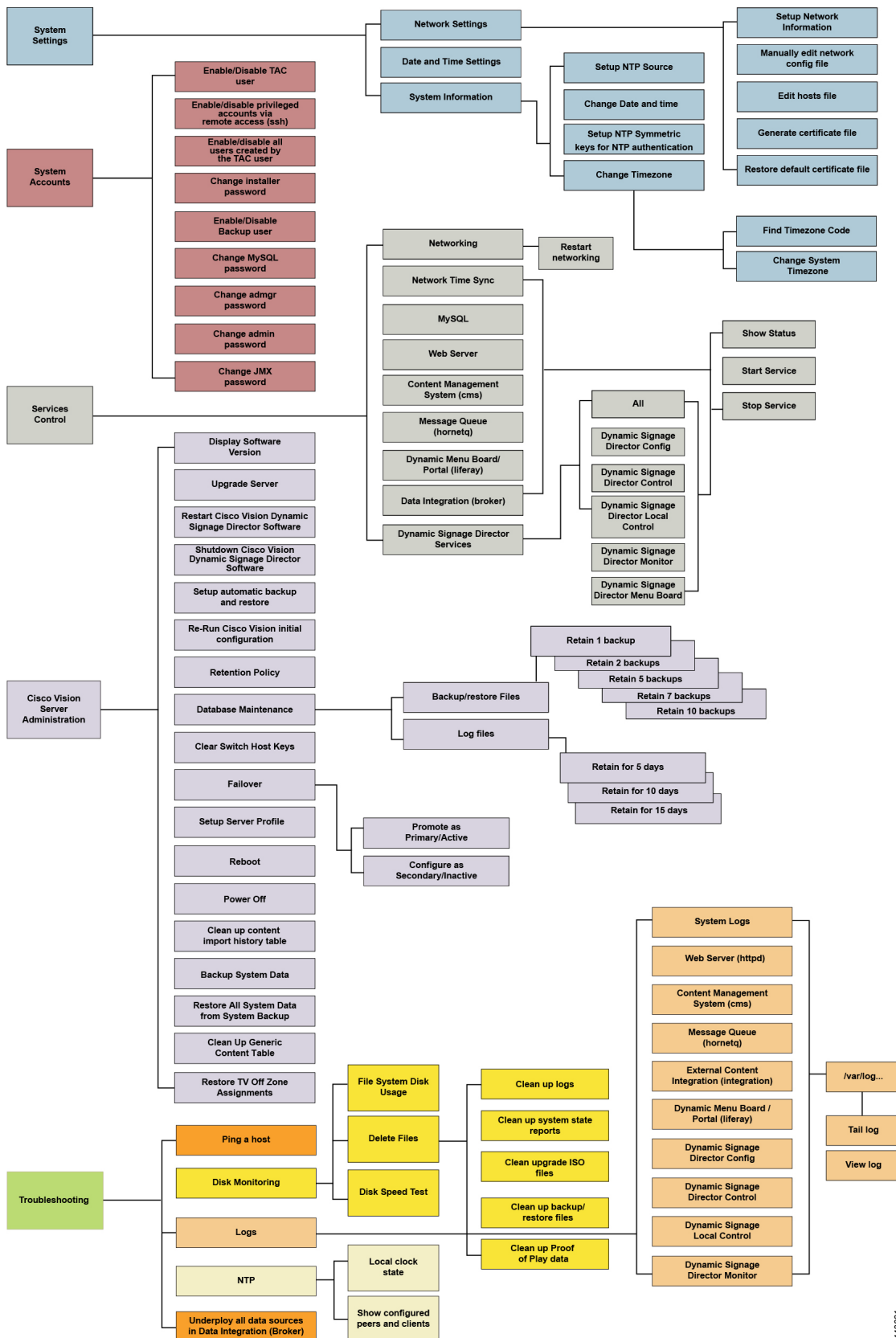
表 1 主な TUI メニューの説明

| メニュー名                              | メニューの用途...                                                                                                                                         |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Main Menu                          | 他のすべてのメニューにアクセスします。または TUI を終了します。                                                                                                                 |
| System Settings                    | サーバのネットワーク構成、システムの日付/時間、またはディスプレイ システム情報を変更します。                                                                                                    |
| System Accounts                    | デフォルトのシステム パスワードを管理します。<br><br>システム アカウントとその変更の詳細については、「 <a href="#">Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのシステム アカウント(73 ページ)</a> 」を参照してください。 |
| Services Control                   | サーバーで実行されているサービスにアクセスして、開始、停止、またはステータスを表示します。                                                                                                      |
| Cisco Vision Server Administration | サーバの動作とソフトウェア設定を管理します。                                                                                                                             |
| Troubleshooting                    | <b>ping</b> コマンドの実行、ディスク容量の使用状況の監視、ファイルの消去とディスク容量の解放、ディスク速度のテスト、システム ログ情報の表示、または NTP 情報の取得を行います。                                                   |

図 1(115 ページ)は、新しい Cisco Vision Dynamic Signage Director の TUI メニュー システムとオプションの全体図です。

TUI に関する情報

図 1 Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーの TUI 全体図



44831

## TUI に関する情報

## TUI インターフェイスの操作

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [メニュー ナビゲーション\(116 ページ\)](#)
- [ファイル エディタ\(116 ページ\)](#)

## メニュー ナビゲーション

メイン メニューはログイン時に表示されます。メニュー内を移動するには、メニュー領域の項目に対応する文字 (**a**、**b**、**c** など)を入力して、**Enter** を押します。

他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用して前のメニューに戻ります。

**注意:** TUI で **Ctrl+C** を押さないでください。セッション中にサービスが開始されていた場合、サービスの実行が停止される可能性があります。インターフェイスの終了には **TUI** のメニュー システムを使用してください。

## ファイル エディタ

一部の TUI オプションでは、UNIX システムの **vi** エディタを使用して変更を加えるためのサーバシステム ファイルが開きます。次の設定ファイルは TUI から編集が可能です。

- DNS 情報: `/etc/resolv.conf`
- NTP サーバー情報: `/etc/ntp.conf`
- サーバー ホスト情報: `/etc/hosts`

設定ファイルに変更を加える際は、**vi** エディタ内で使用する簡単な編集操作についての知識が必要になります。[表 2 \(116 ページ\)](#)では、**vi** エディタでよく使用されるコマンドについていくつか説明します。

表 2 一般的な **vi** エディタ コマンド

| コマンド                     | 説明                                    |
|--------------------------|---------------------------------------|
| <b>ZZ</b> または <b>:wq</b> | <b>Vi</b> を終了し、変更を保存します。              |
| <b>:q!</b>               | 変更を保存しないで <b>vi</b> を終了します。           |
| <b>Esc</b> キー            | 現在のモードを終了し、 <b>vi</b> コマンド モードを開始します。 |
| <b>カーソルの移動</b>           |                                       |
| <b>h</b>                 | 左に移動します ( <b>Backspace</b> )。         |
| <b>j</b>                 | 下に移動します。                              |
| <b>k</b>                 | 上に移動します。                              |
| <b>l</b>                 | 右に移動します。                              |
| <b>Enter</b> キー          | 次の行の先頭に移動します。                         |
| <b>挿入</b>                |                                       |
| <b>a</b>                 | カーソルの後に文字を追加します。                      |
| <b>i</b>                 | カーソルの前に文字を挿入します。挿入モードを開始します。          |
| <b>r</b>                 | カーソルの下にある文字を、次に入力した文字に置き換えます。         |
| <b>R</b>                 | <b>Esc</b> を押すまで文字の置き換えを続けます。         |

## TUI の使用方法

表 2 一般的な vi エディタ コマンド(続き)

| コマンド       | 説明                           |
|------------|------------------------------|
| 削除         |                              |
| <b>db</b>  | カーソルの前の単語を削除します。             |
| <b>dd</b>  | カーソルの下の行を削除します。              |
| <b>dw</b>  | カーソルの下の単語を削除します。             |
| <b>x</b>   | カーソルの下の文字を削除します。             |
| <b>Put</b> |                              |
| <b>P</b>   | カーソルの前の文字、単語、または行の削除を取り消します。 |
| <b>p</b>   | カーソルの後の文字、単語、または行の削除を取り消します。 |

## TUI の使用方法

このセクションでは、TUI インターフェイスのいくつかの領域について、その使用方法を説明します。説明する項目は次のとおりです。

- [TUI へのログイン\(117 ページ\)](#)
- [システム情報の表示\(118 ページ\)](#)
- [TUI の終了\(118 ページ\)](#)

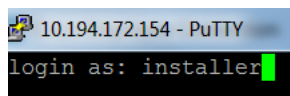
## TUI へのログイン

TUI にアクセスするには、物理コンソールからのアクセスを使用するか、PuTTY などの SSH クライアントを使用します。

TUI にログインする手順は次のとおりです。

1. 次のいずれかを実行します。
  - 直接接続しているコンソールを使用して、サーバにアクセスします。
  - SSH クライアント ソフトウェアで、アクセスするサーバーの IP アドレスを指定します。
2. 「login as:」というプロンプトが表示されたら、「installer」と入力し、**Enter** を押します(図 2(117 ページ))。

図 2 TUI のログインプロンプト



3. パスワードのプロンプトで、インストーラのパスワードを入力し、**Enter** を押します。

注:PuTTY ターミナルでは、パスワードとして入力したキーストロークは表示されません。

## TUI の使用方法

ログインに成功すると、メイン メニューといくつかの基本的なシステム情報が画面の上部に表示されます(図 3(118 ページ))。

図 3 Cisco Vision Dynamic Signage Director TUI のメイン メニュー

```

Cisco Vision Dynamic Signage Director Configuration Menu
0
Hostname: sv-director
IP address: 10.194.170.188
Software version: 6.2.0 build 332

Main Menu

Please choose one of the following menu options:
a) System Settings
b) System Accounts
c) Services Control
d) Cisco Vision Server Administration
e) Troubleshooting
X) Exit

```

注: ログイン後、[System Accounts] > [Change installer password] メニュー オプションからインストーラのパスワードを変更できます。

注: 変更後のインストール担当者のパスワードを必ず記録してください。シスコがパスワードを回復することはできません。パスワードを忘れた場合は、再インストールが必要になることがあります。

## システム情報の表示

[System Settings] > [System Information] オプションでは、サーバ、現在のネットワーク構成、ホスト ファイル、DNS の設定、NTP サーバ、システムの日付と時刻、およびサーバの UUID に関する情報を取得できます。

システム情報を表示する手順は次のとおりです。

1. TUI のメイン メニューに移動します。
2. [System Settings] を選択し、**Enter** を押します(図 3(118 ページ))。
3. [System Settings] メニューで、[System Information] のオプションに対応する文字を入力し、**Enter** を押します。  
システム情報が画面に表示されます。
4. 任意のキーを押すと [System Settings] メニューに戻ります。

## TUI の終了

注意: TUI で **Ctrl+C** を押さないでください。セッション中にサービスが開始されていた場合、サービスの実行が停止される可能性があります。インターフェイスの終了には TUI のメニュー システムを使用してください。

TUI を終了する手順は次のとおりです。

1. TUI のメイン メニューに移動します。  
注: TUI のサブメニューにいる場合は、「R」、「<」、または「,」を入力し、**Enter** を押すとメイン メニューに戻ります。
2. 「X」と入力し、**Enter** を押します。

関連資料

## 関連資料

TUI の具体的な領域の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- 本書『Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバ管理ガイド』の他のモジュール
- [Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4](#)

関連資料



# システム状態レポート

システム状態レポート アプリケーションを使用すると、Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバのシステム状態データを簡単に取得およびエクスポートできます。この情報は、システムで発生した問題のトラブルシューティングに役立てるために、遠隔地のサポート エンジニアに送信します。

## システム状態レポートに関する情報

図 1 (121 ページ) は、システム状態レポート画面を示しています。

図 1 システム状態レポート画面

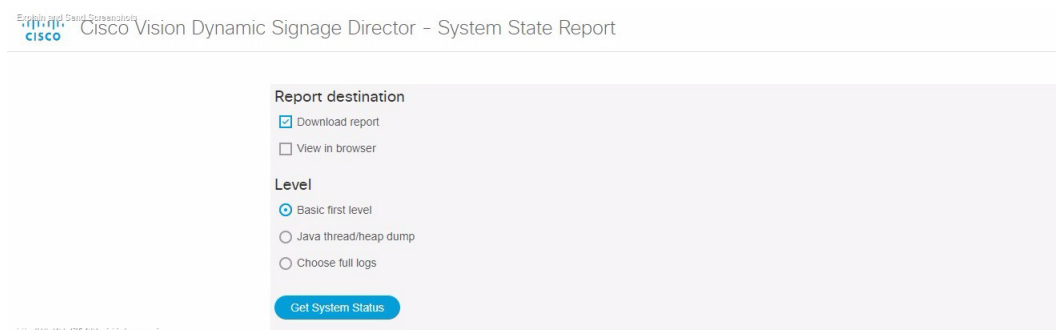


表 1 (121 ページ) は、システム状態レポート画面で提供されるオプションの説明です。

表 1 システム状態レポート画面の説明

| カテゴリ               | 説明                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Report Destination | <p>レポートをダウンロードするかブラウザ ウィンドウで表示するかを選択できます。<b>[Download report]</b> をオンにすると、システム状態レポートの準備ができた時点でブラウザから結果のレポートがダウンロードされます。このファイルをコンピュータに保存したり、内容を表示したり、サポート担当者に電子メールで送信したりできます。</p> <p><b>[View in browser]</b> をオンにすると、提供されるリンクを通じて結果のレポートをすぐにオンラインで表示できます。</p> |

表 1 システム状態レポート画面の説明(続き)

| カテゴリ             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Level            | <p>レポートに必要な詳細レベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>[Basic First Level]</b>: システム状態の詳細情報を提供します。たとえば、ハードウェア、オペレーティング システム、データベース、Java VM、および SV アプリケーションについて、設定と現在のパフォーマンスに関する情報などを提供します。</li> <li>■ <b>[Java Heap Dump]</b>: 選択した Java 仮想マシン (JVM) の内部アクティビティを示すレポートを表示します。レポートを実行する前に、プロセス ID、JVM の名前、JVM のコマンドラインを示す選択画面が表示されます。ヒープ ダンプを取得するいずれかの JVM を選択し、<b>[Get Heap Dump]</b> をクリックします。ヒープ ダンプレポートが生成されます。<br/><br/>ヒープ ダンプの取得には注意が必要です。実行中にシステムのパフォーマンスが影響を受けることがあります。</li> <li>■ <b>[Full SVD Logs]</b>: システム ログ ファイルのリストを表示します。サーバから取得してローカル ドライブにコピーするか、シスコ サポートに送信できます。<b>[View in Browser]</b> を選択した場合は、ログがオンラインでも表示されます。</li> </ul> |
| Previous Reports | <p>収集されたシステム状態レポートの最近のエクスポートを最大 15 件一覧表示します。レポートは、この要求ページにアクセスしているユーザーから、またはシステムのスケジューリング設定済みタスクから収集されます。</p> <p>いずれかのリンクを選択して、ローカル ドライブにダウンロードするか、シスコ サポートに電子メールで送信します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## システム状態レポートの実行方法

ここでは、次の作業について説明します。

- システム状態レポートのスケジュール設定 (123 ページ)
- レポートの表示 (123 ページ)

## システム状態レポートの手動実行

システム状態レポートを手動で実行する手順は次のとおりです。

1. Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのメインメニューで、**[More] > [System State Report]** をクリックします。
2. レポート宛先タイプとして **[Download report]** と **[View in browser]** のいずれか 1 つまたは両方を選択します。
3. **[Level]** で、実行するレポートのタイプを選択します。
4. **[Get System Status]** をクリックします。レポートの生成中はステータス バーが表示されます。

## システム状態レポートのスケジュール設定

システム状態データは定期的に抽出できます。[System State Report] のメイン ページの [Previous Reports] に、生成されたレポートが表示されます。

スケジュール設定済みタスクを作成する手順は次のとおりです。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Scheduled Tasks] をクリックします。
2. [Add] をクリックします。[Schedule Task – Add] ダイアログボックスが表示されます。
3. [Task Type] フィールドに **SystemStateExtractorTask** と入力します。
4. 必要に応じて、タスクの時間を入力します。
5. 必要に応じて [Servers] ボックスをオンにします。
6. [保存(Save)] をクリックします。

[System State Report] のメイン ページの [Previous Reports] に、生成されたレポートが表示されます。

## レポートの表示

レポートを手動で実行すると、画面に「Report is ready」と表示されます(図 2(123 ページ)を参照)。

図 2 Report is ready



レポートを実行する前に選択したオプションに応じて、提供されるリンクをクリックしてレポートをブラウザで表示できます。

レポートをダウンロードした場合は、ブラウザとその設定に応じて、レポートをローカルマシンに保存するためのダイアログボックスが表示されます。自動ダウンロードが機能しない場合は、語句「Download」の後にあるリンクをクリックして再度ファイルをダウンロードします。レポートは、レポートへの複数のパートを含む圧縮ファイル(.zip)としてダウンロードされます。

**注:** ヒープ ダンプ レポート タイプは圧縮レポートファイルであり、ローカルドライブに保存してトラブルシューティング用にサポート担当者に転送できます。このレポートは「Basic Level」レポートと同様にパッケージ化されます。

## スケジュール設定済みレポートと以前のレポートの表示

[System State Report] 画面の [Previous Reports] で、スケジュール設定済みレポートを表示します。ファイル名の形式は、レポートが実行された日時です。

スケジュール設定された時刻に実行されたレポートをダウンロードするには、[Previous Reports] でいずれかのタイムスタンプをクリックします。レポートをローカルマシンに保存するダイアログボックスを表示することもできます。その場合は、必要に応じて保存します。これは、レポートへの複数のパートを含む圧縮ファイルです。

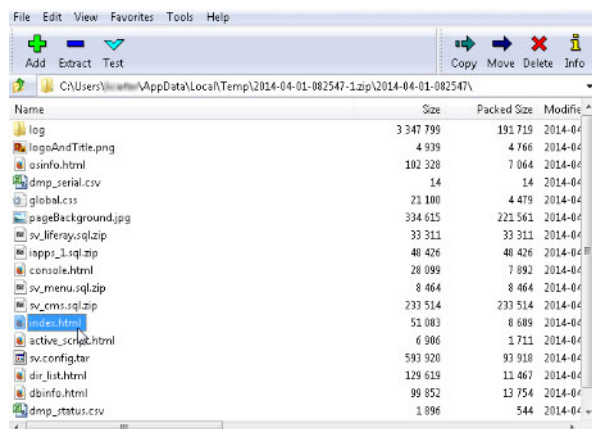
## Zip ファイルの内容の表示

PC にダウンロードされるレポート ファイルは .zip ファイルです。このファイルはそのまま電子メールでシスコ サポートに送信することができます。

ダウンロードしたファイルの内容を表示する手順は次のとおりです。

1. ファイルをダブルクリックして、.zip ファイル アーカイブ マネージャを開きます。このファイルの内容は、PC にインストールされているファイル圧縮ソフトウェア プログラムによって異なります。図 3(124 ページ)は Microsoft Windows の一般的な圧縮ファイル マネージャの例で、.zip ファイルを開いて内容を表示しています。

図 3 Windows 圧縮ファイル マネージャの例



2. [Extract] をクリックすると、アーカイブ内のすべてのファイルがローカル ドライブの新しいディレクトリにロードされます。
3. 作成したディレクトリに移動し、**index.html** という名前のファイルを探します。ファイルをダブルクリックし、インターネット ブラウザで開きます。
4. ブラウザのページからリンクをクリックして、レポートの残りの部分を表示します。

**ヒント:** ヒープ ダンプ レポートとログ ファイル レポートの場合は、「index.html」ファイルはありません。目的のログ ファイルが表示されるまで、フォルダの下のレベルに移動していきます。